CTK-601

取扱説明書（保証書別添）

この取扱説明書は、お読みになったあとも、
保証書とともに、大切に保管してください。

CTK601JA-1

CASIO

安全上のご注意

このたびは、カシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警　告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注　意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は「気をつけるべきこと」を意味しています。（左の例は感電注意）

⃠記号は「してはいけないこと」を意味しています。（左の例は分解禁止）

●記号は「しなければならないこと」を意味しています。（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

⚠ 警　告

ACアダプターの取り扱いにご注意ください

- 表示された電源電圧（交流100V）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはカシオサービスセンターで新しいACアダプターをお買い求めください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 本機指定のACアダプターをご使用ください。指定以外のACアダプターを使用すると、火災・感電の原因となります。

本機やスタンドを不安定な場所に置かないでください

- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

⚠ 警　告

水などの入った容器などを置かないでください

- 本機の上に次のものを置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
  - ＊ 水などの入った容器。（花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など）
  - ＊ 小さな金属物。（ヘアピン、縫い針、硬貨など）
  - ＊ 燃えやすいもの。

  万一、異物が本機の内部に入った場合は、次の処置を行なってください。
  1. 電源スイッチを切る。
  2. ACアダプター本体をコンセントから抜く。
  3. 電池が入っている場合には電池を抜く。このとき、電池に直接手で触れないでください。電池が高温になっていたり、電解液が噴出する場合があります。
  4. 販売店またはカシオサービスセンターに連絡する。

分解・改造はしないでください

- 本機、および付属品、別売品を分解、または改造しないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店またはカシオサービスセンターにご依頼ください。

異常・故障状態で使用しないでください

- 煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態で使用しないでください。また、電源が入らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行なってください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。
  1. 電源スイッチを切る。
  2. ACアダプター本体をコンセントから抜く。
  3. 電池が入っている場合には電池を抜く。このとき、電池に直接手で触れないでください。電池が高温になっていたり、電解液が噴出する場合があります。
  4. 修理を販売店またはカシオサービスセンターに依頼する。

本機を落としたときは

- 万一、本機を落としたり、破損した場合は、次の処置を行なってください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
  1. 電源スイッチを切る。
  2. ACアダプター本体をコンセントから抜く。
  3. 電池が入っている場合には電池を抜く。このとき、電池に直接手で触れないでください。電池が高温になっていたり、電解液が噴出する場合があります。
  4. 販売店またはカシオサービスセンターに連絡する。

ポリ袋をかぶらないでください

- 本機や付属品または別売品が入っているポリ袋をかぶらないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。窒息の原因となります。

⚠ 注 意

ACアダプターについて

- 電源コードをストーブ等の熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ACアダプターをコンセントから抜くときは、必ずACアダプター本体を持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷ついたり切れたりして、火災・感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で、コンセントに差し込んであるACアダプターに触れないでください。感電の原因となることがあります。
- 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプター本体をコンセントから抜いてください。
- 使用後は本機の電源スイッチを切り、ACアダプター本体をコンセントから抜いてください。

乾電池について

- 電池の誤った使い方は、破裂、液もれにより、けがや、液もれの付着による家具などの変色の原因となることがあります。
  次のことを必ずお守りください。
  * 極性（＋－）の向きを、本体表示通りに正しく入れてください。
  * 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全、液もれ防止のため、必ず電池を本機から抜いてください。
  * 同じ種類の電池を使ってください。
  * 新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。
  * 火中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱をしないでください。
  * 消耗したときはすぐに取り出してください。
  * 充電は絶対にしないでください。

移動させるときは

- 移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから抜き、その他の外部の接続線をはずしたことを確認の上、行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電池が消耗したときの状態について

下記のような状態になった場合は、電池が消耗しています。速やかに、新しい電池とお取り替えください。

- **電源ランプ**が暗くなった。
- 液晶表示がうすくなった。
- 音量が小さくなった。
- 音質が劣化した。
- 大きな音を出すと、時々音が途切れる。
- 大きな音を出すと、突然電源が切れる。
- 大きな音を出すと、液晶表示がうすくなる。
- リズムやデモ演奏曲などが正しく発音されない。

⚠ 注 意

お手入れについて

- お手入れの際は、安全のためACアダプター本体をコンセントから抜いて行なってください。また、電池が入っている場合には、電池を抜いて行なってください。

設置場所について

- 湿度の高い場所やほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿機のそばなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本機を、家具などの塗装面に直接置かないでください。本機底面のゴム足と塗料が反応し、塗装面が汚れたり、傷つくことがあります。ゴム足の下にフェルトなどの布を敷くか、スタンドをご使用ください。

本機に重いものを置かないでください

- 本機に重いものを置かないでください。倒れたり、落ちたりしてけがの原因となることがあります。

音量について

- 本機のみ、あるいは本機をヘッドホン、アンプ、スピーカーなどと組み合わせて使用する場合、設定によっては難聴になる程度の音量となることがあります。大きい音量で長時間ご使用しないでください。万一、聴力の低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

液晶表示について

- 液晶表示を強く押したり、強い衝撃を与えないでください。液晶表示のガラスが割れてけがの原因となることがあります。
- 液晶表示が割れた場合、表示内部の液体には絶対に触れないでください。皮膚の炎症の原因となることがあります。
  * 万一、口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。
  * 目に入ったり、皮膚に付着した場合は、清浄な流水で最低15分以上洗浄した後、医師に相談してください。

本機の上やスタンド※に乗らないでください

- 本機の上やスタンドに乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

スタンド※について

- スタンドに記載されている組み立ての説明にしたがって、しっかりと組み立ての上、本機を正しく設置してご使用ください。
  ネジが正しい位置にしっかりと固定されていなかったり、本機の位置がずれていたりすると、スタンドが倒れたり、本機が落ちたりして、けがの原因となることがあります。

※ スタンドは別売品です。

主な特長

CTK-601 は次のような特長を備えたキーボードです。

■200 音色で演奏できます（200 音色）

8

オーケストラ楽器やシンセサウンド、ドラムセットなど、本体で 168 プリセット音色＋32 ユーザー音色が楽しめます。

■100 種類のリズムに合わせて演奏できます（100 リズム）

10

ロックやポップス、ジャズなど 100 種類のリズムを備えています。

■一人でアンサンブル演奏のような楽しさが味わえます（自動伴奏機能）

10

コードを指定するだけでリズム、ベース音、コード楽器の伴奏が自動的に演奏されます。また、リズムごとにプログラムされた代表的なコード進行に合わせてアンサンブルを楽しむことも可能です（フリーセッション機能）。

■演奏内容を録音してオリジナル曲が作れます（メモリー機能）

25

最大 6 パートの演奏内容を本体内に録音し、パートごとの音色、音量、左右の再生位置などを調節して聞くことができます。自動伴奏機能と組み合わせることで、本格的なアンサンブルの曲作りも行えます。

■オリジナルの音色が作れます（シンセ機能）

19

内蔵音色を加工してオリジナルの音色を作ることができます。でき上がった音色は、本体に 32 種類まで記憶させることが可能です。

■DTM 用の入力キーボード／音源として利用できます（GM 対応）

40

コンピューターを利用したDTM（デスクトップ･ミュージック）を楽しむためのGM（General MIDI）音色を内蔵。DTM 用の入力キーボード／音源として利用できます。また市販の GM 用ミュージック・データを楽しむ用途にも最適です。

■サウンドに残響音を加えて臨場感が出せます（リバーブ機能）

9

サウンドに残響音を加えるリバーブ機能を内蔵しています。リバーブの種類に応じて、練習スタジオ、ステージ、コンサートホールで聴いているような臨場感が楽しめます。

目次

安全上のご注意 ..... 表紙裏

主な特長 2

目次 2

各部の名称 4
■デモ演奏の聴き方／■液晶表示の見方

電源について 6
家庭用100V電源で使うときには 6
■ACアダプターについて
電池で使うときには 6
■電池について
オートパワーオフ機能 7
■オートパワーオフ機能について／■オートパワーオフ機能をキャンセルするには
設定とメモリー内容について 7
■設定の保持／■メモリー内容の保持／■電源の役割／■設定や記憶内容を保つためには

基本的な操作 8
音を出してみましょう 8
音色を選ぶには 8
■音色番号128～199の音色名について／■同時発音数について／■デジタルサンプリングの音色について
リバーブの効果を変えてみましょう 9
ピッチベンダーを使ってみましょう 9
ドラムパッドを叩いてみましょう 9
■ドラムパッドの音色について

自動伴奏を鳴らしてみましょう 10
リズムを選ぶには 10
リズムを鳴らすには 10
テンポを調節するには 11
コード自動伴奏を鳴らすには 11
■カシオコードについて／■フィンガードについて／■フルレンジコードについて
イントロを入れるには 13
フィルインを入れるには 13
同じリズムで演奏パターンを変化させるには 14
バリエーションのリズムにフィルインを入れるには . 14
伴奏とリズムを同時にスタートさせるには 14
エンディングを付けて曲を終わらせるには 14
フリーセッションを楽しむには 15

伴奏の音量を変えるには 15
不要なパートをキャンセルするには 15

ミキサー機能を利用するには 16
ミキサー機能でできること 16
■各チャンネルに対応する楽器パートについて
チャンネルごとオン／オフ／ソロを設定するには（チャンネルエディットモード） 16
■チャンネルオン／オフ／ソロの働きについて
特定のチャンネルの特徴を変えるには（パラメーターエディットモード） 17
■各パラメーターの働きについて

シンセ機能を使ってみましょう 19
シンセ機能について 19
■パラメーターの種類と働きについて／■1DCOの音色と2DCOの音色について／■オリジナル音色の保存について
オリジナル音色を作るには 21
■各パラメーターの働きと設定値／■オリジナル音色作りのヒント
オリジナル音色に名前を付けて保存するには 23

メモリー機能を使って演奏を録音してみましょう 25
トラックについて 25
■トラックを選択するには
メモリーボタンの使い方 25
演奏をそのまま録音するには（リアルタイム録音） 25
■リアルタイム録音でトラック１に記録される内容
タッチレスポンス機能の設定について 26
ミキサー機能の設定について 26
■録音できる長さ（メモリー容量）／■録音内容の保持について／■トラック１にリアルタイム録音する場合の応用例
メモリーを再生してみましょう 27
自動伴奏のコードを１つずつ録音するには（コードのステップ録音）. 28
■ステップ録音でトラック１に記録される内容／■ノーマルモードによるコードの指定方法／■音の長さを決めるには■トラック１にステップ録音する場合の応用例
音を重ねて録音するには 30
■リアルタイム録音でトラック２～６に録音される内容／■ステップ録音でトラック２～６に録音される内容／■特定のトラックの音をオフにするには／■録音／エディット待機状態のレベルメーターの表示について／■液晶表示の音符情報の対象トラックを選ぶには
ステップ録音中にミスした場合 32
録音した内容を修正するには（エディット機能） 33
■エディットの方法とディスプレイの表示について
録音した個々のデータを消去するには 34
特定のトラックを消去するには 35

設定を変えるには 36
レイヤー機能を利用するには 36
スプリット機能を利用するには 37
レイヤーとスプリットを同時に使うには 37
タッチレスポンス機能を利用するには 38
トランスポーズ機能を利用するには 39
チューニング機能を使うには 39

MIDIを使うには 40
MIDIについて 40
■MIDIの接続について／■MIDIチャンネルについて
GMについて 40
■本機で送受信可能なメッセージ
MIDIの設定を変えるには 42
■パラメーターの働きとその表示について
内部データのバルク送受信 45
■バルク送信するときの操作（設定内容を外部記憶機器に保存する）／■バルク受信するときの操作（設定内容を外部記憶機器から読み込む）

困ったときは 46

資料 48
音色別発音域表 48
フリーセッションリストのコード進行一覧表（根音がCのとき） 49
ドラム音色リスト 50
フィンガードコード一覧表 51

接続するには 52
■ヘッドホン／アウトプット端子について／■アサイナブル端子について／■付属品・別売品について

索引 53

製品仕様 54

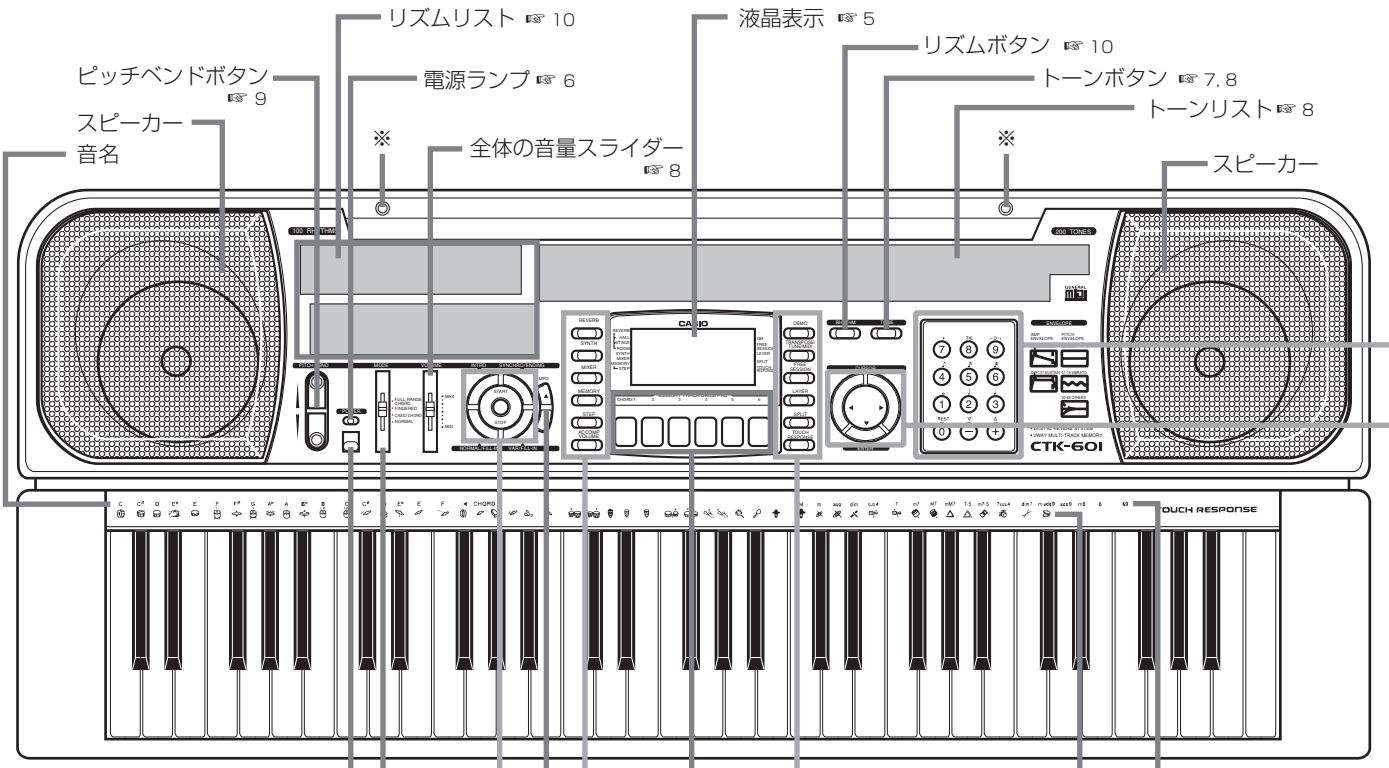
カシオトーン用ソフトのご紹介 55
■自動伴奏機能付カシオトーン全機種対応レッスンビデオ／■楽譜集

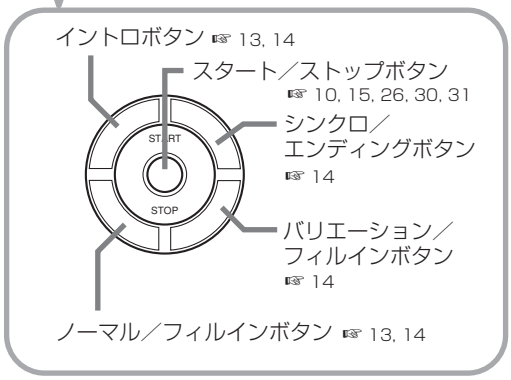
ご使用上の注意 55

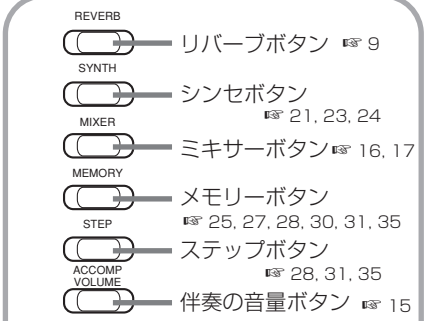
保証・アフターサービスについて 56

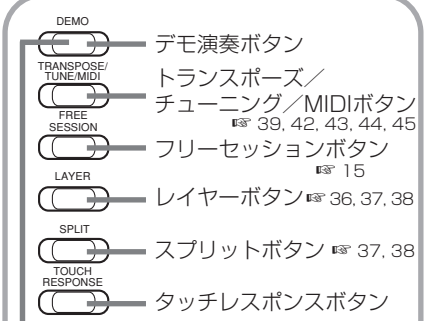
MIDIインプリメンテーション・チャート 57

各部の名称



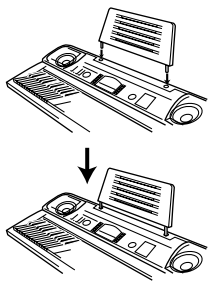






※譜面立ての立て方

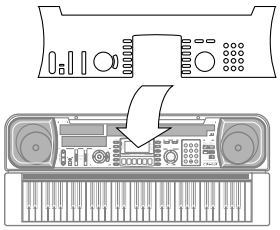
譜面立ては、本体の上面にある 2 つの穴にその両端を差し込んでお使いください。



和文操作シートをセットしましょう

和文操作シートを本体の上にのせてください。

操作説明は、すべてこの和文操作シート上の文字を使用しています。



■デモ演奏の聴き方

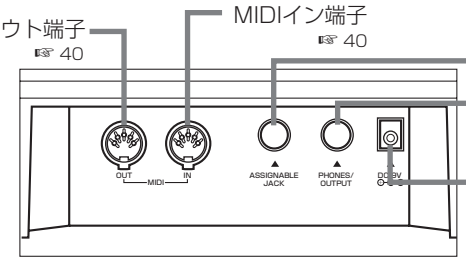
デモ演奏ボタンを押すとデモ演奏が開始されます。デモ演奏は 2 曲あり、繰り返し再生を続けます。デモ演奏を停止したいときは**デモ演奏**ボタンまたは**スタート／ストップ**ボタンを押します。

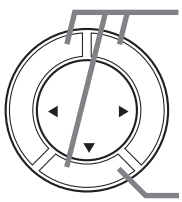
NOTE

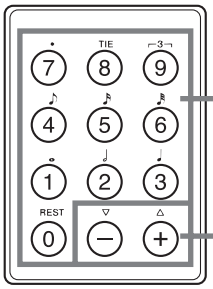
- デモ演奏中に＋／－ボタンを押すと、次のデモ演奏にスキップします。
- デモ演奏を始める前に鍵盤の音色を決めておくと（8ページ参照）、デモ演奏中にその音色で鍵盤演奏が楽しめます。
- デモ演奏中は MIDI、レイヤー、スプリット機能が使用できません。

● ☞ の数字は、参照ページです。
● 各部の名称は、本書の説明文中で太字で記載されます。

【背面図】







■液晶表示の見方

リバーブ、シンセ、ミキサー、メモリーの各機能を使用しているとき、それに対応するドット（小さな四角い点）が点灯します（この例では、リバーブ機能の“ROOM”を使用しています）。

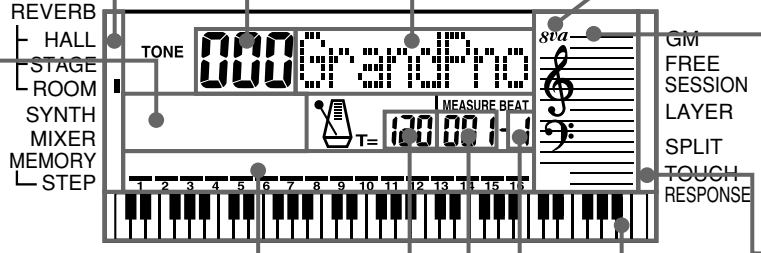
音色名を表します。
●**音色番号／音色名の表示欄は、リズム番号とリズム名を表示したり、シンセ機能、ミキサー機能、メモリー機能などさまざまな機能の表示にも使われます。**

《オクターブ記号》
本機で発音中の音が、音符の表示より1オクターブ高いときに点灯します。

音色番号を表します。

自動伴奏を利用するときに、コードネームが表示されます。

弾いた鍵盤の音の高さや、メモリー機能の演奏内容、コードフォーム、MIDIで受信したデータ※などを五線上に表示します。



《レベルメーター》
各チャンネルの強弱（ベロシティレベル）を3段階で表示します。その他、ミキサー機能のチャンネルオン／オフの表示にも使われます。

GMモード、フリーセッション、レイヤー、スプリット、タッチレスポンスの各機能を使用しているとき、それに対応するドットが点灯します。

リズムや自動伴奏、メモリー機能を利用するときに、小節数を表します。

リズムや自動伴奏、メモリー機能を利用するときに、テンポを1分間に演奏される拍数で表します。
● **テンポの表示欄は、ミキサー機能の設定値の表示や、メモリー機能のクロックの表示にも使われます。**

リズムや自動伴奏、メモリー機能を利用するときに、拍数を表します。
● **小節数と拍数の表示欄は、ミキサー機能のチャンネルの表示や、シンセ機能のパラメーターの表示などにも使われます。**

弾いた鍵盤の音の高さや、メモリー機能の演奏内容、コードフォーム、MIDIで受信したデータ※などを表示します。

※ 表示できる範囲 (C2～C7)より、高い音や低い音を受信したときは、表示されません。

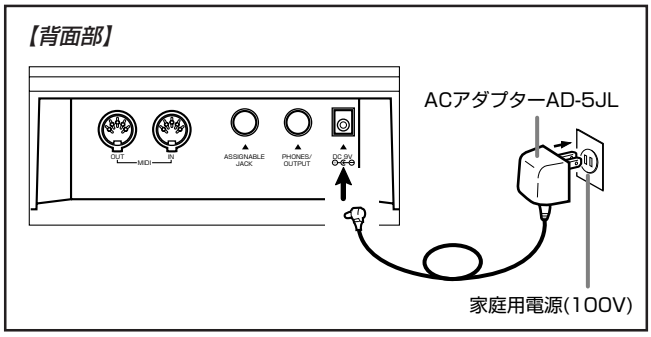
電源について

本機は家庭用 100V 電源、電池が使える 2 電源方式です。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

家庭用100V電源で使うときには

本機指定の AC アダプターを接続してください。

本機指定 AC アダプターの型式：AD-5JL



■ AC アダプターについて

⚠ 警告

- 電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- 本機指定の AC アダプターをご使用ください。指定以外の AC アダプターを使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

- 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全のため必ず AC アダプター本体をコンセントから抜いてください。
- 使用後は本機の電源を切り、AC アダプター本体をコンセントから抜いてください。

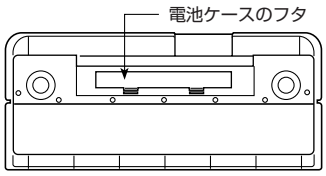
重要

- AC アダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- AC アダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱を持ちますが、故障ではありません。

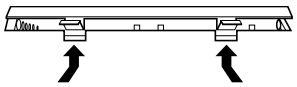
電池で使うときには

電池を入れる前には、必ず電源を切ってください。

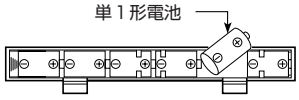
【底面部】



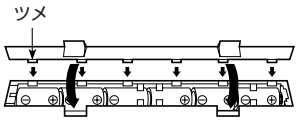
1. 電池ケースのフタをはずします。



2. 単 1 形電池 6 本を入れます。
   - ⊕ ⊖ の向きに注意してください。



3. 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。



★ *電源を入れたまま電池を交換すると、正常に機能しない場合があります。この場合、一度電源を切ってから再び電源を入れ直してください。*

■電池について

●電池持続時間は、通常演奏にて下記の通りです。

- マンガン電池使用時‥‥‥約 5 時間※

※常温にて、適切な音量で使用した場合の標準値です。大きめの音量や極端な低温下で使用すると、電池持続時間が短くなります。

●下記のような状態になった場合は、電池が消耗しています。速やかに、新しい電池とお取り替えください。

- **電源ランプ**が暗くなった。
- 液晶表示がうすくなった。
- 音量が小さくなった。
- 音質が劣化した。
- 大きな音を出すと、時々音が途切れる。
- 大きな音を出すと、突然電源が切れる。
- 大きな音を出すと、液晶表示がうすくなる。
- リズムやデモ演奏曲などが正しく発音されない。

⚠ 注意

電池の誤った使い方は、破裂、液もれにより、けがや、液もれの付着による家具などの変色の原因となることがあります。次のことを必ずお守りください。

- 極性(⊕／⊖)の向きを、本体表示通りに正しく入れてください。
- 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全、液もれ防止のため、必ず電池を本機から抜いてください。
- 同じ種類の電池を使ってください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。
- 火中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱をしないでください。
- 消耗したときはすぐに取り出してください。
- 充電は絶対にしないでください。

オートパワーオフ機能

■オートパワーオフ機能について

電源を入れたまま、本機を放置すると、自動的に電源が切れる機能です。
無駄な電力消費を防ぐ自動節電機能で、操作完了後約 6 分で自動的に電源が切れます。
この場合、**電源**ボタンを押すと、再び電源が入ります。

参考 ● アダプターを使用しているときは、オートパワーオフ機能は働きません。

■オートパワーオフ機能をキャンセルするには

● **トーン**ボタンを押したまま、電源を入れます。

★ *このときは、放置しておいても電源が切れることはありませんので、状況に応じてご利用ください。*

設定とメモリー内容について

■設定の保持

本機では、**電源**ボタンの操作やオートパワーオフ機能の働きで電源が切れた後も、選んだ音色やリズムの種類など演奏のための主な設定※が記憶されており、次に電源を入れたときに同じ設定になります。

※演奏のための主な設定

音色番号、レイヤー、スプリット、スプリットポイント、タッチレスポンス、リバーブ、リズム番号、テンポ、ミキサーの設定（チャンネル　オン／オフ／ソロ、プログラムチェンジナンバー、ボリューム、パンポット）、GM モード　オン／オフ、ベーシックチャンネル、MIDIインコードジャッジ　オン／オフ、アカンプMIDIアウト　オン／オフ、ナビゲートトラック、ピッチベンドレンジ、アサイナブルジャックの設定、伴奏の音量、ユーザーエリアの音色

■メモリー内容の保持

上記の設定と同様、シンセ機能、メモリー機能で本機に記憶させた内容も（電源を切っても）残っています。

■電源の役割

上記の設定やメモリーは、本機への電源供給が続いている限り保たれます。電池を入れずに AC アダプターを抜いたり、電池作動中に電池が消耗した場合など、本機への電源供給が絶たれると、各設定は初期状態に戻り、記憶内容は消去されます。

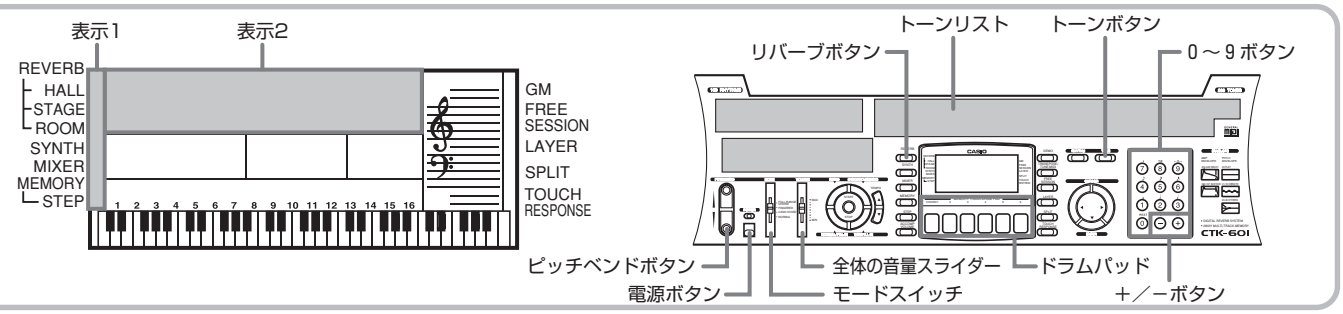
■設定や記憶内容を保つためには

本機への電源供給が途切れないようにしてください。

- 電池交換は、ACアダプターを接続した状態で行ってください。
- ACアダプターを抜くときは、消耗していない電池を入れておいてください。

なお、上記の操作は**電源**ボタンを切ってから行ってください。また、MIDIのバルク送受信でコンピューターなどの外部機器を利用することで、本機の記憶内容を保存することができます。詳しくは「内部データのバルク送受信」（45 ページ）をご参照ください。

基本的な操作



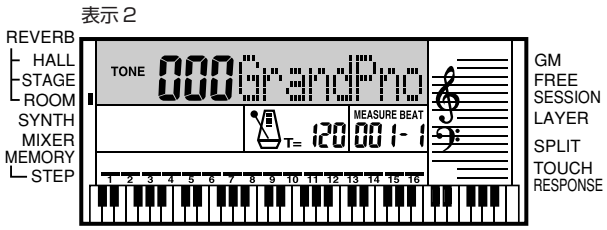
ここでは本機の基本操作について説明します。

音を出してみましょう

1. **電源**ボタンを押します。
2. **モード**スイッチを“ノーマル”の位置に合わせます。
3. **全体の音量**スライダーを調節します（弾く前は小さめにしておきましょう）。
4. 鍵盤を弾いてみましょう。
   ➠ 表示されている音色が鳴ります。

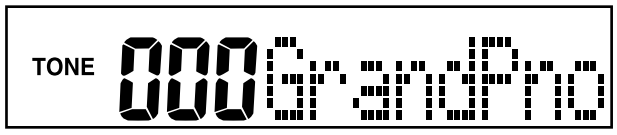
音色を選ぶには

本機には 200 種類の音色が内蔵されています。ここで、どんな音色が入っているのかを試してみましょう。



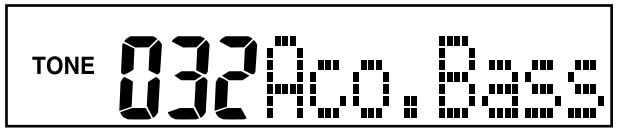
1. **トーンリスト**から鳴らしたい音色を選び、その番号を確認します。
2. **トーン**ボタンを押します。

表示2



3. **0 ～ 9**ボタンを使って、番号の数字（3 桁）を入力します。
   例: “032 ACOUSTIC BASS”なら、“0→3→2”と入力します。

表示2



➠ アコースティックベースの音色で鍵盤演奏できます。

NOTE

- 音色は、必ず 3 桁で指定してください（例：032 = 0→3→2）。
  1 桁目の入力後、何も入力しないと、数秒後に元の音色番号表示に戻ります。
- +／−ボタンで音色番号を 1 つずつ切り替えて呼び出すこともできます。
- 音色番号 160 ～ 167 のドラムセットは、鍵盤ごとに異なる打楽器が割り当てられています。（50 ページ参照）
- 音色番号 128 ～ 199 の音色名は、本体に記載されていません。各音色名は、下記の「音色番号 128 ～ 199 の音色名について」をご参照ください。

■音色番号 128 ～ 199 の音色名について

No	音色名	No	音色名	No	音色名
128	SYNTH-PAD 1	144	ECHO P.ORGAN	160	DRUM SET 1
129	SYNTH-PAD 2	145	ROTARY ORGAN	161	DRUM SET 2
130	TOUCH STRINGS ※	146	CHORUSED EP	162	DRUM SET 3
131	DO AHH	147	STRINGS GT	163	DRUM SET 4
132	STRINGS HIT	148	PAD ENS 1	164	DRUM SET 5
133	VIBES PIANO	149	PAD ENS 2	165	DRUM SET 6
134	SAW SYNTH	150	SEQUENCE 1	166	DRUM SET 7
135	TOUCH BASS ※	151	SEQUENCE 2	167	DRUM SET 8
136	STRINGS PIANO	152	SYNTH-PAD 3	168	USER TONE (20ページ参照)
137	E.PIANO STRINGS	153	SYNTH-PAD 4	199	
138	STEREO PIANO	154	SYNTH-PAD 5		
139	12 STR GUITAR	155	SYNTH-PAD 6		
140	BRASS FALL	156	SYNTH-PAD 7		
141	BASS SLIDE	157	SYNTH-PAD 8		
142	FEEDBACK GT	158	REVERSE ECHO		
143	PIANO→STRINGS	159	FAST TREMOLO		

※ 打鍵の強弱で聞こえ方が変化します。

■同時発音数について

- 本機は、同時に最大24音まで発音します。ただし、一部の音色では2種類の音色を組み合わせているため最大12音になるものもあります。
- リズムや自動伴奏が鳴っているときは、鍵盤での演奏音の同時発音数が少なくなります。

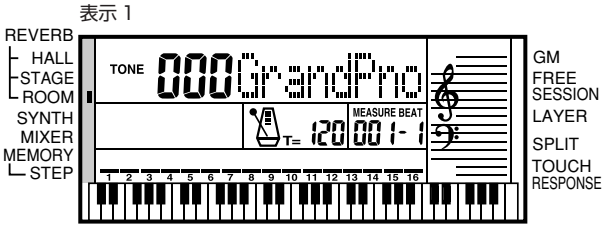
■デジタルサンプリングの音色について

本機で鳴らすことのできる音色のいくつかは、「デジタルサンプリング」という電子技術により、生の楽器の音を録音・加工したものです。こうした音色の中には、元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げたものがあります。
一部の音色で、鍵盤によって音質や音量が若干異なる箇所がありますが、これは上記のようなサンプリング処理における音域の境目（スプリットポイント）で、故障ではありません。

リバーブの効果を変えてみましょう

リバーブはサウンドに残響音を加えて臨場感をだす機能です。

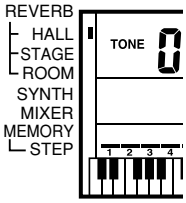
表示 1



リバーブボタンを押して、リバーブの種類を決めます。

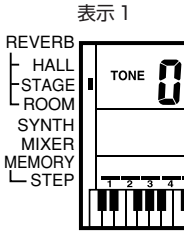
- “HALL”のドットが点灯しているとき：
  コンサートホールのような残響感が得られます。

表示 1



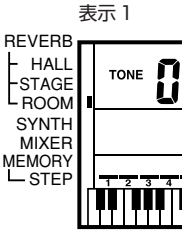
- “STAGE”のドットが点灯しているとき：
  ライブハウスのような残響感が得られます。

表示 1



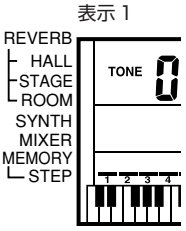
- “ROOM”のドットが点灯しているとき：
  スタジオのような残響感が得られます。

表示 1



- ドットが何も点灯していないとき：
  リバーブは“オフ”になっています。

表示 1



ピッチベンダーを使ってみましょう

ピッチベンダーは音の高さを滑らかに変化させる機能です。サックスなどの演奏方法をリアルに再現します。

1. 音色を指定します。
   例：“065 ALTO SAX”を選びます。

2. 右手で鍵盤を押さえたまま、左手で**ピッチベンド**ボタンを押します。
   例：▲のボタンを押します。
   ➠ アルトサックスの音の高さが上方向に滑らかに変化します。
   - **ピッチベンド**ボタンを離すと、元の音程に戻ります。

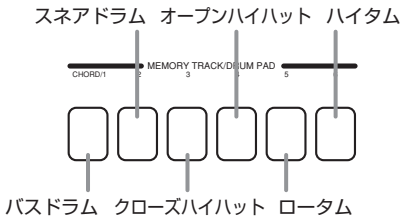
■ NOTE ■

- サックスやエレキギターの音色では、鍵盤と**ピッチベンド**ボタン（▲や▼）をほぼ同時に押すと、よりリアルで効果的なサウンドになります。
- 音の高さの変化幅を変える場合は、44ページをご参照ください。

ドラムパッドを叩いてみましょう

本機には、鍵盤とは別にドラムサウンドを演奏するための 6 つの**ドラムパッド**が装備されています。

1. **ドラムパッド**を叩きます。
   ➠ 各パッドに割り当てられたドラムサウンドが鳴ります。



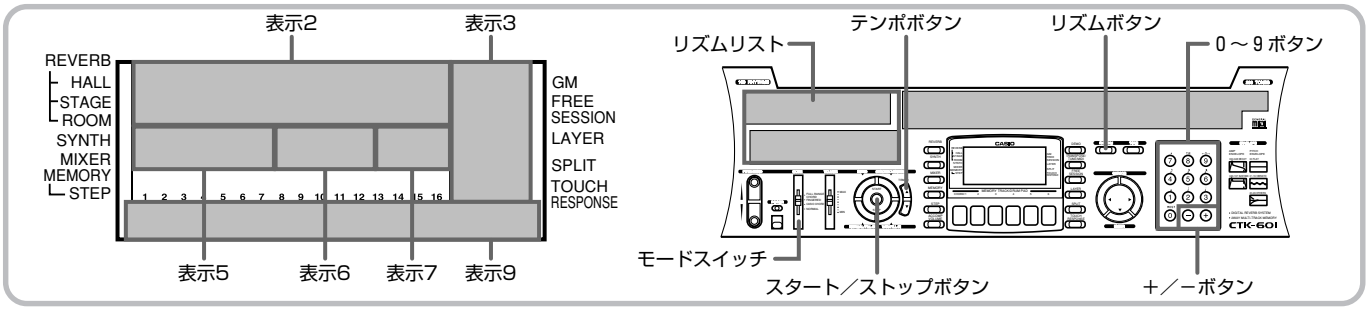
■ドラムパッドの音色について

本機には、さまざまなドラム音を組み合わせたドラムセットが 8 種類※内蔵されています。**ドラムパッド**を使ってドラム音を鳴らすときは、現在選ばれているドラムセットの一部の音色が鳴っています。**ドラムパッド**で鳴らす音色を変更するには、ミキサー機能を使って、チャンネル 10 の音色※（ドラムセット）を変更します（16 ページをご参照ください）。
※ 音色番号 160 ～ 167

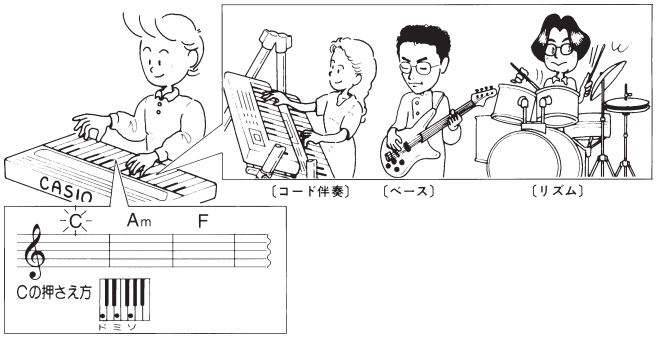
■ NOTE ■

- リズム番号を切り替えたとき、メモリーを再生したとき、あるいは本機にMIDIのプログラムチェンジ情報を送信したときにも、ドラムセットが切り替わることがあります。

自動伴奏を鳴らしてみましょう

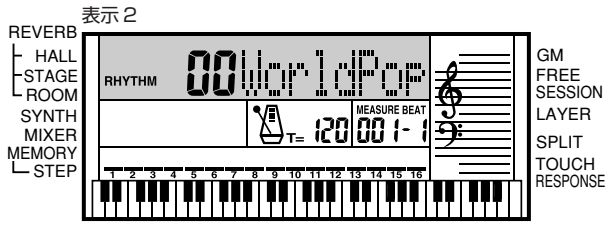


本機では曲に出てくるコードを押さえることで、ベースパート（低音部）とコード伴奏パートを鳴らすことができます。これらのパートはリズム（打楽器音）と連動しており、リズムの種類ごとに、その雰囲気に合った音色が鳴ります。
これらの伴奏に合わせて右手でメロディーを弾けば、一人でもアンサンブル演奏のような楽しさが味わえます。



リズムを選ぶには

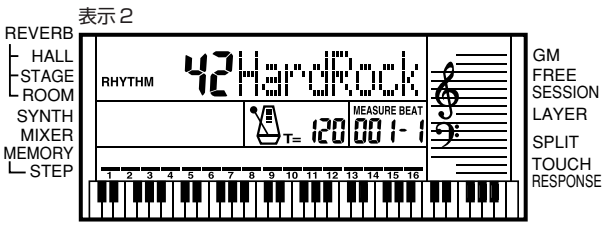
本機にはロック、ポップス、ジャズなど、100種類のリズムが搭載されています。



1. **リズムリスト**から鳴らしたいリズムを選び、その番号を確認します。

2. **リズム**ボタンを押します。

3. **0～9**ボタンで、リズムの番号を数字（2桁）で入力します。
   例：“42 HARD ROCK”なら“4→2”と入力します。
   ➠ “42 HARD ROCK”のリズムが選ばれます。



■NOTE■

- リズム番号は、＋／－ボタンでも指定できます。

リズムを鳴らすには

選択したリズムをスタートさせて鍵盤演奏が楽しめます。

1. **モード**スイッチを“ノーマル”の位置に合わせます。

2. **スタート／ストップ**ボタンを押します。
   ➠ 選ばれたリズムが鳴り始めます。
   • **スタート／ストップ**ボタンを押すと停止します。

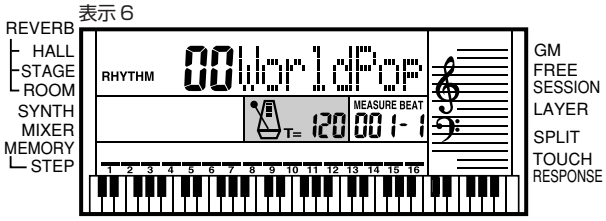
■NOTE■

- **モード**スイッチが“ノーマル”の位置のときは、すべての鍵盤がメロディー鍵盤となります。

テンポを調節するには

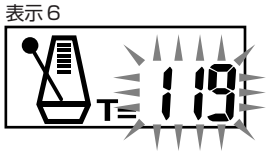
テンポ（1分間に演奏される拍数）を40 ～ 255の範囲で調節します。テンポの設定は、コード自動伴奏、フリーセッション、メモリー機能に対して有効です。

表示6



1. **テンポ**ボタンを押します。
   ▲……数値が増える（速くなる）
   ▼……数値が減る（遅くなる）

表示6



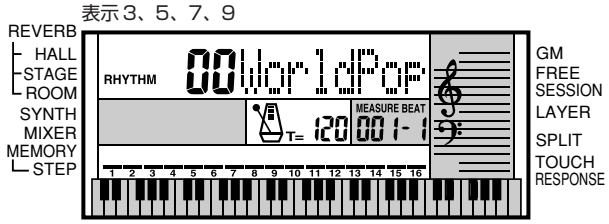
➠ テンポの数値の点滅は、5秒間そのままにしておくと自動的に止まります。

■NOTE■

- テンポの数値の点滅中は、**0**～**9**ボタン※、＋／－ボタンでも調節ができます。
  ※“090”など3桁で入力します。
- **テンポ**ボタンの▲／▼ボタンを同時に押すと、現在指定されているリズムのお勧めのテンポになります。

コード自動伴奏を鳴らすには

表示3、5、7、9



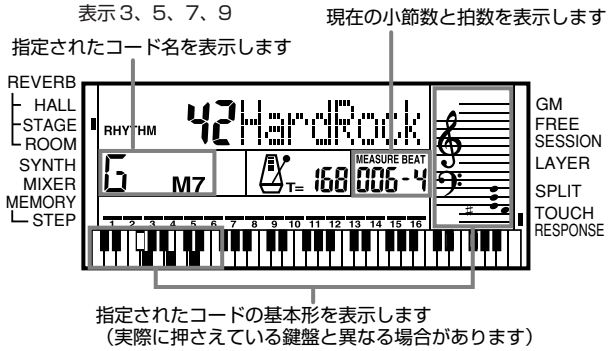
準備

- リズムを選び、テンポを調節します。

1. **モード**スイッチを“カシオコード”“フィンガード”“フルレンジコード”のいずれかに合わせ、コードの指定方法を選びます。

2. **スタート／ストップ**ボタンを押してリズムをスタートさせます。

3. 伴奏鍵盤でコードを指定してみましょう。
   - 伴奏鍵盤や具体的な方法については、モードスイッチの設定に応じて、
     「カシオコードについて」･･･12ページ
     「フィンガードについて」･･･12ページ
     「フルレンジコードについて」･･･12ページ
     をご参考ください。



➠ 選んだリズムと連動したコード自動伴奏が始まります。

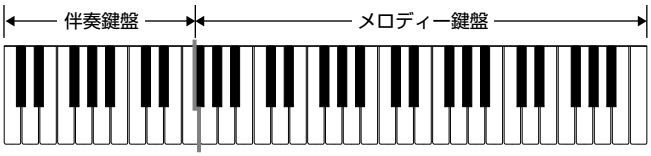
- **スタート／ストップ**ボタンを押すと自動伴奏が停止します。

自動伴奏を鳴らしてみましょう

■カシオコードについて

この方法では、コードを知らなくても伴奏鍵盤の押し方により 4 種類のコードが簡単に指定できます。伴奏鍵盤とコードの指定方法は次のとおりです。

【カシオコードの伴奏／メロディー鍵盤】



重要

- カシオコードの伴奏鍵盤は「コード指定スイッチ」としてのみ働き、通常の鍵盤演奏はメロディー鍵盤の範囲でのみ可能となります。

コードの種類	例
メジャーコード **伴奏鍵盤**の上側にアルファベットで音名が書いてあります。コード名と同じ音名の鍵盤を 1 つ押します(**伴奏鍵盤**の範囲内であれば、1 オクターブ違う同音でもかまいません)。	C (C メジャー)
マイナーコード メジャーコードの押さえ方に加えて、**伴奏鍵盤**内の、それより右の鍵盤を 1 つ押します。	Cm (C マイナー)
セブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、**伴奏鍵盤**内の、それより右の鍵盤を 2 つ押します。	C7 (C セブンス)
マイナーセブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、**伴奏鍵盤**内の、それより右の鍵盤を 3 つ押します。	Cm7 (C マイナーセブンス)

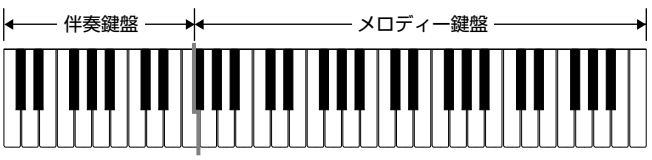
■NOTE■

- 2 つ目以降の伴奏鍵盤は、1 つめより右側なら白鍵／黒鍵を問わずどれでも使用できます。

■フィンガードについて

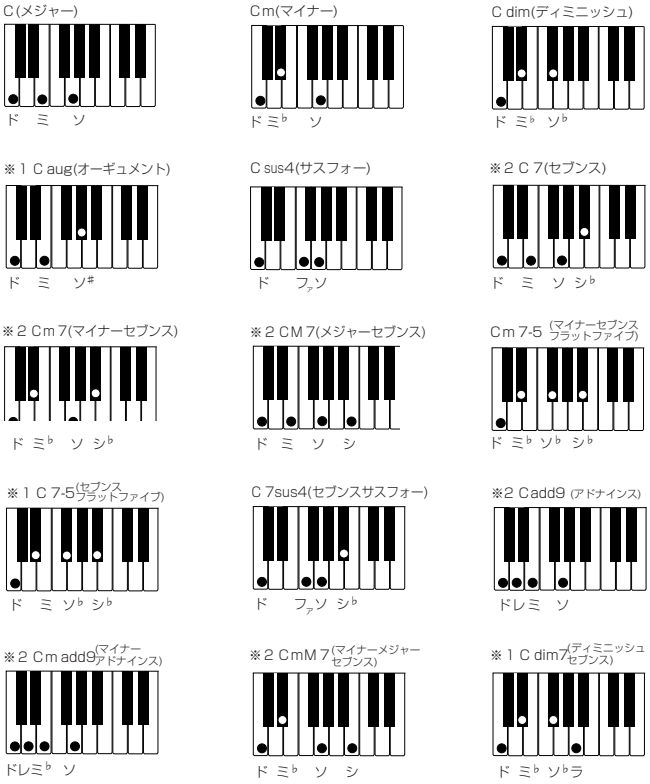
この方法で指定できるコードは15種類です。伴奏鍵盤とコードの指定方法（“C”を根音とした場合）は次のとおりです。

【フィンガードの伴奏／メロディー鍵盤】



重要

- フィンガードの伴奏鍵盤は「コード指定スイッチ」としてのみ働き、通常の鍵盤演奏はメロディー鍵盤の範囲でのみ可能となります。



★ *根音が“C”以外のときは、伴奏鍵盤の範囲内での対応となります(51ページ「フィンガードコード一覧表」参照)。*

※1：転回形（下の***■NOTE■***を参照）は使えません。最低音が根音となります。

※2：5 度のソの音を押さえなくても、同じコードが指定できます。

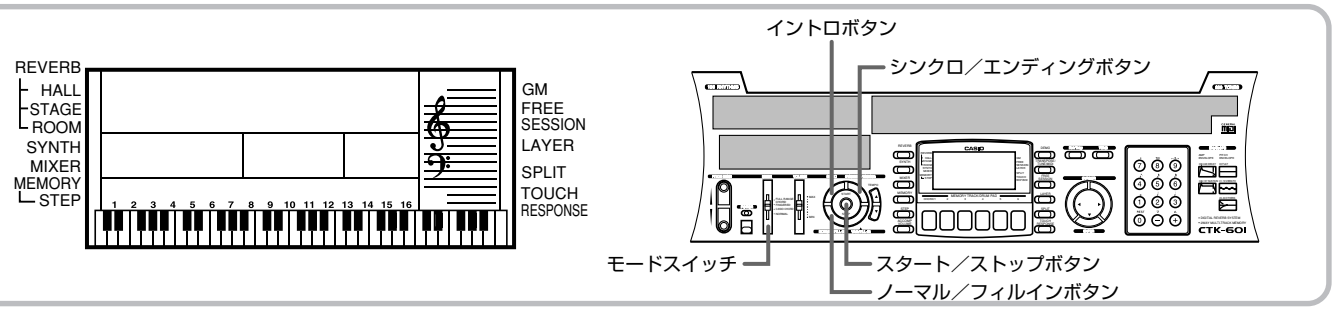
■NOTE■

- 伴奏鍵盤であれば上記の押さえ方（例えばCを「ドミソ」と押さえる）だけでなく、転回形（コードの構成音は同じで並び方の違う押さえ方。例えばCを「ミソド」や「ソドミ」と押さえる）も有効です。
  ･･･※1 のコードを除く。
- 原則として上記の例のように、コードの構成音すべてを押さえる必要があります。構成音を省略したり 1 音のみを押さえても無効となり、意図したコードは指定されません。
  ･･･※2 のコードを除く。

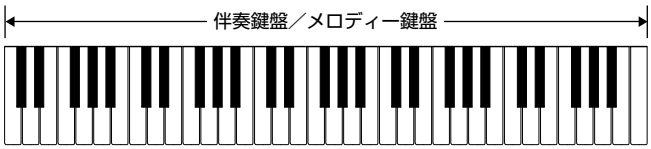
■フルレンジコードについて

この方法で指定できるコードは、フィンガードの 15 種類に23種類加えた計38種類です。この場合、本機が判別できるコードの指定方法で鍵盤を 3 つ以上押したときに限り、コードが指定されます。それ以外（本機が判別できないコードや 2 つ以下の鍵盤を押している場合）ではメロディー鍵盤と同様に発音しますので、すべての鍵盤でコードの指定とメロディー演奏が行えます。

自動伴奏を鳴らしてみましょう



【フルレンジコードの伴奏／メロディー鍵盤】

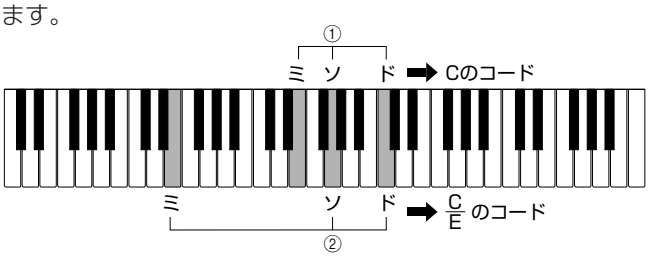


《本機で判別できるコード》

コードの種類	種類の数
フィンガードの対象コード	15種類（12ページ「フィンガード」参照）
それ以外のコード	23 種類 以下は、“C” をベース音とした場合の例です。 C6、Cm6、C69 C♯／C、D／C、E／C、F／C、G／C、A♭／C、B♭／C、 B／C、C♯m／C、Dm／C、Fm／C、Gm／C、Am／C、B♭m／C、 Dm7-5／C、A♭7／C、F7／C、Fm7／C、Gm7／C、A♭add9／C、

（例）Cメジャーの場合

Cメジャーの構成音は、「ド・ミ・ソ」です。
鍵盤で「ド・ミ・ソ」と押さえると、下記のように指定されます。

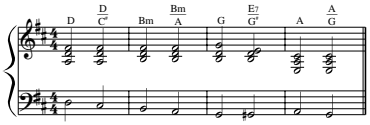


《ポイント》

- 転回形についてはフィンガードと同様です。（①）
- 最低音と右隣の音との間に、半音が 6 つ以上はさまる場合には、最低音をベース音として判別します。（②）

《使用例》

音色 016、リズム 05、テンポ 070
シンクロ／エンディングボタンを押す。



イントロを入れるには

リズム演奏や自動伴奏を始める前にイントロ（前奏）を加えることができます。

準備

- リズムを選び、テンポを調節する。
- **モード**スイッチでコードの指定方法を選ぶ。

1. **イントロ**ボタンを押します。
   ➡ 選んだリズムに応じたイントロを開始します。
   - このとき伴奏鍵盤を弾くと、イントロに自動伴奏が加わります。

■NOTE■

- イントロが鳴り終わると通常のリズムに戻ります。

フィルインを入れるには

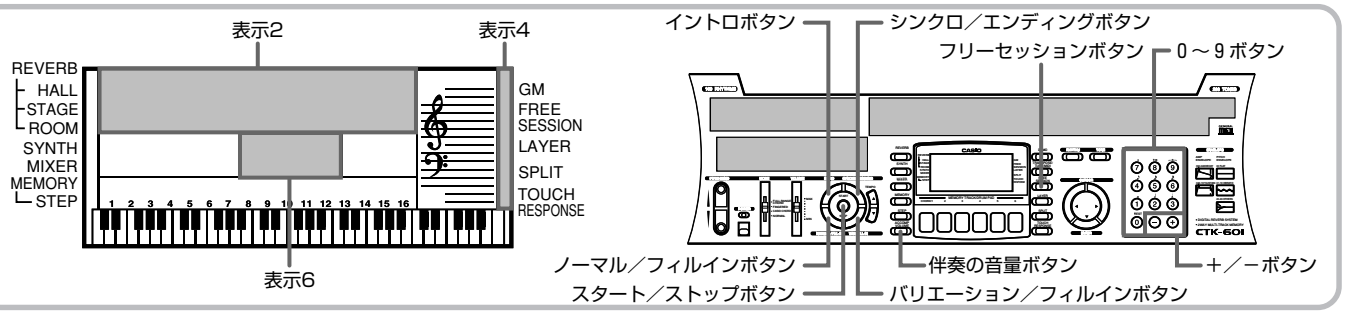
フィルインとは演奏中のリズムパターンを一時的に変化させた演奏で、リズムにメリハリを付けることができます。

1. **スタート／ストップ**ボタンを押してリズムを鳴らします。
2. **ノーマル／フィルイン**ボタンを押します。
   ➡ リズムにフィルインが入ります。

■NOTE■

- イントロが鳴っている最中にボタンを押しても、フィルインは鳴りません。

自動伴奏を鳴らしてみましょう



同じリズムで演奏パターンを変化させるには

通常のリズムと演奏パターンを異なるリズム（バリエーション）に切り替え、伴奏の雰囲気を変化させます。

1. **スタート／ストップ**ボタンを押してリズムを鳴らします。
2. **バリエーション／フィルイン**ボタンを押します。
   ➠ 選んだリズムのバリエーションに切り替わります。

■NOTE■

- 通常（ノーマル）のリズムに戻すには、**ノーマル／フィルイン**ボタンを押します。

バリエーションのリズムにフィルインを入れるには

バリエーションのリズムに変化を付けます。

1. バリエーションのリズムが鳴っているときに、**バリエーション／フィルイン**ボタンを押します。
   ➠ バリエーションのリズムにフィルインが入ります。

伴奏とリズムを同時にスタートさせるには

伴奏鍵盤を押すと同時にリズムとコード伴奏を同時にスタートさせる方法です。

準備

- リズムを選び、テンポを調節する。
- コードの指定方法を選ぶ。

1. **シンクロ／エンディング**ボタンを押してシンクロスタートの待機状態にします。

2. 伴奏鍵盤でコードを指定します。
   ➠ リズムとコード伴奏が同時にスタートします。

■NOTE■

- コードの指定方法をノーマルにしておくと、リズムのみが鳴り始めます。
- 鍵盤を押す前に**イントロ**ボタンを押しておくと、イントロからシンクロスタートします。
- シンクロスタートの待機状態のときに、もう一度**シンクロ／エンディング**ボタンを押すと待機状態が解除されます。

エンディングを付けて曲を終わらせるには

選ばれたリズムに最適なエンディングを加え、伴奏を自動的に停止します。

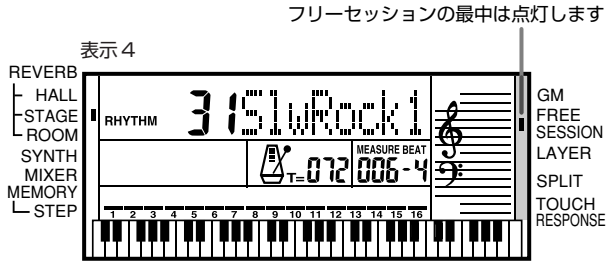
1. リズム（伴奏）が鳴っているときに、**シンクロ／エンディング**ボタンを押します。
   ➠ リズムに応じたエンディングに切り替わり、リズム（伴奏）を終了します。

■NOTE■

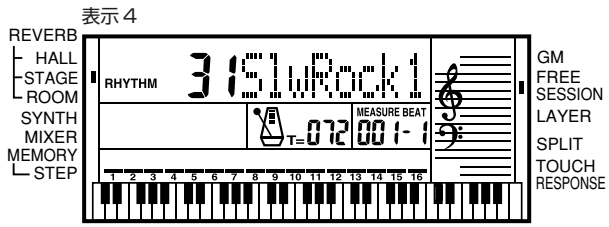
- 各小節の 2 拍目より前にボタンを押すと瞬時にエンディングを開始し、 2 拍目以降に押すと次の小節からエンディングを開始します。

フリーセッションを楽しむには

本機には、100 種類のリズムごとに、その雰囲気にあったコード進行、音色、テンポがあらかじめ設定された自動伴奏が用意されています（フリーセッション）。フリーセッションを開始すると繰り返しコードによる自動伴奏が始まり、すべての鍵盤をメロディー鍵盤として一人でアンサンブルが楽しめます。



1. **フリーセッション**ボタンを押します。



2. **スタート／ストップ**ボタンを押します。
   ➠ 繰り返しコードによる自動伴奏がスタートします。
   - **スタート／ストップ**ボタンを押すと停止します。

■NOTE■

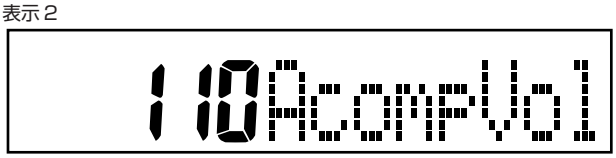
- 最初のコードの根音は“C”になります。（49ページ「フリーセッションリストのコード進行一覧表」参照）操作2の代わりに、伴奏鍵盤を１つ押すと、最初のコードの根音を指定することができます。
- フリーセッションでは、**イントロ**ボタン、**ノーマル／フィルイン**ボタン、**バリエーション／フィルイン**ボタン、**シンクロ／エンディング**ボタンが利用できます。
- フリーセッションの自動伴奏中に再度**フリーセッション**ボタンを押すと、通常のリズムに戻ります。
- フリーセッションの音色・リズム・テンポは演奏中、停止中にかかわらず変更できます。ただしキーの指定は停止中にのみ変更できます。また、リズムを変更してもコード進行は変更できません。

伴奏の音量を変えるには

伴奏パートの音量を通常の演奏とは独立して調節できます。伴奏の音量の範囲は、最小“000”～最大“127”です。

1. **伴奏の音量**ボタンを押します。

2. **+／ー**ボタンまたは**0 ～ 9**ボタンで伴奏の音量を指定します。
   例：110



■NOTE■

- 操作１の後、表示は５秒で元に戻ります。
- ミキサー機能で設定した各伴奏チャンネルのバランスはそのまま保持されます。
- 操作２で**+**とーボタンを同時に押したときは、“85”になります。

不要なパートをキャンセルするには

本機の自動伴奏は、下記のパートで構成されています。

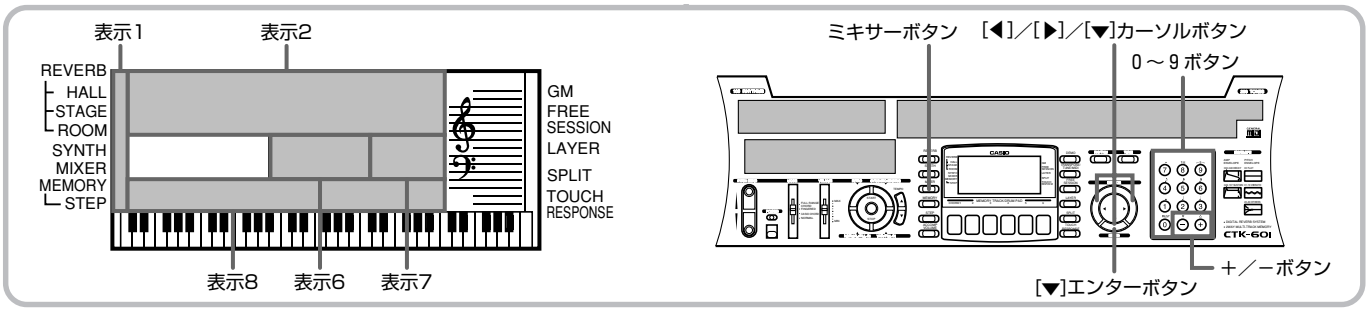
コード１、コード２、ベース、リズム（打楽器）

曲想に合わないパートがあるときは、ミキサー機能（16ページ参照）を使って、音を消すことができます。

■NOTE■

- リズムによっては、あるパートが全休符になっていることがあります。

ミキサー機能を利用するには



ミキサー機能でできること

本機は、複数の楽器パートを同時に鳴らすことができます。（自動伴奏、メモリー再生、MIDI端子からの演奏データ受信時など）ミキサー機能では、各楽器パートを1～16のチャンネルに分け、それぞれオン（発音）／オフ（消音）を切り替えたり、音量や左右の再生位置（ステレオ定位）、その他の要素を調節できます。

■各チャンネルに対応する楽器パートについて

各チャンネルで発音される楽器パートは次のようになります。

チャンネル番号	楽器パート
チャンネル1	メイン音色
チャンネル2	レイヤー音色
チャンネル3	スプリット音色
チャンネル4	レイヤースプリット音色
チャンネル5	（本機のみの使用では発音しません）
チャンネル6	（本機のみの使用では発音しません）
チャンネル7	自動伴奏のコードパート1
チャンネル8	自動伴奏のコードパート2
チャンネル9	自動伴奏のベースパート
チャンネル10	自動伴奏のリズムパート、ドラムパッド
チャンネル11	メモリー機能のトラック1
チャンネル12	メモリー機能のトラック2
チャンネル13	メモリー機能のトラック3
チャンネル14	メモリー機能のトラック4
チャンネル15	メモリー機能のトラック5
チャンネル16	メモリー機能のトラック6

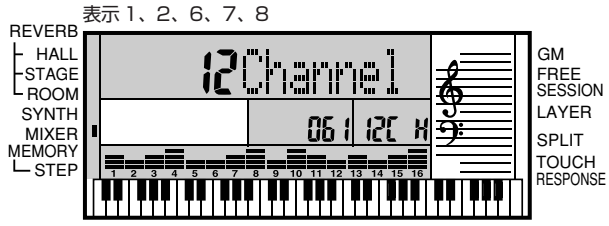
★ *レイヤー／スプリット／レイヤースプリット音色については36～38ページをご参照ください。*

★ *メモリー機能については25ページをご参照ください。*

- 通常の状態では鍵盤演奏はチャンネル1で、ドラムパッドはチャンネル10で発音されます。コード自動伴奏を行う場合は、チャンネル7～10でそれぞれの楽器パートを発音します。
- コンピューターなどの外部機器から本機の音源を鳴らす場合は、1～16すべてのチャンネルで楽器パートを演奏できます。この場合、チャンネル10はドラム専用パートになります。このとき、下記の操作1、2で指定したチャンネルの音が、液晶表示の五線譜と鍵盤図に表示されます。

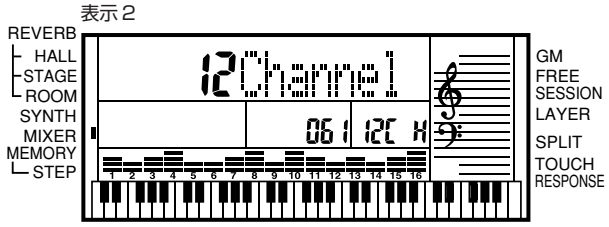
チャンネルごとオン／オフ／ソロを設定するには（チャンネルエディットモード）

チャンネルのオン／オフ／ソロを切り替え、特定の楽器パートを消音させたり、特定の楽器パートのみ発音されるように設定できます。



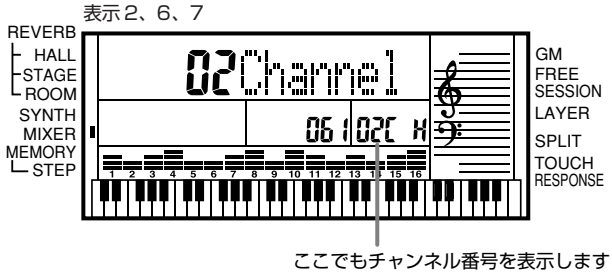
1. **ミキサー**ボタンを押します。

- チャンネルごとに設定を変更できるようになります（チャンネルエディットモード）。



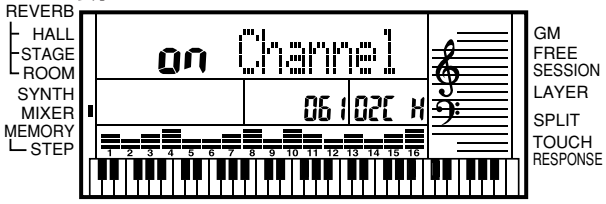
2. **+／−**ボタンでチャンネルを選びます。

例：チャンネル2を選ぶ場合



3. **[▶]カーソル**ボタンを押してオン／オフ／ソロの設定画面に切り替えます。

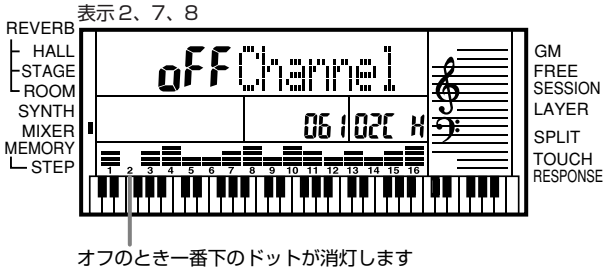
表示2、7



4. +／ーボタンでオン／オフ／ソロを選択します。

例：オフを選ぶ場合

表示2、7、8



- **[◀]カーソル**ボタンを押すとチャンネル選択に戻ります。
- **ミキサー**ボタンを押すと通常の状態に戻ります。

■チャンネルオン／オフ／ソロの働きについて

チャンネルをオン／オフ／ソロに切り替えたときの動作と表示は次の通りです。

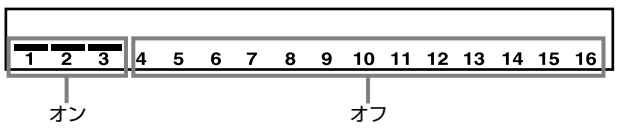
●チャンネルオン

選ばれたチャンネルはオンになり、そのチャンネルは発音します。このときレベルメーターの一番下のドットが点灯します。

●チャンネルオフ

選ばれたチャンネルはオフになり、そのチャンネルは発音しません。このときレベルメーターの一番下のドットが消灯します。

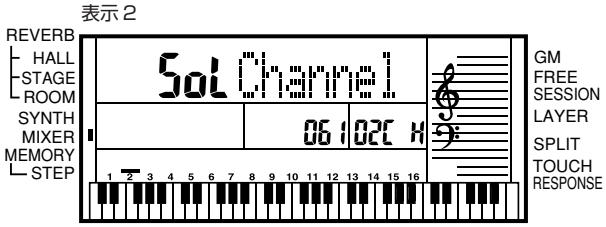
表示8



●チャンネルソロ

選ばれたチャンネルのみオンになり、他のチャンネルはオフになります。このときレベルメーターの一番下のドットはそのチャンネルのみ点灯します。

表示2



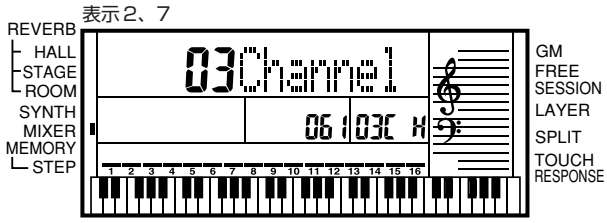
特定のチャンネルの特徴を変えるには（パラメーターエディットモード）

チャンネルエディットモードで選ばれたチャンネルで発音する音色を選択したり、音量やステレオ定位など計6種類の要素（パラメーター）を調節できます。

1. チャンネルエディットモードでチャンネルを選択します。

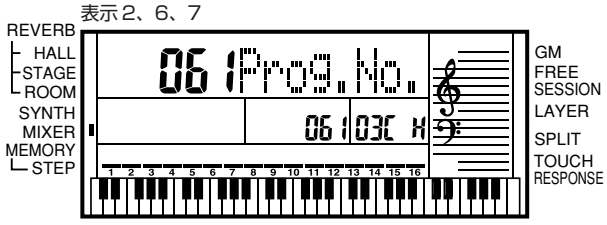
例：チャンネル3を選択します。

表示2、7



2. **[▼]カーソル**ボタンを押して、パラメーターエディットモードへ切り替えます。

表示2、6、7



3. **[◀]**／**[▶]カーソル**ボタンを押してパラメーターを選びます。

例：「Volume」という液晶表示を呼び出します。

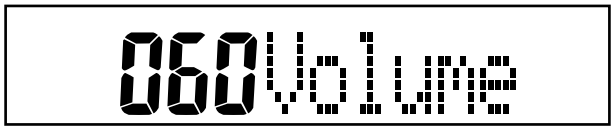
- パラメーターは6種類あり、**[◀]**／**[▶]カーソル**ボタンで循環して切り替わります（18ページ「各パラメーターの働きについて」参照）。

表示2 チャンネルの音量は127です

4. **0**～**9**ボタンまたは+／ーボタンでパラメーターの値を調節します。

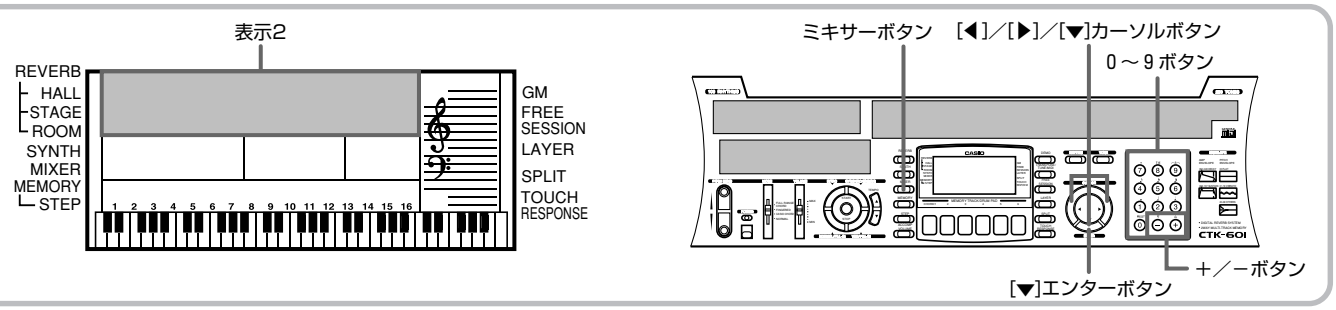
例：「060」に調節します。

表示2



- **ミキサー**ボタンを押すと通常の状態に戻ります。
- **[▼]カーソル**ボタンを押すとチャンネル選択に戻ります。

ミキサー機能を利用するには

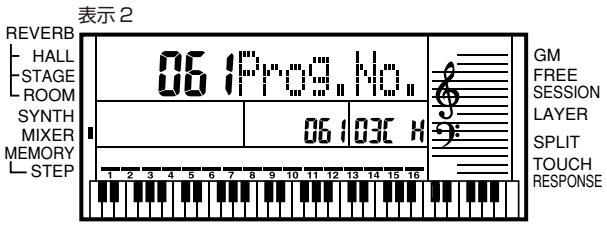


■各パラメーターの働きについて

パラメーターエディットモードでは、次のパラメーターを調節できます。

●プログラムチェンジナンバー（000～199）

選ばれたチャンネルで発音される音色を選択します。



■NOTE■

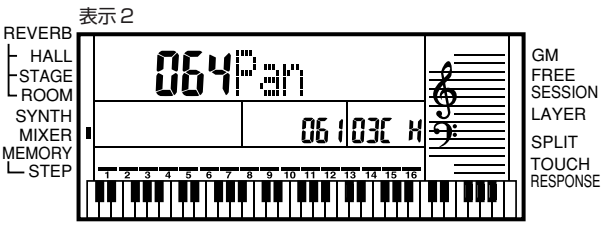
チャンネル10はドラム専用のため、音色番号160～167しか選択できません。

●ボリューム（000～127）

選ばれたチャンネルの音量を調節します。

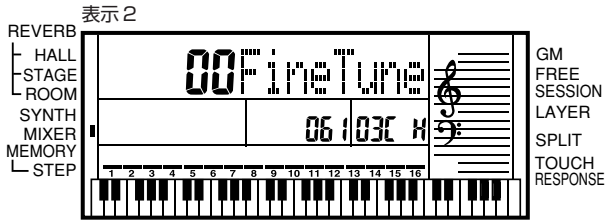
●パンポット（000～127）

選ばれたチャンネルのステレオ定位を調節します。64が中央で、数値が小さいほど左へ、大きいほど右へステレオ定位が移動します。



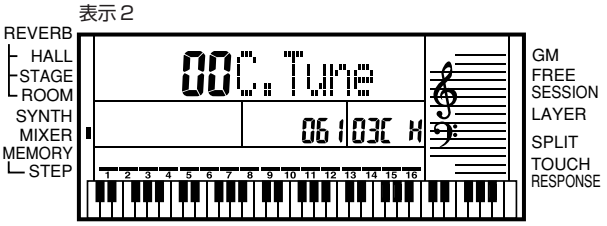
●ファインチューン（－50～00～50）

選ばれたチャンネルの音の高さをセント単位で微調節します。



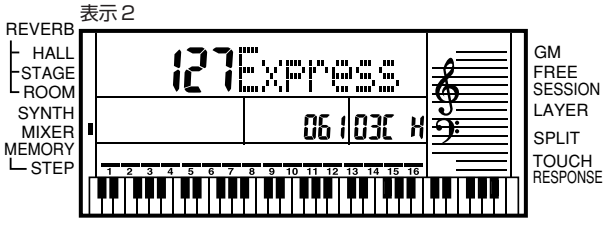
●コースチューン（－12～00～12）

選ばれたチャンネルの音の高さを半音単位で調節します。



●エクスプレッション（000～127）

そのチャンネルの音量を設定します。ボリュームと同じ働きをしますが、DTM（デスクトップ・ミュージック）では用途に応じて使い分けることがあります。



■NOTE■

- ミキサーの設定を変更すると、これらのMIDIメッセージをMIDIアウト端子から出力します。

シンセ機能を使ってみましょう

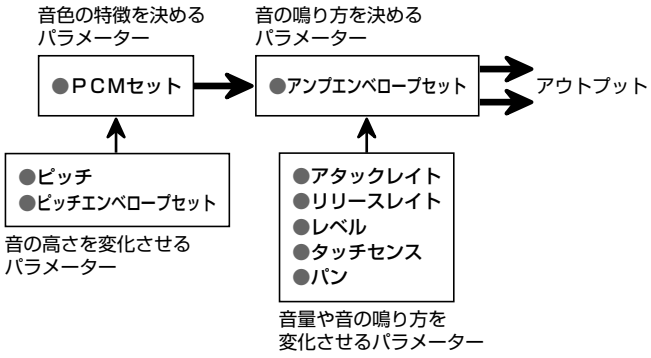
本機には、オリジナルの音色を作れるシンセ機能が搭載されています。内蔵音色からお好きなものを選び、音色のさまざまな要素を編集して音作りが楽しめます。さらにこうして作ったオリジナルの音色を本体に保存しておき、プリセットの音色と同じ操作で呼び出すことができます。

シンセ機能について

ここでは本機のシンセ機能について説明します。

■パラメーターの種類と働きについて

本機の音色は、さまざまな要素（パラメーター）から構成されています。オリジナル音色を作るときには、まず本機の内蔵音色（音色番号 160 ～ 167 のドラムセットを除きます）の中から元になる音色を選び、パラメーターの設定値を変えることで、音色の特徴や音の鳴り方などが変化します。次の図は、本機の音色を構成する各パラメーターと、その働きを表したものです。この図からも分かるように、本機のパラメーターは大まかに4つの働きに分けることができます。各パラメーターの働きは、次の通りです。



(1) 音色の特徴を決めるパラメーター

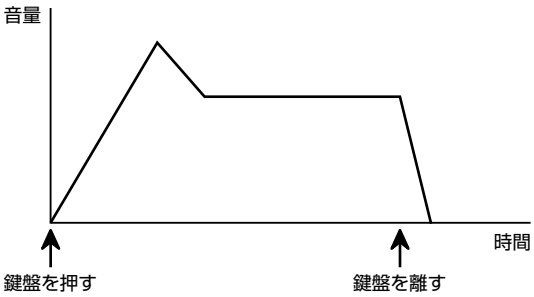
● PCM セット

デジタルサンプリングされた波形を切り替えて音色の特徴を決める、重要なパラメーターです。ピアノの波形やギターの波形、シンセの波形などさまざまな楽器音や効果音をデジタルサンプリングした波形が選択できます。

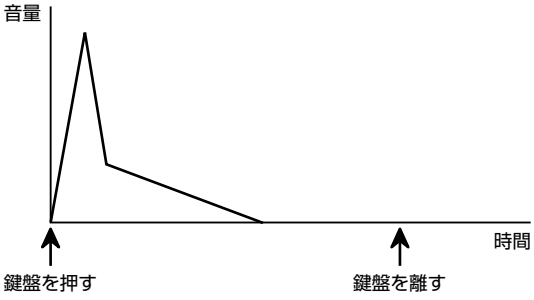
(2) 音の鳴り方を決めるパラメーター

●アンプエンベロープセット

音の鳴り方（音量の時間的変化）を決める重要なパラメーターです。「鍵盤を弾くとゆっくり音が立ち上がる音」「鍵盤を押すとすぐに立ち上がる音」「鍵盤を押さえている間持続する音」「鍵盤を弾くとすぐに減衰していく音」などさまざまな音の鳴り方を選ぶことができます。



●ゆっくりと立ち上がって音が持続する鳴り方●



●素早く立ち上がって音が減衰していく鳴り方●

■NOTE■

- アンプエンベロープセットの数値を000～048に設定すると「音が減衰（ディケイ）していく鳴り方」、049～137に設定すると「音が持続（サスティン）する鳴り方」になります。

(3)音の高さを変化させるパラメーター

●ピッチ

音色全体の音の高さを決めるパラメーターです。

●ピッチエンベロープセット

音の高さを時間とともに変化させるパラメーターです。アンプエンベロープセットと同じように、さまざまな変化の仕方を選ぶことができます。

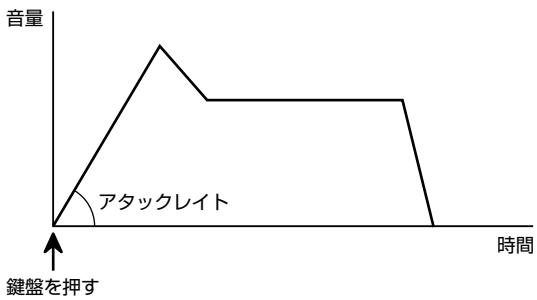
■NOTE■

- ピッチエンベロープセットの数値の 00 は「変化しない（フラット）」、01 ～ 19 は「ビブラート」、20 ～ 49 は「その他」になります。

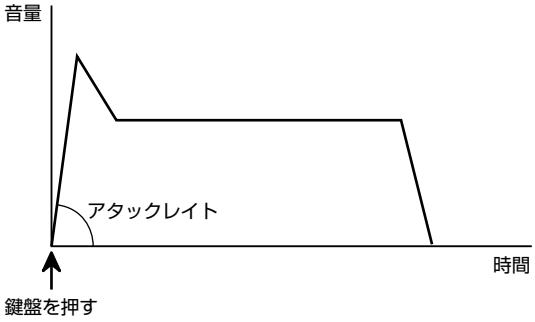
(4)音量や音の鳴り方を変化させるパラメーター

●アタックレイト

音の立ち上がり（鍵盤を押してから最大音量に達するまで）の速さを変化させるパラメーターです。アンプエンベロープセットで選んだ音の鳴り方を微調節したいときに使用します。



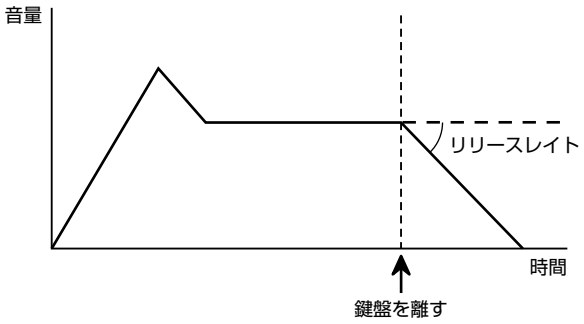
●アタックレイトが遅い音色●



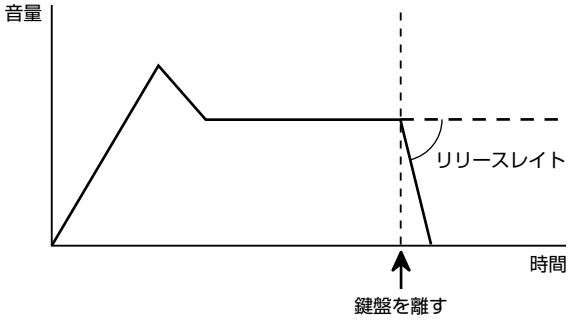
●アタックレイトが速い音色●

●リリースレイト

音の消え際（鍵盤を離してから音が消えるまで）の速さを変化させるパラメーターです。アンプエンベロープセットで選んだ音の鳴り方を微調節したいときに使用します。



●リリースレイトが遅い音色●



●リリースレイトが速い音色●

●レベル

音色全体の音量を決めるパラメーターです。

●タッチセンス

鍵盤演奏の強弱に応じて音量がどれだけ変化するかを決定するパラメーターです。タッチが強いほど音量が大きくなる、逆にタッチが強いほど音量が小さくなる、あるいはタッチの強弱にかかわらず音量が変化しないなど、さまざまな効果が作れます。

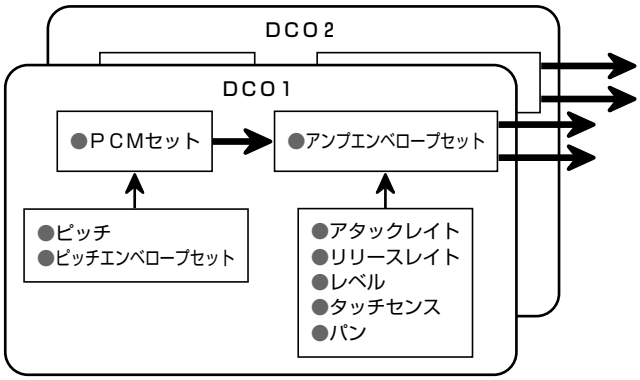
●パン

本機を内蔵スピーカーまたはステレオで鳴らしたときに、左右のどの位置から音を鳴らすかを決めるパラメーターです。

■1DCOの音色と2DCOの音色について

DCO*とは、本機が発音する最小単位です。本機に内蔵された音色には、単一の音色（1DCO）と2つの音を重ねた音色（2DCO）があります。オリジナルの音色を作るときに、元の音色として2DCOの音色を選んだ場合は、DCO1とDCO2の両方のパラメーターを設定する必要があります。

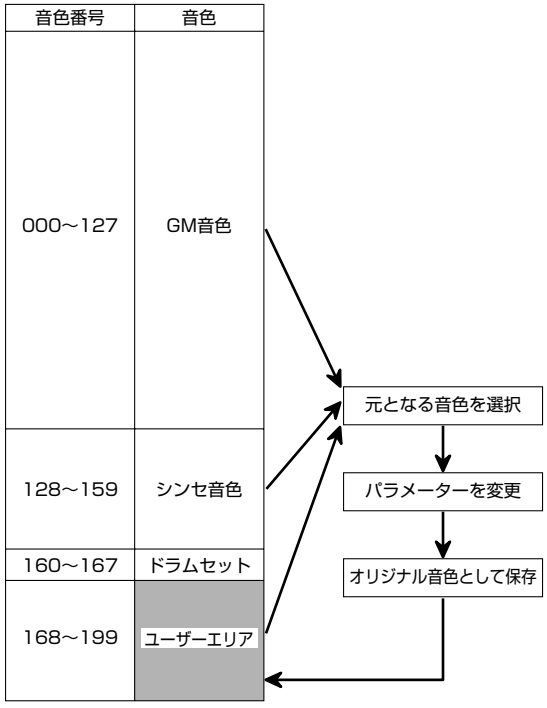
＊DCO：Digital Controled Oscillator の略

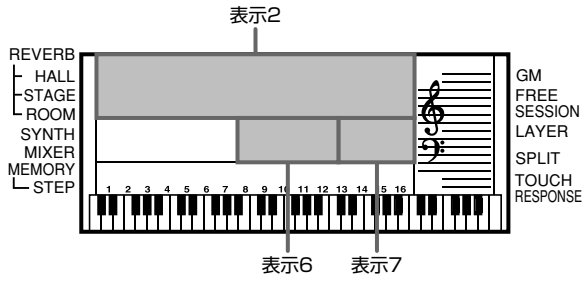


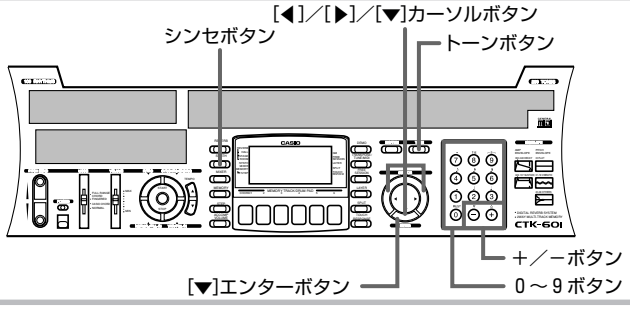
■オリジナル音色の保存について

本機の000～199の音色番号のうち、音色番号168～199（USER01～USER32）は、オリジナル音色を保存するための「ユーザーエリア」となっています。オリジナル音色を作るときは、GM*音色（音色番号000～127）、シンセ音色（音色番号128～159)から元となる音色を選び、そのパラメーターを変更して、ユーザーエリアに保存できます（ユーザーエリアの音色を元の音色として選ぶこともできます）。保存したオリジナル音色は、通常のプリセット音色と同じ操作で呼び出したり、メモリー機能を使って演奏することが可能です。

＊GM：メーカーを越えて定められた、音色配列などの推奨規格。





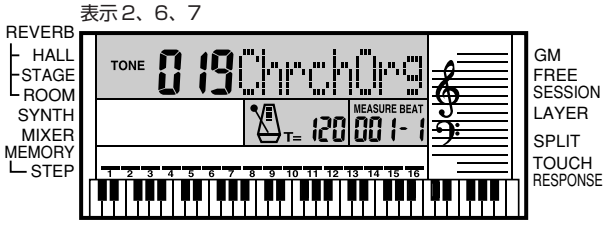


■NOTE■

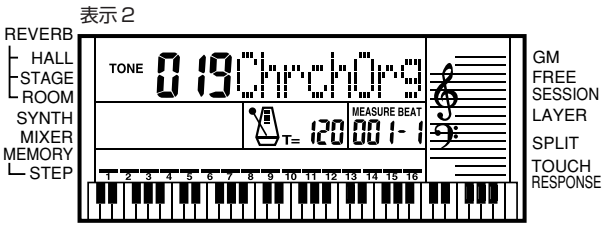
- 工場出荷時には、ユーザーエリアにシンセ音色（音色番号128 ～ 159）と同じ音色が保存されています。
- GM 音色（音色番号 000 ～ 127）とシンセ音色（音色番号 128 ～ 159)の音色は読み出し専用で、書き換えることはできません。
- ドラムセット（音色番号 160 ～ 167）の音色は変更できません。

オリジナル音色を作るには

オリジナル音色を作るには、まず元になる音色を選び、修正したいパラメーターを呼び出してから、設定値を変更します。

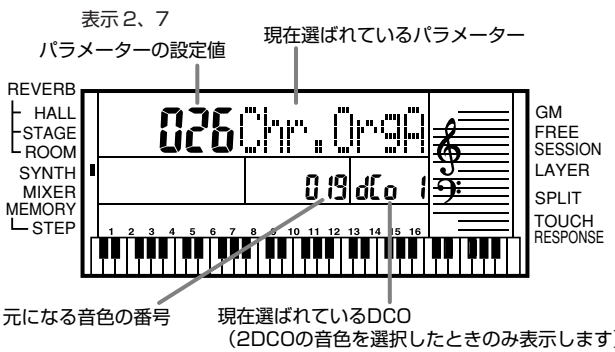


1. 元になる音色を選びます。

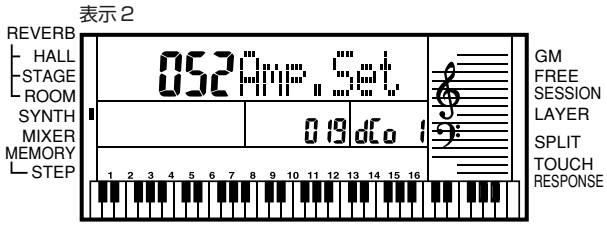


2. **シンセ**ボタンを押します。

➠ 音色パラメーターの変更が可能な状態となり、最初のパラメーター「PCMセット」が呼び出されます。また、現在のDCO1、DCO2のうちどちらが選ばれているかも表示されます。



3. **[◀]／[▶]カーソル**ボタンを押して修正したいパラメーターを呼び出します。

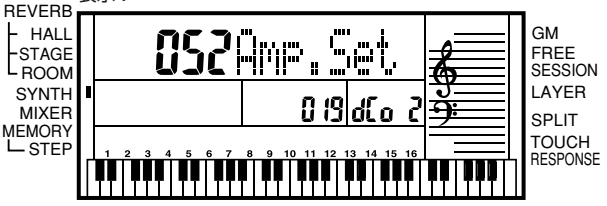


- **[◀]／[▶]カーソル**ボタンを押すたびに、表示されるパラメーターが切り替わります。選択可能なパラメーターは、「各パラメーターの働きと設定値」（22ページ）をご参照ください。

4. **+／−**ボタンで呼び出したパラメーターの設定値を切り替えます。

- 0～9ボタンで直接数値を入力することも可能です。パラメータごとの設定値の範囲は、「各パラメーターの働きと設定値」（22 ページ）をご参照ください。

5. 元の音色として2DCOの音色を選んだ場合は、**[▼]カーソル**ボタンを押してDCO2のパラメーターを呼び出します。

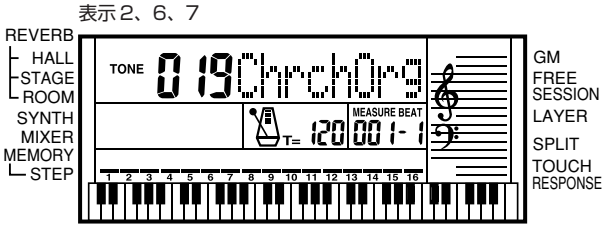


6. ステップ3～4と同じ要領で、DCO2の各パラメーターを設定します。

- もう一度**[▼]カーソル**ボタンを押せば、DCO1 のパラメーターに戻ります。

7. 通常の状態に戻るには、**シンセ**ボタンを 2 回押すか、**トーン**ボタンを 1 回押します。

➠ 通常の状態に戻ります。



■NOTE■

- 操作 7 を行うと、加工したオリジナル音色は加工前の状態に戻ります。ただし操作 7 の後で新しい音色番号を選ばなければ、もう一度**シンセ**ボタンを押すことでオリジナル音色に復帰できます。オリジナル音色を保存しておきたい場合は、「オリジナル音色に名前を付けて保存するには」（23 ページ）を参照してください。

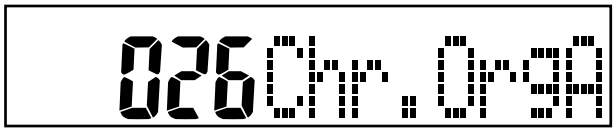
■各パラメーターの働きと設定値

[◀]／[▶]カーソルボタンを押すたびに、次の各パラメーターが順番に切り替わります。各パラメーターの働きと設定値は次の通りです。

●PCM セット（設定値：0 ～ 173）

デジタルサンプリングされた波形を切り替えるパラメーターです。0 ～ 173 の波形が選べます。

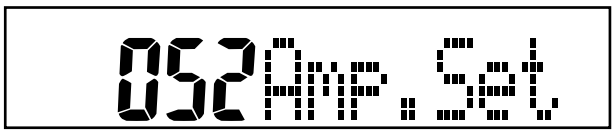
表示 2



●アンプエンベロープセット（設定値：0 ～ 137）

音の鳴り方（音量の時間的変化）を決めるパラメーターです。0 ～ 137 の鳴り方が選べます。

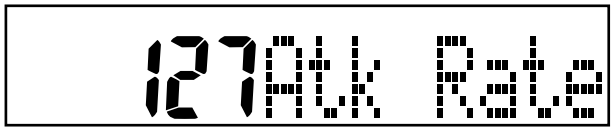
表示 2



●アタックレイト（設定値：1 ～ 127）

音の立ち上がりの速さを変化させるパラメーターです。値が大きいほど、アンプエンベロープセットで選んだ「音の鳴り方」の立ち上がりが速くなります。

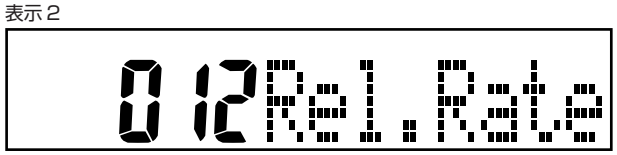
表示 2



●リリースレイト（設定値：1 ～ 127）

音の消え際の速さを変化させるパラメーターです。値が大きいほど、アンプエンベロープセットで選んだ「音の鳴り方」の消え際が速くなります。

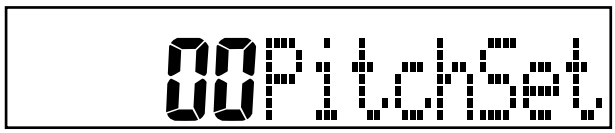
表示 2



●ピッチエンベロープセット（設定値：0 ～ 49）

音の高さを時間とともに変化させるパラメーターです。0 ～ 49 の中からピッチの変化の仕方が選べます。

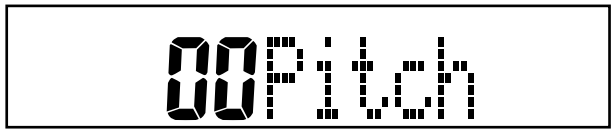
表示 2



●ピッチ（設定値：－ 64 ～ 0 ～ 63）

音色全体の音の高さを決めるパラメーターです。プラス側に大きくすると基準のピッチより高く、マイナス側に大きくすると基準のピッチより低くなります。

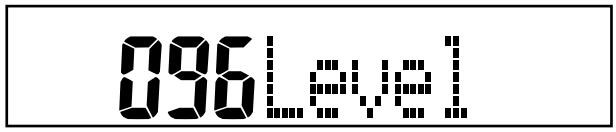
表示 2



●レベル（設定値：0 ～ 127）

音色全体の音量を決めるパラメーターです。値が大きいほど音量が上がります。

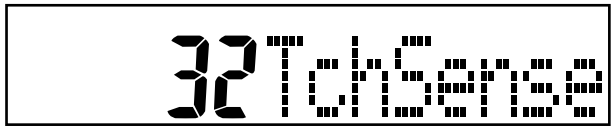
表示 2



●タッチセンス（設定値：－ 64 ～ 0 ～ 63）

鍵盤演奏の強弱に応じて音量がどれだけ変化するかを決定するパラメーターです。プラス側に大きくするとタッチが強いほど音量が大きくなり、マイナス側に大きくするとタッチが強いほど音量が小さくなります。また、値が 0 のときはタッチの強弱の影響を受けません。

表示 2

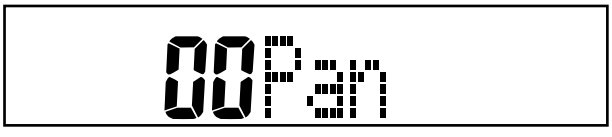


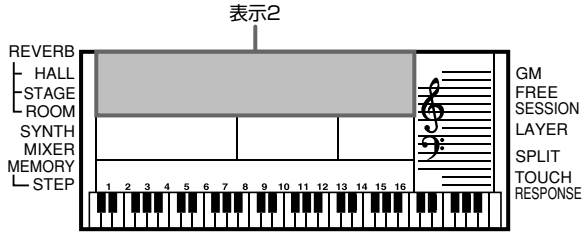
●パン（設定値：－ 64 ～ 0 ～ 63）

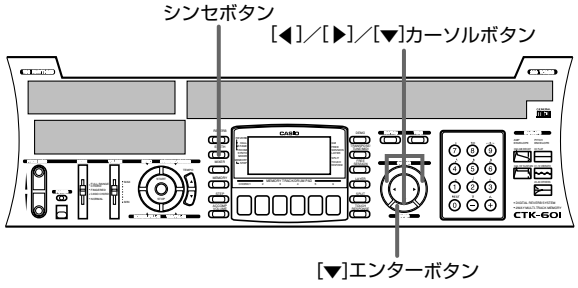
本機を内蔵スピーカーまたはステレオで鳴らしたときに、左右のどの位置から音を鳴らすかを決めるパラメーターです。プラス側に大きくすると右側から、マイナス側に大きくすると左側から音が鳴ります。

＊ミキサーのパン設定を基準に、右寄り（＋）か左寄り（－）かを指定することになります。

表示 2







■オリジナル音色作りのヒント

元の音色はイメージに近いものを選びましょう。
作りたい音色のイメージがすでにある場合は、内蔵音色の中からそのイメージに近いものを選ぶといいでしょう。また、２つの音を重ねたい場合は、2DCOの音色を選ぶようにしましょう。

●最重要なパラメーターは？

「PCM セット」と「アンプエンベロープセット」は、音の大まかなイメージを決める、重要なパラメーターです。自由な発想で音を作りたい場合は、まずこの２つのパラメーターで大まかなイメージを作り、残りのパラメーターで微調整するといいでしょう。

●さまざまな設定を試してみましょう

オリジナルの音色作りには「こうでなければならない」というルールはありません。ピアノの波形に立ち上がりの遅い音の鳴り方を選んだり、音の高さを変化させてみたりと、さまざまな方法をためしてみましょう。

DATA EXAMPLE

Tone Name [Pno + Str]　　元の音色No. [051]

No.	Parametor	Range of Value	DCO1	DCO2
1	PCM Set	0 ~ 173	000	062
2	Amp Envelope Set	0 ~ 137	000	065
3	Attack Rate	1 ~ 127	127	005
4	Release Rate	1 ~ 127	010	005
5	Pitch Envelope Set	0 ~ 49	00	37
6	Pitch	–64 ~ 0 ~ 63	–16	00
7	Level	0 ~ 127	103	104
8	Touch Sense	–64 ~ 0 ~ 63	63	–64
9	Pan	–64 ~ 0 ~ 63	00	00

◆鍵盤を「強く／弱く」弾く

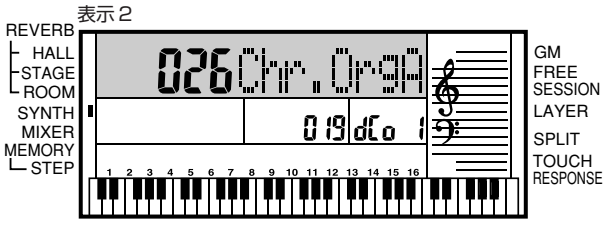
Tone Name [Ambulnce]　　元の音色No. [080]

No.	Parametor	Range of Value	DCO1	DCO2
1	PCM Set	0 ~ 173	097	098
2	Amp Envelope Set	0 ~ 137	021	000
3	Attack Rate	1 ~ 127	004	003
4	Release Rate	1 ~ 127	001	010
5	Pitch Envelope Set	0 ~ 49	47	47
6	Pitch	–64 ~ 0 ~ 63	63	–64
7	Level	0 ~ 127	088	088
8	Touch Sense	–64 ~ 0 ~ 63	44	44
9	Pan	–64 ~ 0 ~ 63	–64	63

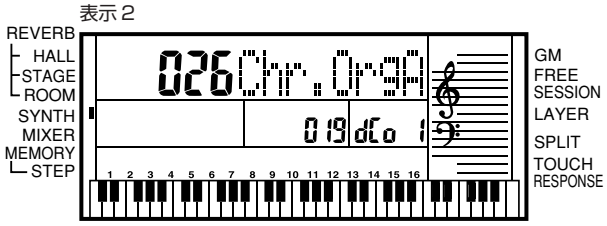
◆鍵盤を押したままにする

オリジナル音色に名前を付けて保存するには

オリジナル音色を作ったら、ユーザーエリアに名前を付けて保存しておきましょう。保存したオリジナル音色は、通常のプリセット音色と同じように呼び出したり、メモリー機能で利用することができます。

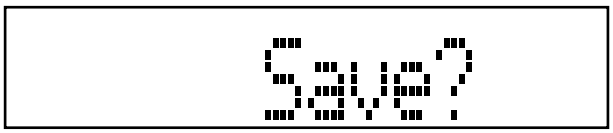


1. 音色を選び、**シンセ**ボタンを押してから、各パラメーターを設定します。



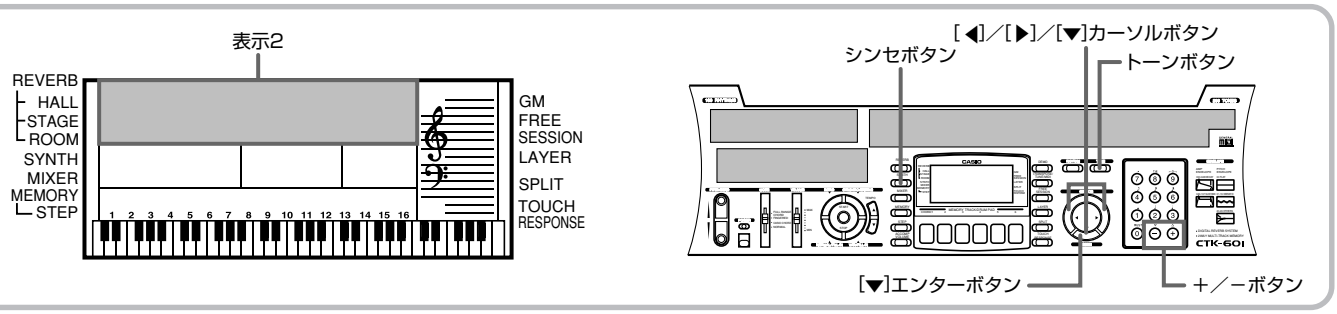
2. 設定が終わったら、**シンセ**ボタンを押します。
➠ Save?（保存しますか？）と表示されます。

表示2



- この状態から、パラメーター設定に戻るには、**[▶]カーソル**ボタンを押して“Cancel?”と表示させた後、**[▼]エンター**ボタンを押します。
- オリジナル音色作りを中断したいときは、**[▶]カーソル**ボタンを２回押して“Delete?”と表示させた後、**[▼]エンター**ボタンを押します（オリジナル音色が消去され、通常の状態に戻ります）。

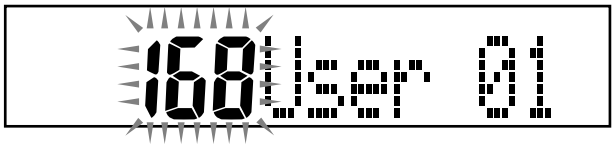
シンセ機能を使ってみましょう



3. オリジナル音色を保存したいときは、**[▼]エンター**ボタンを押します。

➠ 保存先のユーザーエリアの音色番号が表示されます。

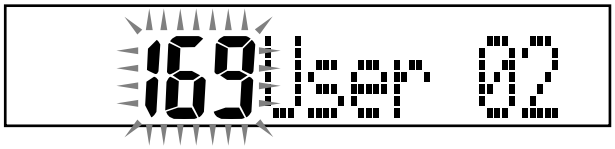
表示2



4. +/−ボタンで、保存先の音色番号を選択します。

- ユーザーエリアの音色番号 168 ～ 199 のみが選べます。

表示2



5. オリジナル音色に名前を付けたい場合は、**[▶]カーソル**ボタンを押します。

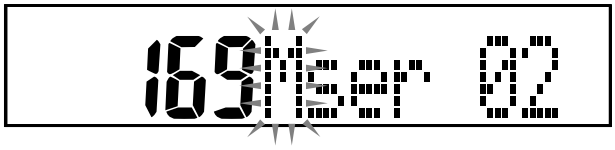
➠ 音色名の最初の文字が点滅し、この文字が変更可能になったことを表します。

表示2

- 名前を付けない場合は、ステップ５～７の操作を省略します。

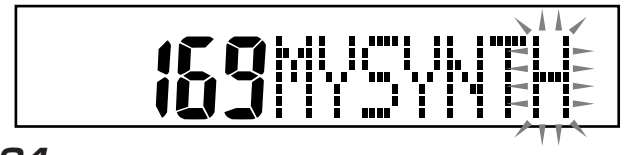
6. +/−ボタンで音色名の最初の文字を選びます。

表示2



7. **[▶]カーソル**ボタンを押して文字の点滅部分を移動させ、ステップ５～６と同じ要領で２番目以降の文字を選びます。

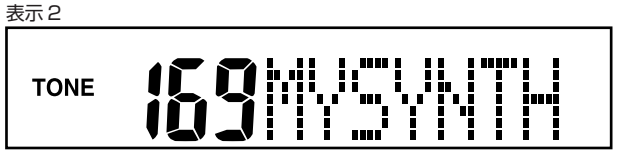
表示2



8. 保存を実行するには、**[▼]エンター**ボタンを押します。

➠ オリジナル音色がユーザーエリアの指定した音色番号に保存され、通常の状態に戻ります。

表示2



- 保存を中断したいときは、**シンセ**ボタンまたは**トーン**ボタンを押します（通常の状態に戻ります。別の音色番号を選ぶ前に再度**シンセ**ボタンを押せば、オリジナル音色作りを続行できます）。

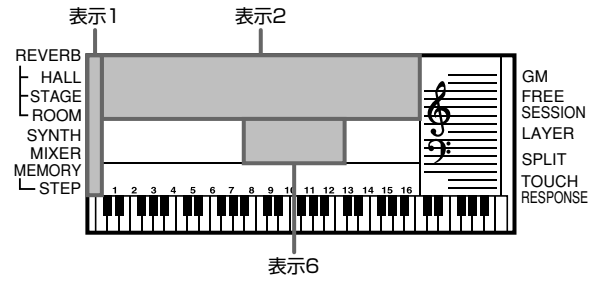
■NOTE■

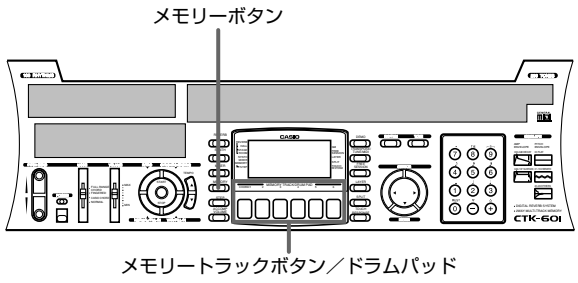
- 操作７のときに**[◀]カーソル**ボタンを使って、操作４の保存先を選択する状態に戻れます。ただし、保存先の番号を変更すると、設定したオリジナル音色名も、変更前の状態に戻ります。
- シンセ機能を使っているときは、レイヤー／スプリットなどの鍵盤の設定、自動伴奏、デモ演奏、MIDI 機能が利用できません。

■文字・記号一覧表

;	1	’	}	s	i	_	U	K	A
<	2	(	→	t	j	`	V	L	B
=	3	)	←	u	k	a	W	M	C
>	4	*		v	l	b	X	N	D
?	5	+	!	w	m	c	Y	O	E
@	6	,	”	x	n	d	Z	P	F
	7	—	#	y	o	e	[	Q	G
	8	.	$	z	p	f	¥	R	H
	9	／	%	{	q	g	]	S	I
	:	0	&	|	r	h	^	T	J

メモリー機能を使って演奏を録音してみましょう





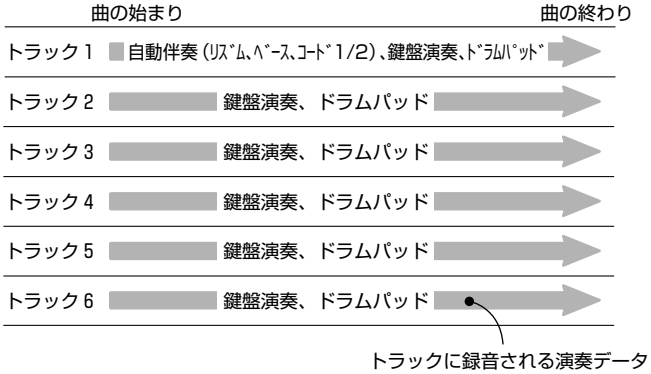
本機には鍵盤演奏を録音して2曲までオリジナル曲が作れるメモリー機能を装備しています。録音の方法は、鍵盤演奏をそのまま録音する「リアルタイム録音」と、コードや音符を1つ1つ入力していく「ステップ録音」があります。

■NOTE■

- メモリー機能の録音待機時、録音時にレイヤー機能、スプリット機能を使用することはできません。また、レイヤー機能、スプリット機能は録音待機時、録音時には自動的に解除になります。

トラックについて

メモリー機能は、テープレコーダーのように鍵盤演奏の内容を録音して再生する機能です。さらに音を重ねて録音したり、録音した後にテンポを変更して再生することも可能です。音を重ねて録音する場合、6つのパートの演奏内容や音色番号が、メモリー内の個別の位置（これをトラックと呼びます）にデータとして記録されます。



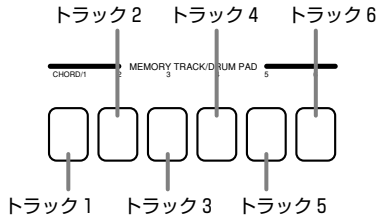
■NOTE■

- 本機ではトラック1が基本トラックになっており、鍵盤の演奏だけでなく自動伴奏やドラムパッドの演奏も録音できます。トラック2～6は鍵盤演奏とドラムパッドが録音できるメロディー専用トラックで、音を重ねて録音するときに利用します。
- 各トラックは独立しているので、録音時に弾き間違えても、そのトラックだけ録音し直すことが可能です。
- トラックごとに音色を変えて録音でき、6種類の楽器パートを同時に再生できます。

■トラックを選択するには

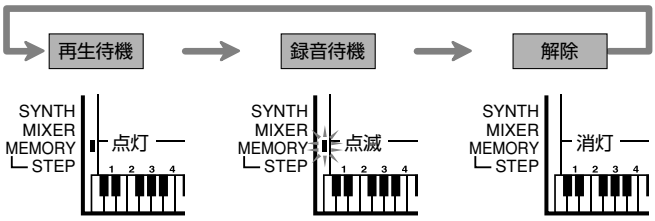
トラックを選ぶ操作が必要な場合、6つの**ドラムパッド**がトラックを選択する「メモリートラックボタン」として機能します。CHORD/1 ～ 6と記された**メモリートラック**ボタンを押すことで、トラック1 ～ 6が選択されます。

【メモリートラックボタン】



メモリーボタンの使い方

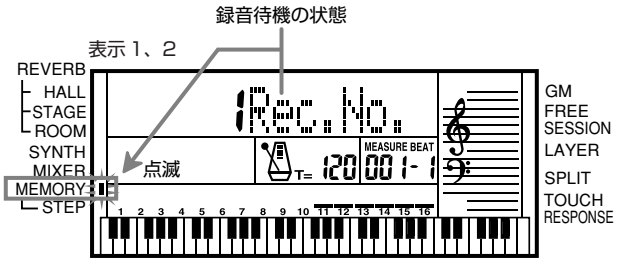
押すごとに、以下のように切り替わります。



演奏をそのまま録音するには（リアルタイム録音）

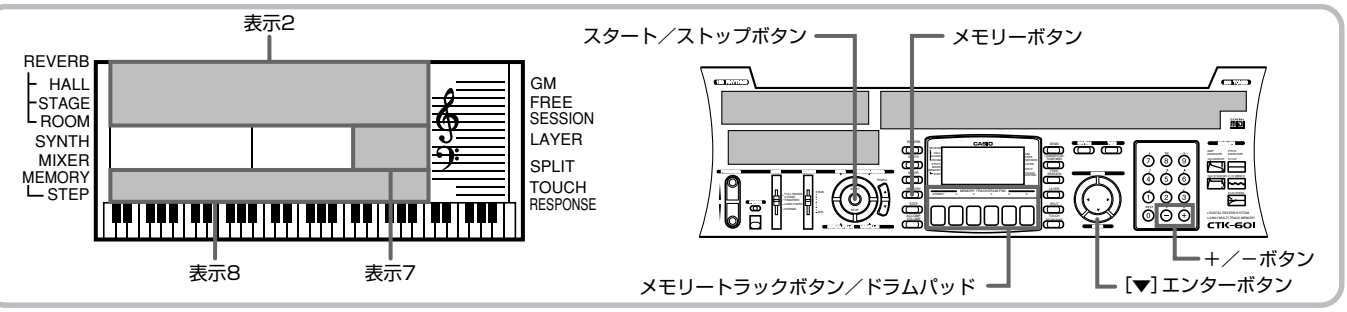
鍵盤の演奏をそのまま録音してみましょう。

1. **メモリー**ボタンを2回押して、録音待機の状態にします。

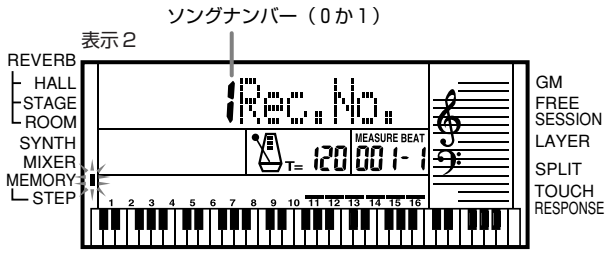


続けて、5秒以内に次の「操作2」を行います。

メモリー機能を使って演奏を録音してみましょう



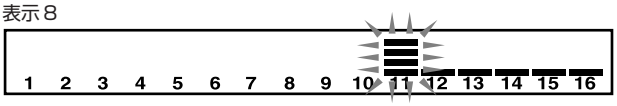
2. ＋／－ボタンで曲の番号（ソングナンバー）を選びます。



★ ***ソングナンバー表示は、5秒たつと消えます（録音待機状態は継続）。復帰させるには、メモリーボタンを数回押します。***

3. CHORD/1 の**メモリートラック**ボタンで、トラック1を選びます。
   - 録音を開始するとトラック選択ボタンは通常の**ドラムパッド**として利用できます。

表示8



★ *録音待機の状態では、チャンネル 11 ～ 16 のレベルメーターの表示で、すでに録音されたトラックかどうかを知ることができます。（31 ページ「録音／エディット待機状態のレベルメーターの表示について」をご参照ください。）*

4. 必要に応じて次の設定を行います。
   - 音色番号
   - リズム番号
   - テンポ調節
   - **モード**スイッチ

5. **スタート／ストップ**ボタンで録音を開始します。

6. 鍵盤で演奏します。
   - **モード**スイッチでコードの指定方法が選ばれていれば、伴奏鍵盤でコード自動伴奏も録音できます。
   - ドラムパッドやピッチベンダー、ペダルの操作も録音されます（「リアルタイム録音でトラック1に記録される内容」参照）。

7. 演奏が終わったら、**スタート／ストップ**ボタンで録音を終了します。

★ *録音時に弾き間違えた場合は、操作 1 からやり直すか、エディット機能（33ページ）を利用してデータを修正できます。*

■NOTE■

- 操作3の後に**[▼]エンター**ボタンを押すとトラックが確定され、**メモリートラック**ボタンは**ドラムパッド**の機能に切り替わります。この場合、鍵盤の代わりに**ドラムパッド**を押して録音を開始することもできます。
- リアルタイム録音で、録音済みのトラックに再度録音をする場合、以前録音されたデータは新しいデータに上書きされます。

■リアルタイム録音でトラック1に記録される内容

鍵盤演奏やコード伴奏以外にも以下の内容がトラックに記録され、録音時のまま再生されます。

- 音色番号
- リズム番号
- **イントロ**ボタン、**シンクロ／エンディング**ボタン、**ノーマル／フィルイン**ボタン、**バリエーション／フィルイン**ボタンの操作
- ピッチベンダーの操作
- ペダル操作
- **ドラムパッド**操作

タッチレスポンス機能の設定について

タッチレスポンス機能の設定（オン／オフ）はメモリー機能で記憶されません。

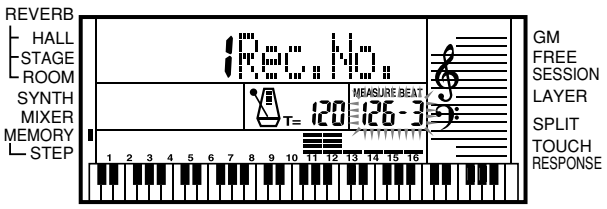
ミキサー機能の設定について

録音時にチャンネル1のミキサー設定（16ページ参照）が、トラックに自動的に記憶されます。各設定は、ミキサー機能を使って自由に変更できます。

■録音できる長さ（メモリー容量）

2曲合わせて約5200音符分です。1曲で5200音符分を使いきってしまうと、2曲目は録音できません。

- 録音中に録音できる音符が約100音符以下になると、小節数と拍数の液晶表示が点滅します。



- 録音中にメモリー容量がいっぱいになると、録音が自動的に終了します（自動伴奏やリズムを鳴らしているときはその音も止まります）。

■録音内容の保持について

- 新しく録音した時点で前の録音内容は消えます。
- 電池やACアダプターで電源を供給している間は、電源をオフにしても録音内容を保持します。電池で利用しているときに電池を抜いたり、電池が消耗すると録音内容が消去されます。電池の交換は、ACアダプターを接続した状態で行うことをおすすめします。
- 録音中に電源が切れると、録音中のトラックの内容はすべて消去されます。
- MIDIを利用してコンピューターなどの外部機器に録音内容を保存することができます。詳しくは45ページの「内部データのバルク送受信」をご参照ください。

■トラック1にリアルタイム録音する場合の応用例

1）リズムなしで録音するには

操作5を省略します。

➠ 鍵盤を押すと同時にリズムなしで演奏内容が録音されます。

2）シンクロスタートで録音を始めるには

操作5の代わりに**シンクロ／エンディング**ボタンを押します。

➠ 伴奏鍵盤でコードを指定すると自動伴奏と録音が同時にスタートします。

3）前奏やエンディング、フィルインを入れて録音するには

録音中は**イントロ**ボタン、**シンクロ／エンディング**ボタン、**ノーマル／フィルイン**ボタン、**バリエーション／フィルイン**ボタンを使用することができます（13～14ページ参照）。

4）シンクロスタートで前奏から録音を始めるには

操作5の代わりに**シンクロ／エンディング**ボタンと**イントロ**ボタンを続けて押します。

➠ 伴奏鍵盤でコードを指定すると、コード伴奏付きの前奏と録音を同時にスタートします。

5）録音の途中から自動伴奏をスタートさせるには

操作5の代わりに**シンクロ／エンディング**ボタンを押し、メロディー鍵盤で演奏を始めます。

➠ 伴奏なしでメロディーの録音を開始します。録音の途中で伴奏鍵盤でコードを指定すると、自動伴奏がスタートします。

6）フリーセッションを使って録音するには

操作4の後に**フリーセッション**ボタンを押します。

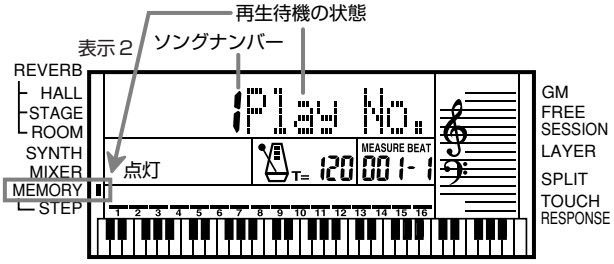
➠ 操作5でフリーセッション機能による自動伴奏と鍵盤演奏の録音を開始します。この場合、**モード**スイッチの設定にかかわらず、鍵盤はすべてメロディー鍵盤になります。

★ *フリーセッション機能を利用して録音を行っている最中に**フリーセッション**ボタンを押すと、フリーセッションは解除されますが、解除されたときのコードを保持したまま録音を続けます。このとき、**モード**スイッチでコードの指定方法が選ばれていれば、その方法に従ってコードが変えられます。*

メモリーを再生してみましょう

トラックに録音した演奏内容を再生して、うまく録音されているか確認しましょう。

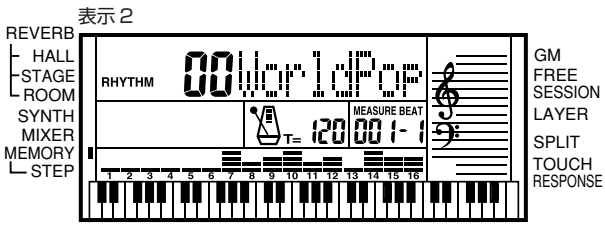
1. **メモリー**ボタンを押して再生待機の状態にし、**+／−**ボタンでソングナンバー（0か1）を選びます。



★ *ソングナンバー表示は、5秒たつと消えます（再生待機状態は継続）。復帰させるには、**メモリー**ボタンを数回押します。*

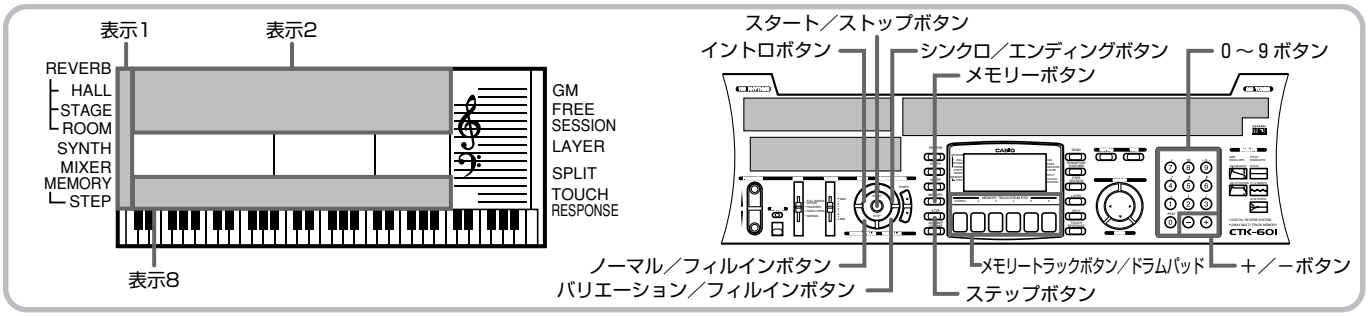
2. **スタート／ストップ**ボタンを押します。

➠ メモリーを再生します。



- **テンポ**ボタンでテンポを調節できます。
- **スタート／ストップ**ボタンを押すと再生を停止します。

メモリー機能を使って演奏を録音してみましょう

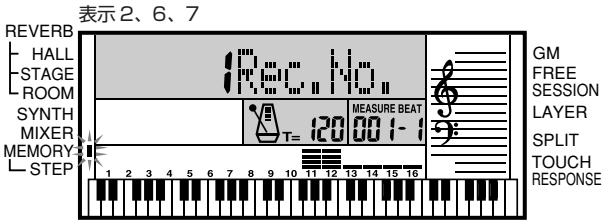


■NOTE■

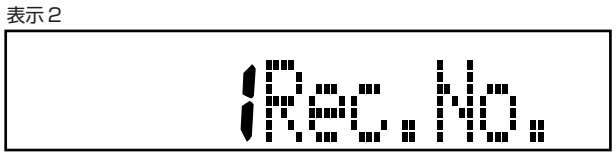
- メモリー再生時にも、レイヤーやスプリット機能を利用した鍵盤演奏が楽しめます。
- **スタート／ストップ**ボタンでメモリーを再生するときは、常に曲の最初からスタートします。
- ミキサー機能で再生トラックの音量や定位の設定が行えます。このときその設定データはMIDIアウトから出力します。
- **モード**スイッチの設定にかかわらず、鍵盤はすべてメロディー鍵盤になります。

自動伴奏のコードを1つずつ録音するには（コードのステップ録音）

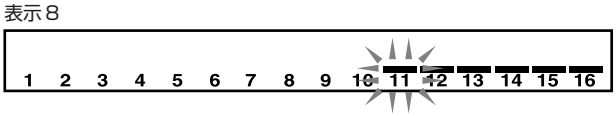
自動伴奏のコードの種類と次のコードまでの長さを1つ1つ録音していく方法です。リズムに合わせて伴奏鍵盤を弾くのが苦手な方でも、簡単にオリジナルのコード進行による自動伴奏が作れます。



1. **メモリー**ボタンを押して録音待機の状態にし、＋／－ボタンでソングナンバー（0か1）を選びます。

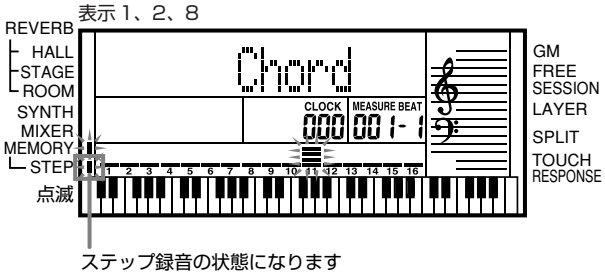


2. **メモリートラック**ボタンで、トラック1を選びます。



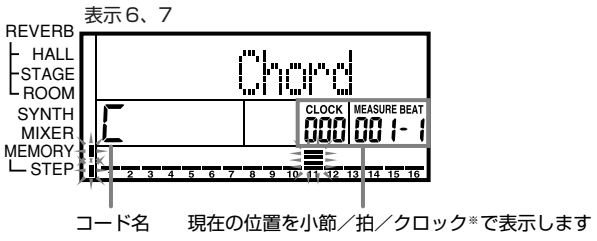
3. 必要に応じて次の設定を行います。
   - リズム番号
   - **モード**スイッチ

4. **ステップ**ボタンを押します。



5. **シンクロ／エンディング**ボタンを押します。

6. コードを指定します。
   - **モード**スイッチでコードの指定方法が選ばれている場合、その方法に従ってコードの種類を指定します。
   - **モード**スイッチが“ノーマル”の場合、ルート入力鍵盤とコード種類入力鍵盤でコードの種類を指定します。詳しくは「ノーマルモードによるコードの指定方法」をご参照ください。



7. 次のコードに変わるまでの長さを入力します。
   - 1～9ボタンでコードの長さを指定します（「音の長さを決めるには」（29ページ）を参照）。
   - ➠ 指定したコードと長さが録音され、次のコードを録音する待機状態になります。
   - 引き続きコードのステップ録音を続ける場合は、操作6、7を繰り返してください。

8. 録音が終わったら、**メモリー**ボタン、**ステップ**ボタン、**スタート／ストップ**ボタンのいずれかを押してステップ録音を停止します。
   - ➠ 録音したソングが再生待機の状態になります。
   - ソングを再生するときは、**スタート／ストップ**ボタンを押してください。

■NOTE■

- ステップ録音中にミスした場合は32ページの「ステップ録音中にミスした場合」をご参照ください。
- ステップ録音では、録音済みのトラックの延長録音が行えます。この場合、操作 2 で録音済みのトラックを選ぶだけで、自動的に以前録音された最後の位置（小節／拍／クロック）へ移動します。
- 操作 6 、7 で **0** ボタンを押すと休符が指定されますが、伴奏が演奏されているときは休符を入力しても演奏内容には反映されません。

※ 48 クロック＝ 1 拍

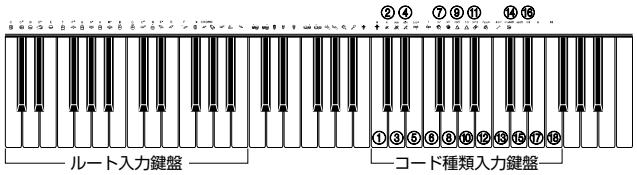
■ステップ録音でトラック 1 に記録される内容

コード以外にも、以下の内容も録音して再生できます。

- リズム番号
- **イントロ**ボタン、**シンクロ／エンディング**ボタン、**ノーマル／フィルイン**ボタン、**バリエーション／フィルイン**ボタンの操作

■ノーマルモードによるコードの指定方法

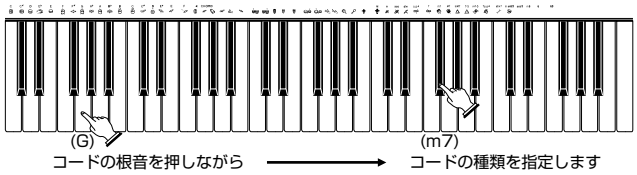
モードスイッチを“ノーマル”に合わせてコードをステップ録音する場合、コードの指定方法はカシオコードやフィンガードとは異なる独自の方法を使用します。
この方法では、コードの押さえ方を知らなくても、2 つの鍵盤を押さえるだけで18種類のコードを簡単に指定できます。



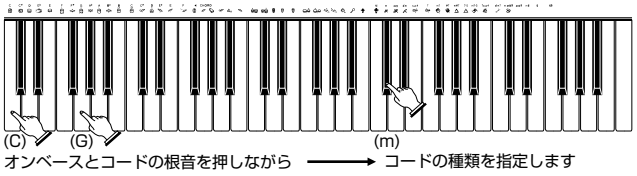
① M（メジャー）
② m（マイナー）
③ aug（オーギュメント）
④ dim（ディミニッシュ）
⑤ sus4（サスフォー）
⑥ 7（セブンス）
⑦ m7（マイナーセブンス）
⑧ M7（メジャーセブンス）
⑨ mM7（マイナーメジャーセブンス）
⑩ 7-5（セブンスフラットファイブ）
⑪ m7-5（マイナーセブンスフラットファイブ）
⑫ 7sus4（セブンスサスフォー）
⑬ dim7（ディミニッシュセブンス）
⑭ madd9（マイナーアドナインス）
⑮ add9（アドナインス）
⑯ m6（マイナーシックス）
⑰ 6（シックス）
⑱ 69（シックスナインス）

コードの指定は、「ルート入力鍵盤」でコードの根音（ルート）を押しながら、「コード指定入力鍵盤」でコードの種類を指定します。オンベースコード（ルート以外をベース音で演奏するコード）を入力する場合は、ルート入力鍵盤を 2 つ押さえることで、下側のノートがオンベースとして指定されます。

例 1 ： Gm7 のコードを入力する場合は、ルート入力鍵盤で「ソ」を押しながらコード指定入力鍵盤の「m7」を押します。



例 2 ： Gm/C のコードを入力する場合は、ルート入力鍵盤で下から「ド」と「ソ」を押しながら、コード指定入力鍵盤の「m」を押します。

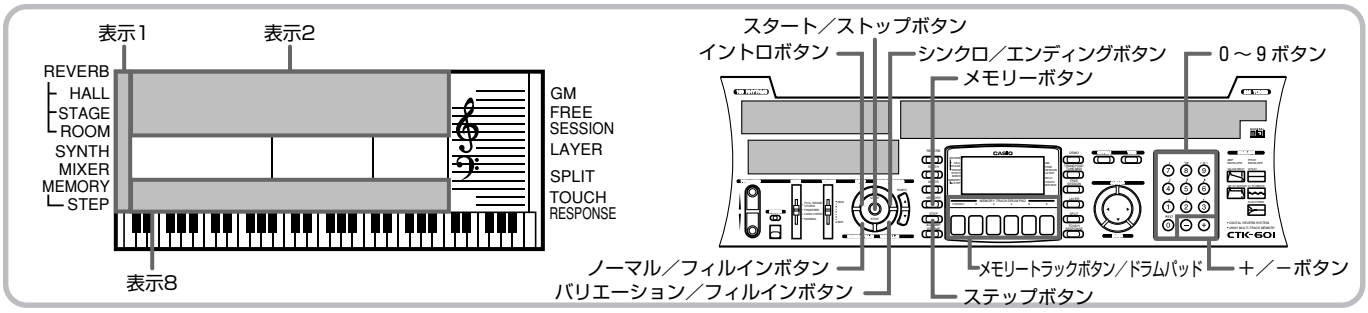


■音の長さを決めるには

ステップ録音を利用しているとき、**0** ～ **9** ボタンは音の長さを決めるボタンとして働きます。

- 全音符（𝅝）、2 分音符（𝅗𝅥）、4 分音符（♩）、8 分音符（♪）、16 分音符（𝅘𝅥𝅯）、32 分音符（𝅘𝅥𝅰）
  ➡ **1** ～ **6**ボタンに記されたそれぞれのボタンを押します。
  例： 4 分音符（♩）＝ **3** ボタンを押します。
- 付点（𝅗𝅥.）、3 連符（⌐3¬）
  ➡ **7**（付点）または **9**（3 連符）ボタンを押しながら、**1** ～ **6** ボタンを押します。
  例：付点 8 分音符（♪.）＝ **7** ボタンを押しながら、**4** ボタンを押します。
- タイ（TIE）
  ➡ **8** ボタンを押してからタイのかかる最初の音符を入力します。
  例：♪⁀♪ を入力するときは、**8** ボタンを押した後で、**7** ボタンを押しながら **4** ボタンを押します。次に入力される音符（この場合は 16 分音符）にタイがかかります。
- 休符
  ➡ **0** ボタン（REST）を押してから、**1** ～ **9** ボタンで休符の長さを決めます。
  例： 8 分休符＝ **0** ボタンを押してから **4** ボタンを押します。

メモリー機能を使って演奏を録音してみましょう



■トラック1にステップ録音する場合の応用例

1）前奏から曲を始めるには

操作5で**シンクロ／エンディング**ボタンに続いて**イントロ**ボタンを押します。

2）曲の途中でリズムをバリエーションのパターンに切り替えるには

操作6でコードを入力する直前に**バリエーション／フィルイン**ボタンを押します。

3）エンディング、フィルインを入れるには

操作6でコードを入力する直前に**シンクロ／エンディング**ボタン、**ノーマル／フィルイン**ボタン（バリエーションのリズムでは**バリエーション／フィルイン**ボタン）を押します。

4）リズムなしでコードのステップ録音をするには

操作5を省略します。

➠ **0～9**ボタンで指定した長のコードが録音されます。ここでは休符の指定ができるので、オリジナルのコード演奏パターンを作成できます。

5）リズム演奏の途中からコード伴奏を加えるには

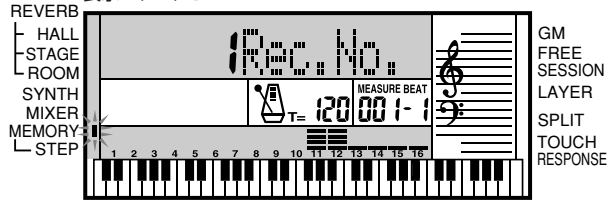
曲の一番最初で操作6から休符を入力し、その後コードを入力します。この場合以前にコードが指定されていないことに注意してください。

➠ 休符の長さだけリズムを演奏し、続いてコード伴奏が加わります。

音を重ねて録音するには

本機のメモリー機能は、自動伴奏を含む鍵盤演奏を録音するトラック1以外に、5つのメロディーパート専用の録音トラックが用意されています。これらのトラックに音を重ねて録音していくことで、より本格的な楽曲アレンジで録音を楽しむことができます。録音の手順は、トラック1の録音方法と基本的に同じです。

表示1、2、8

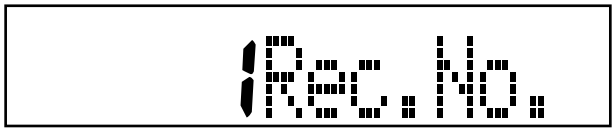


《リアルタイム録音の場合》

トラック1に録音した演奏に合わせて、鍵盤演奏をそのまま録音します。

1. **メモリー**ボタンを押して録音待機の状態にし、**＋／－**ボタンでソングナンバー（0か1）を選びます。

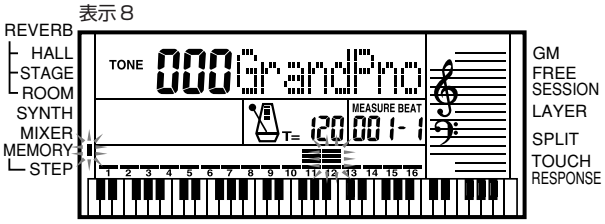
表示2



2. **メモリートラック**ボタンで、トラック2～6を選びます。

例：トラック2を選んだ場合

表示8



★ *録音待機の状態では、チャンネル11～16のレベルメーターの表示で、すでに録音されたトラックかどうかを知ることができます（「録音／エディット待機状態のレベルメーターの表示について」（31ページ）をご参照ください）。*

3. 必要に応じて次の設定を行います。
   - 音色番号
   - テンポ（弾きやすいテンポに）

4. **スタート／ストップ**ボタンで録音を開始します。
   - このとき録音トラック以外の録音済みのトラックは再生されます。
   - ドラムパッドやピッチベンダー、ペダルの操作も録音されます。

5. 録音済みのトラックに合わせて鍵盤を弾きます。

6. 録音が終わったら、**スタート／ストップ**ボタンで録音を停止します。

■リアルタイム録音でトラック 2 ～ 6 に録音される内容

鍵盤演奏以外に以下の内容も録音されており、録音時のまま再生されます。

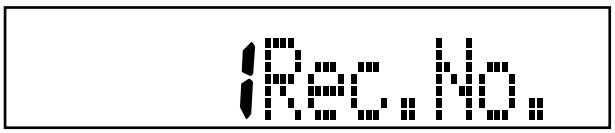
- 音色番号
- ペダルの操作
- ピッチベンダーの操作
- ドラムパッド

《ステップ録音の場合》

音の高さや長さを決めながら、音符を１つ１つ録音していきます。

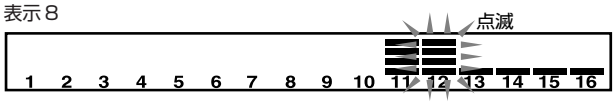
1. **メモリー**ボタンを押して録音待機の状態にし、**＋／－**ボタンでソングナンバー（０か１）を選びます。

表示２



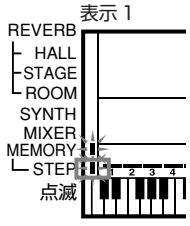
2. **メモリートラック**ボタンで、トラック 2 ～ 6 を選びます。
   例：トラック 2 を選んだ場合

表示８



3. 必要に応じて、音色番号を設定します。

4. **ステップ**ボタンを押します。



5. ●音符を入力する場合、鍵盤または**＋／－**ボタンで音の高さを決めます。
   - 鍵盤を押して音の高さを決める場合、鍵盤を弾く強さが反映されます。（タッチレスポンス“オン”のとき）また和音でも入力できます。
   - ＋／－ボタンで音の高さを決める場合、液晶表示の五線譜の表示部で音の高さを確認します。この方法では、音符の強弱（ベロシティ）は直前のベロシティ値と同一になります。

   ●休符を入力する場合、**0** ボタンを押します。
   - 休符の入力をキャンセルするには、もう一度 **0** ボタンを押します。

6. **1** ～ **9**ボタンで音符（休符）の長さを決めます（29ページ参照）。
   ➠ 指定された音符（休符）が録音されました。録音を続ける場合はこの状態のまま操作５、６を繰り返します。

7. 録音が終わったら、**スタート／ストップ**ボタンを押して録音を停止します。

■NOTE■

- ステップ録音中にミスした場合は32ページの「ステップ録音中にミスした場合」をご参照ください。
- ステップ録音では、録音済みのトラックの延長録音が行えます。この場合、操作 2 で録音済みのトラックを選ぶだけで、自動的に以前録音された最後の位置（小節／拍／クロック）へ移動します。
- 操作 5 でドラムパッドを押せば、ドラムパッドの演奏をステップ録音できます。
- トラック 2 ～ 6 にステップ録音する場合、モードスイッチの指定にかかわらず、鍵盤はすべてメロディー鍵盤となります。

■ステップ録音でトラック 2 ～ 6 に録音される内容

音符以外に、以下の内容も録音して再生できます。

- 音色番号
- ドラムパッドの演奏

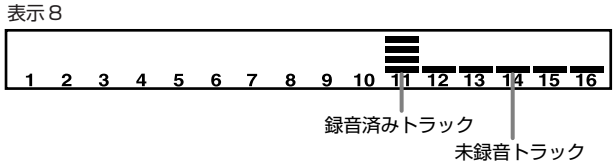
■特定のトラックの音をオフにするには

ミキサー機能（16 ページ参照）で、希望のトラックのチャンネルを“オフ”にします。

■録音／エディット待機状態のレベルメーターの表示について

チャンネル 11 ～ 16 が、トラック 1 ～ 6 に対応しています。録音またはエディット（33 ページ参照）待機状態では、レベルメーターの表示方法で録音済みのトラックかどうかを知ることができます。レベルメーターの液晶表示が 4 つ点灯しているトラックが録音済みのトラックで、1 つ点灯しているトラックが未録音のトラックです。

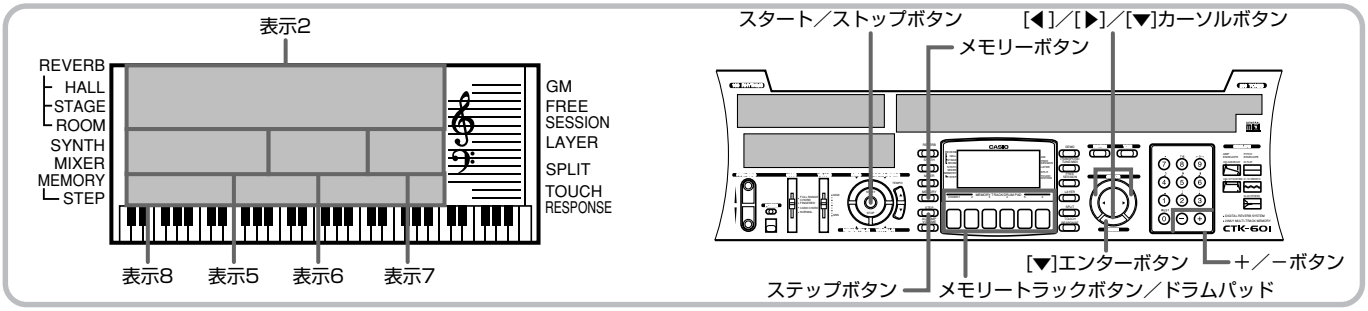
表示８



■液晶表示の音符情報の対象トラックを選ぶには

44ページ「ナビゲートトラックの設定」をご参照ください。

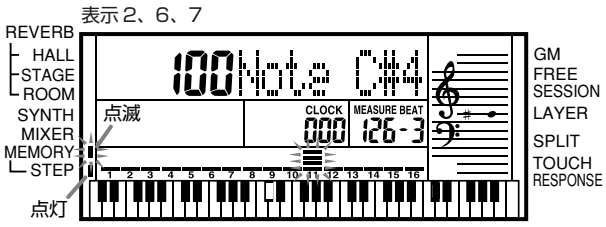
メモリー機能を使って演奏を録音してみましょう

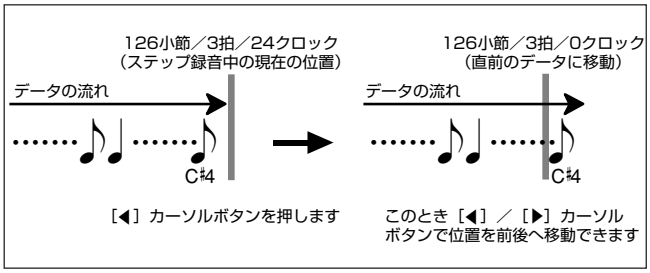


ステップ録音中にミスした場合

ステップ録音中にミスした場合、録音待機を保持したままデータの位置をさかのぼり、そこからステップ録音をやり直すことができます。この場合、さかのぼった位置より後のデータは全て消去されることに注意してください。

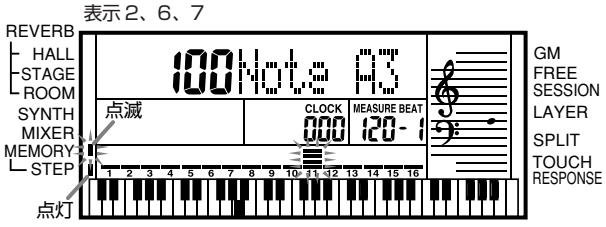
1. ステップ録音をミスした場合は、ステップ録音の状態で**[◀]カーソル**ボタンを押します。
   - 直前のデータの位置に移動し、そのデータを液晶表示に表示します。さらに**[◀]／[▶]カーソル**ボタンで録音したデータ内を移動できるようになります。

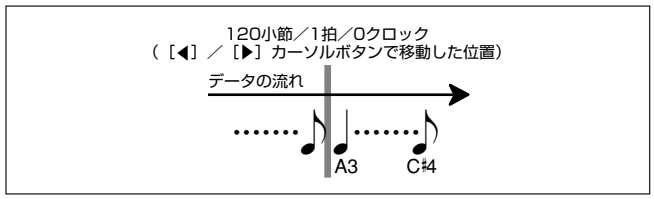




2. **[◀]／[▶]カーソル**ボタンで録音済みのデータを液晶表示で確認しながら、録音をやり直したい位置へ移動します。

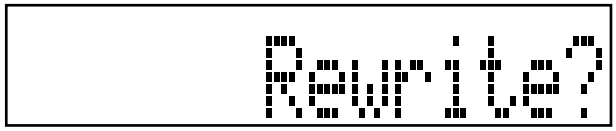
   例：120小節／1拍／0クロック目の位置にあるA3のノートデータ以降を録音し直す場合



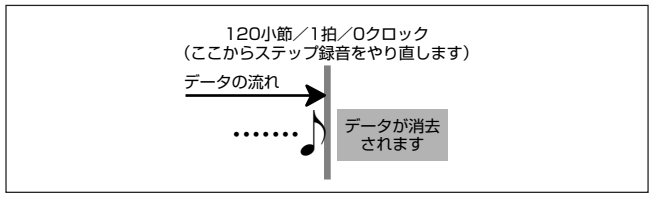


3. **+／−**ボタンを同時に押します。

表示2



4. **[▼]エンター**ボタンを押します。
   - ➠ 指定した位置以降のデータが消去され、ステップ録音の待機状態になります。
   - **[◀]／[▶]カーソル**ボタンまたは**+／−**ボタンを押すとデータの消去をキャンセルし、再度**[◀]／[▶]カーソル**ボタンで移動できるようになります。

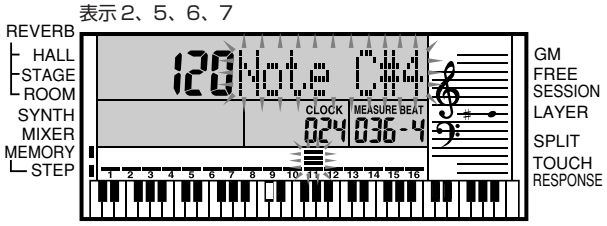


■NOTE■

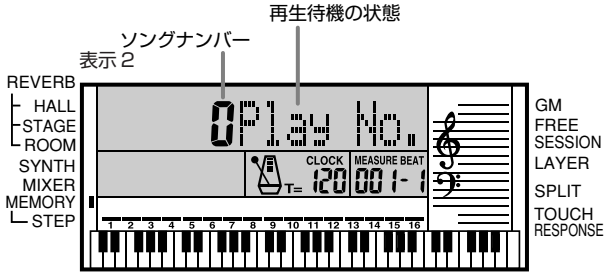
- **[◀]／[▶]カーソル**ボタンでデータの最後の位置に到達すると、液晶表示に「TrackEnd」と表示されます。

録音した内容を修正するには（エディット機能）

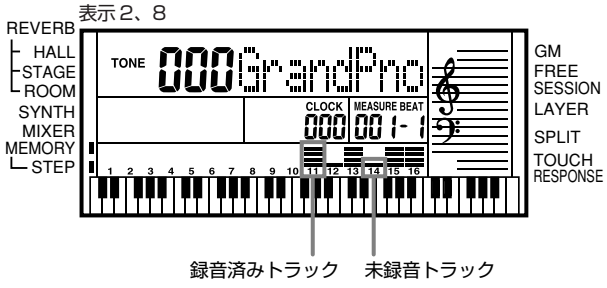
エディット機能を利用すると、トラックに録音された音符や音色番号などのデータを１つ１つ呼び出して、その設定値（パラメーター）を修正できます。例えば録音されたミストーンを正しい音の高さに直したり、録音したトラックの音色を後で変更したりできます。



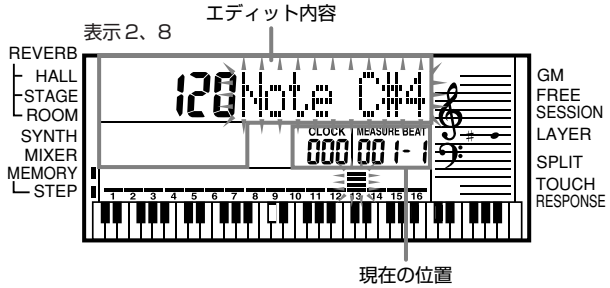
1. **メモリー**ボタンを押して再生待機の状態にし、**＋／－**ボタンでソングナンバーを選びます。



2. **ステップ**ボタンを押します。

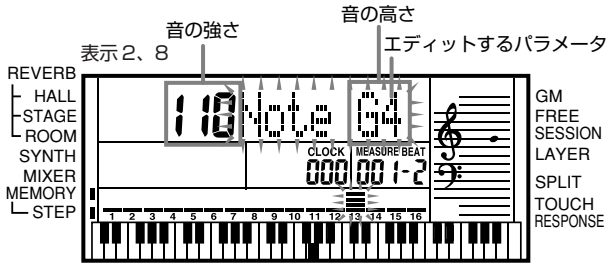


3. **メモリートラック**ボタンで、エディットしたい録音済みのトラックを選びます。



4. **[◀]／[▶]カーソル**ボタンでトラックの中を移動し、修正するパラメーターを呼び出します。

＜音符エディットの例＞



★ *点滅している表示が現在エディット可能なパラメーターです。*

★ *音符をエディットするとき、「音の強さ」と「音の高さ」のパラメーターは、**[▼]カーソル**ボタンで選択します。*

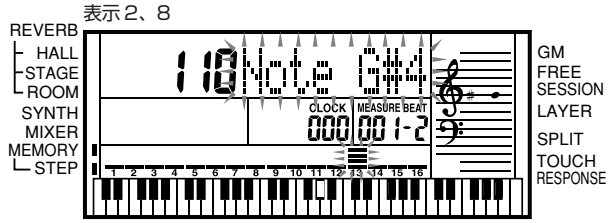
5. 設定値を修正します。

重要 エディットするときに音の高さを、前後の音と同じにはしないでください。（エディットした音や、前後の音の長さが変わってしまうなど、正しくエディットされないことがあります。）万一、音の長さが変わってしまったら、再度、録音し直してください。

★ *データの修正方法はパラメーターの種類によって異なります。詳しくは「エディットの方法とディスプレイの表示について」（34 ページ）をご参照ください。*

例：音の高さを修正する場合は、＋／－ボタンまたは鍵盤を使って変更したい音の高さを決めます。

- 音の高さ、強さ、コード、ドラムパッドのデータをエディットする場合、変更と同時に変更後の音が鳴ります。



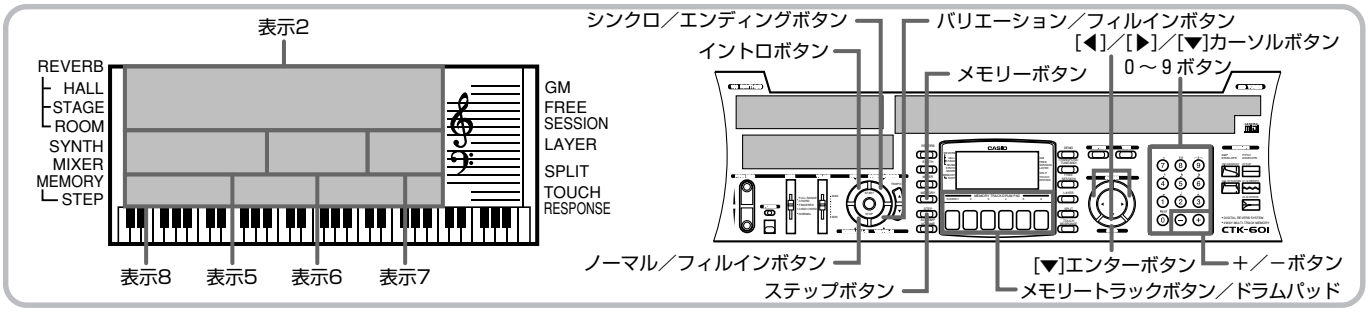
- このままエディットを続ける場合は、操作 4 と 5 を繰り返してください。

6. エディットを終了する場合は、**スタート／ストップ**ボタンを押します。

■NOTE■

- メモリー再生を停止した状態からエディット機能を利用すると、曲の停止した位置からエディットを開始できます。
- トラック 2 ～ 6 では、「音符」「音色番号」「ドラムパッド」のみエディットできます。
- リアルタイム録音で録音したデータの「音色番号」はエディットすることはできません。
- ステップ録音でも「音色番号」を指定せずに録音をした場合は「音色番号」のエディットをすることはできません。
- 新たにデータを加えることはできません。
- 各データの位置を移動することはできません。
- 音符の音の長さは調節できません。

メモリー機能を使って演奏を録音してみましょう



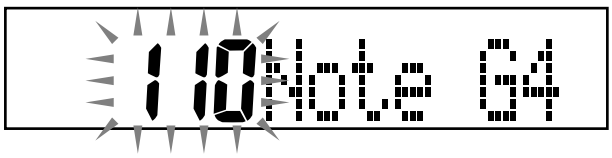
■エディットの方法とディスプレイの表示について

エディットできるデータの各パラメーターの表示方法とそのエディット方法は次の通りです。

●音符（音の強さ）

鍵盤、0～9ボタン、+／−ボタンで調節します。鍵盤で入力するときは弾いたときの強さを反映します。(タッチレスポンス“オン”のとき)

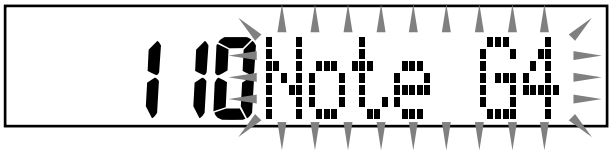
表示2



●音符（音の高さ）

鍵盤で入力するか、+／−ボタンで高低を調節します。このとき鍵盤表示や五線譜表示でも音の高さを確認できます。

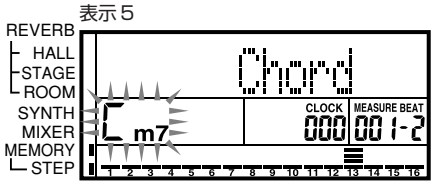
表示2



●コード

鍵盤から指定の入力方法で入力します。

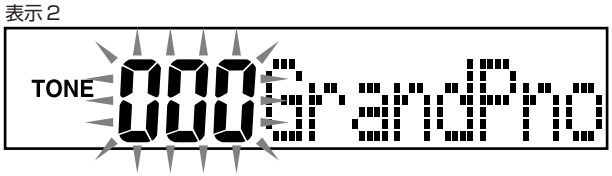
表示5



●音色番号

0～9ボタン、または+／−ボタンで調節します。

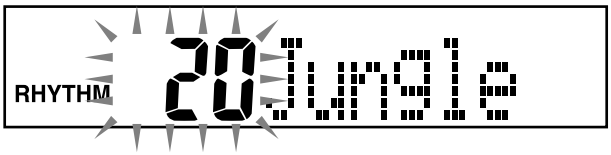
表示2



●リズム番号

0～9ボタン、または+／−ボタンで調節します。

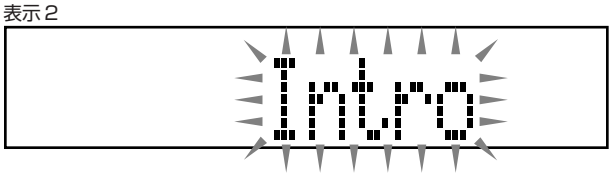
表示2



●イントロボタン、シンクロ／エンディングボタン、ノーマル／フィルインボタン、バリエーション／フィルインボタン

イントロボタン、**シンクロ／エンディング**ボタン、**ノーマル／フィルイン**ボタン、**バリエーション／フィルイン**ボタンを新たに押して変更します。

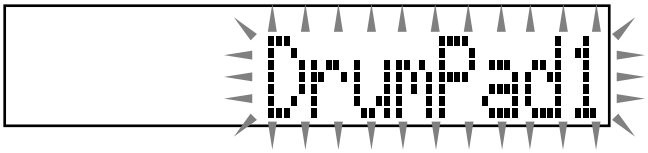
表示2



●ドラムパッド

ドラムパッドを新たに押して変更します。

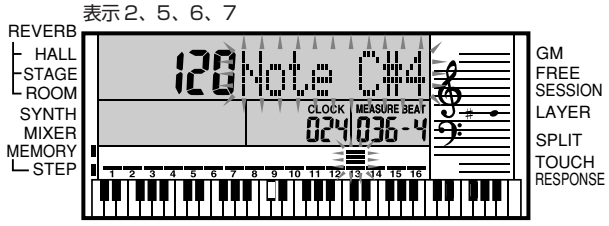
表示2



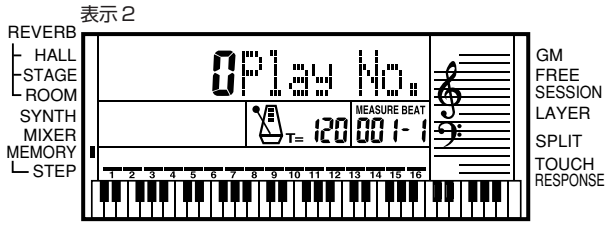
録音した個々のデータを消去するには

エディット機能と同じ手順で、1つ1つ呼び出されたデータを消去することができます。

表示2、5、6、7

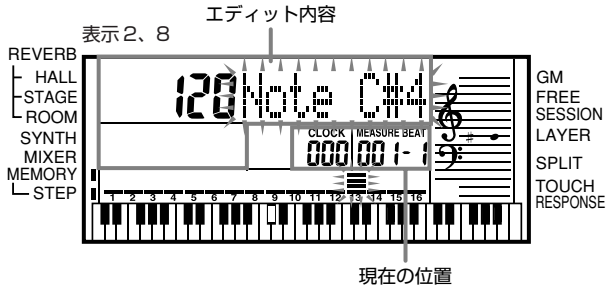


1. **メモリー**ボタンを押して再生待機の状態にし、**+**／**ー**ボタンでソングナンバーを選びます。



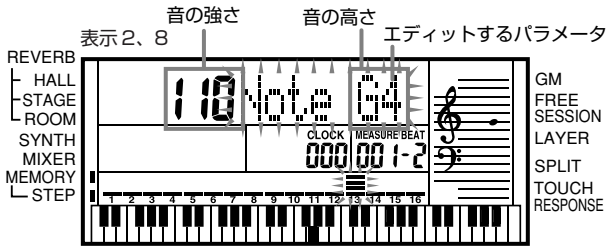
2. **ステップ**ボタンを押します。
   ➠ エディット待機状態になります。

3. **メモリートラック**ボタンで、消去したいデータのある録音済みのトラックを選びます。

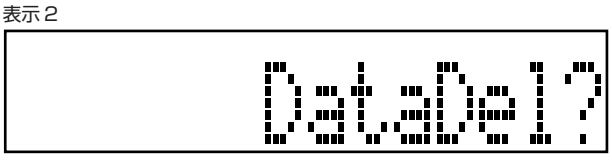


4. **[◀]／[▶]カーソル**ボタンでトラックの中を移動し、消去したいデータを選びます。

＜音符エディットの例＞



5. **+**／**ー**ボタンを同時に押します。



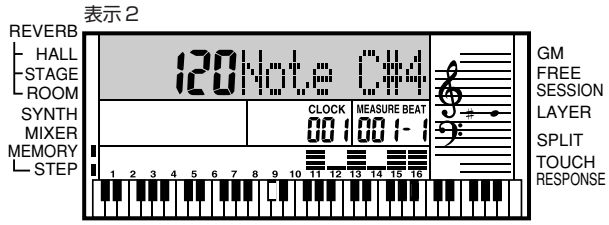
6. **[▼]エンター**ボタンを押します。
   ➠ 指定したデータが消去されます。
   - **[◀]／[▶]カーソル**ボタンで、データの消去をキャンセルできます。

■NOTE■

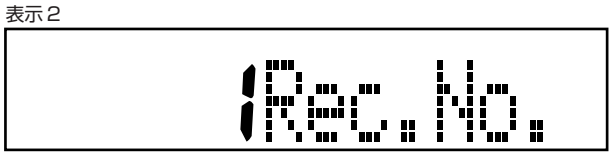
- すべてのデータが消去されると、自動的に再生待機状態になります。

特定のトラックを消去するには

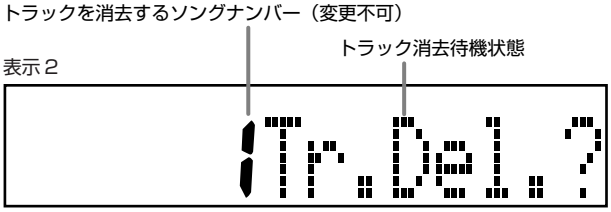
録音済みのトラックを曲の最初から最後まで消去します。



1. **メモリー**ボタンを押して録音待機の状態にし、**+**／**ー**ボタンで消去したいトラックのあるソングナンバーを選びます。

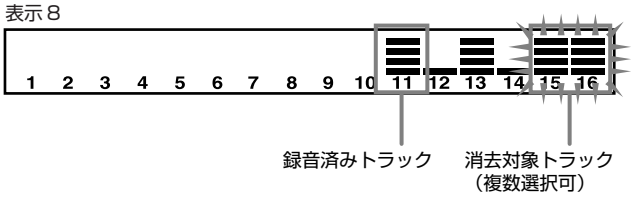


2. **メモリー**ボタンを押し続けます。
   ➠ トラック消去待機状態になります。



3. **メモリートラック**ボタンで、消去したい録音済みのトラックを選びます。

★ *トラック消去待機状態*



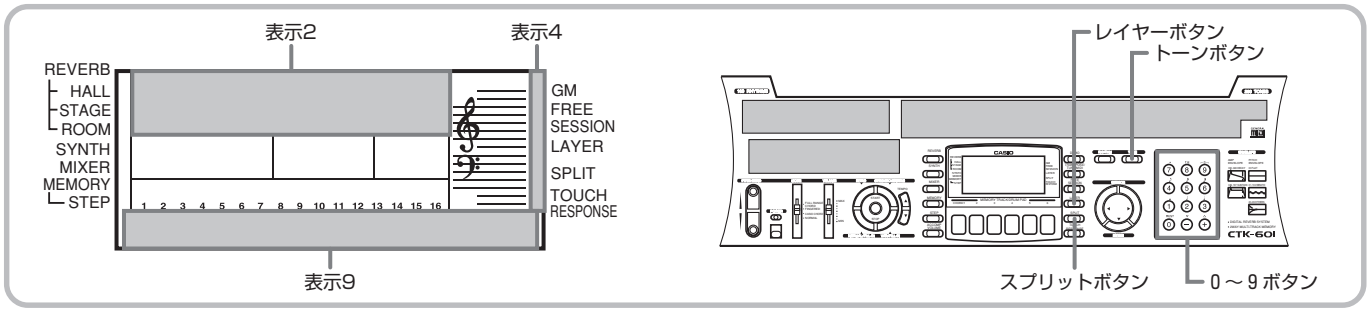
- 消去するトラックは複数選択できます。
- 選択を解除したい場合は、もう一度その**メモリートラック**ボタンを押します。

4. **[▼]エンター**ボタンを押します。
   ➠ 選択されたトラックが消去されます。

■NOTE■

- トラック消去待機状態では 5 秒間なにも操作がされないと、通常の状態に戻ります。
- トラック消去待機状態では、ソングナンバーを変更することはできません。
- 未録音トラックは選択できません。
- トラック消去待機状態で**メモリー**ボタンを押すと、録音待機状態に戻ります。

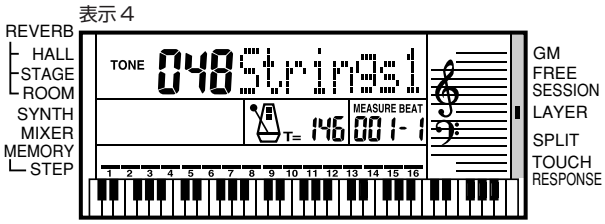
設定を変えるには



本機では、鍵盤の設定を変更することで 2 種類の音色を重ねて鍵盤で演奏したり、鍵盤の高音部と低音部に異なる音色を割り当てて演奏するなど、幅広い演奏方法を楽しむことができます。

レイヤー機能を利用するには

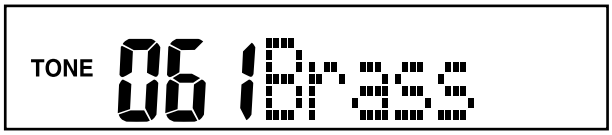
レイヤー機能とは、2 種類の音色を重ねて演奏するための機能です。この機能を利用すれば内蔵音色の中から 2 つの音色（メイン音色とレイヤー音色）を選んで同時に発音させることで、まったく新しいサウンドを作ることができます。例えばブラスの音色にフレンチホルンの音色を重ねれば、厚みのあるブラスサウンドで鍵盤演奏が楽しめます。



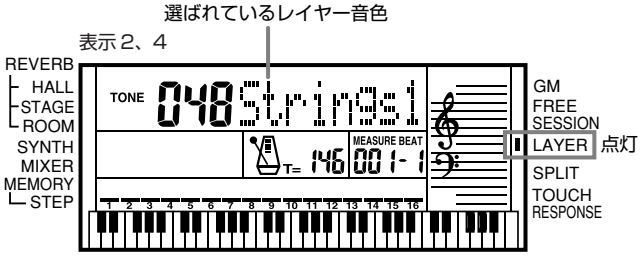
1. メイン音色を指定します。

例：“061 BRASS”の音色を指定する場合は、**トーン**ボタンを押し、**0**～**9**ボタンで“0→6→1”と入力します。

表示 2

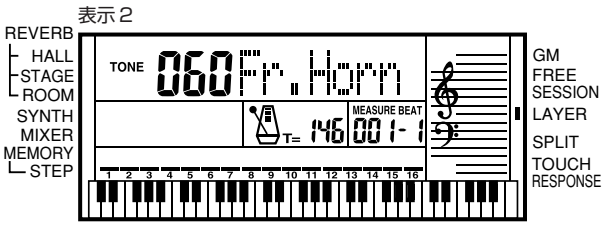


2. **レイヤー**ボタンを押します。

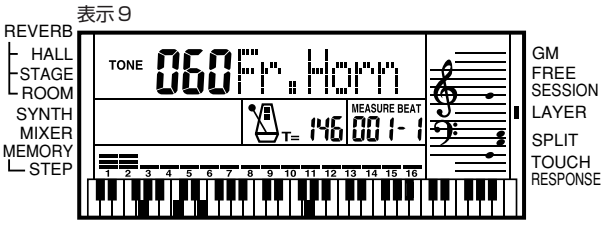


3. レイヤー音色を指定します。

例：“060 FRENCH HORN”の音色を重ねる場合は、**0**～**9**ボタンで“0→6→0”と入力します。



4. 鍵盤を弾いてみましょう。



➠ ブラスとフレンチホルンが同時に鳴ります。

5. **レイヤー**ボタンを押すと通常の状態に戻ります。

【レイヤー】

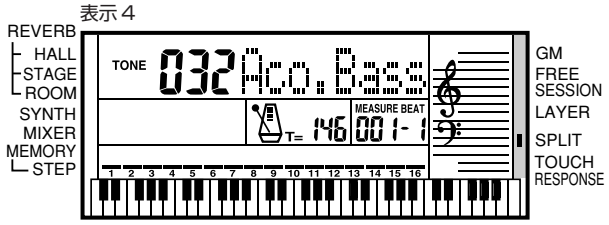
■NOTE■

- メイン音色はチャンネル 1、レイヤー音色はチャンネル 2 で発音します。ミキサー機能を利用すれば、それぞれのチャンネルの音色や音量などを設定することができます。
- メモリー機能の録音待機時、録音時にレイヤー機能を使用することはできません。

スプリット機能を利用するには

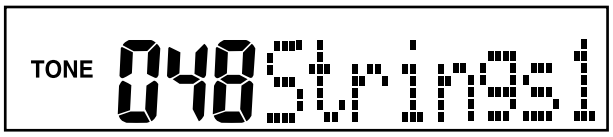
スプリット機能とは、2つの音色を鍵盤の高音部と低音部に分ける機能です。両手で鍵盤を演奏するとき、この機能で鍵盤の高音部と低音部に異なる音色を割り当てれば、2種類の楽器を左右に分けて演奏できます。例えば低音部にピチカート、高音部にストリングスを割り当てることで、ストリングスアンサンブルを弾き分けることができます。

表示4



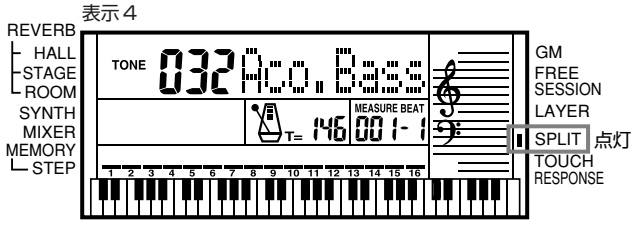
1. メイン音色（高音部の音色）を指定します。
   例：“048 STRINGS1”の音色を指定する場合は、**トーン**ボタンを押し、**0**～**9**ボタンで“0→4→8”と入力します。

表示2



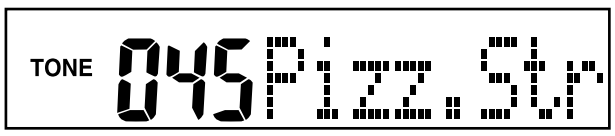
2. **スプリット**ボタンを押します。

表示4



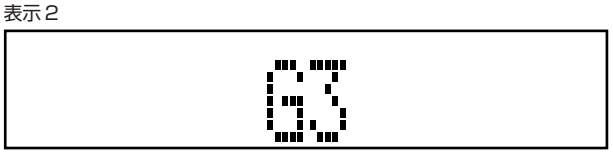
3. スプリット音色（低音部）を指定します。
   例：“045 PIZZICATO STR”の音色で鍵盤を分けたい場合は、**0**～**9**ボタンで“0→4→5”と入力します。

表示2



4. 低音部と高音部の境目（スプリットポイント）を指定します。
   例：G3の鍵盤で分ける場合は、**スプリット**ボタンを押しながらG3の鍵を弾きます。

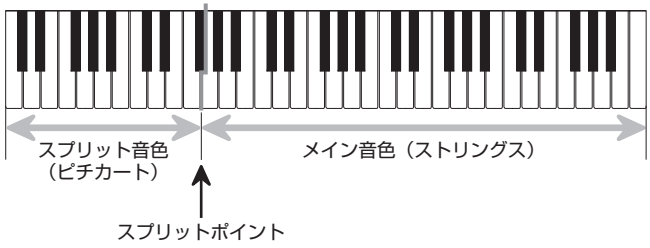
表示2



5. 鍵盤を弾いてみましょう。
   ➠ F♯3より下の鍵盤でピチカートの音色が鳴り、G3から上の鍵盤でストリングスの音色が鳴ります。

6. もう一度**スプリット**ボタンを押すと、通常の状態に戻ります。

【スプリット】



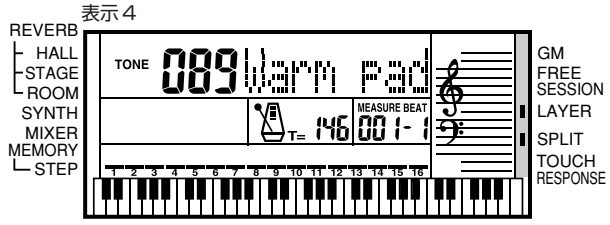
■NOTE■

- メイン音色はチャンネル1、スプリット音色はチャンネル3で発音します。ミキサー機能を利用すれば、それぞれの発音チャンネルの音色や音量などを設定することができます。
- メモリー機能の録音待機時、録音時にスプリット機能を使用することはできません。

レイヤーとスプリットを同時に使うには

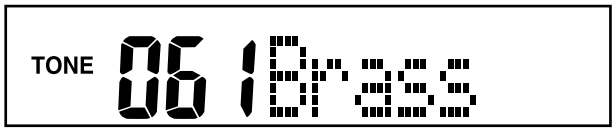
レイヤーの状態から**スプリット**ボタンを押すか、スプリットの状態から**レイヤー**ボタンを押すと、それぞれの機能の特徴を兼ね備えた「レイヤースプリット」という状態で利用できます。これは、2種類のレイヤーサウンドが鍵盤の高音部（メイン音色＋レイヤー音色）と低音部（スプリット音色＋レイヤースプリット音色）で発音します。

表示4

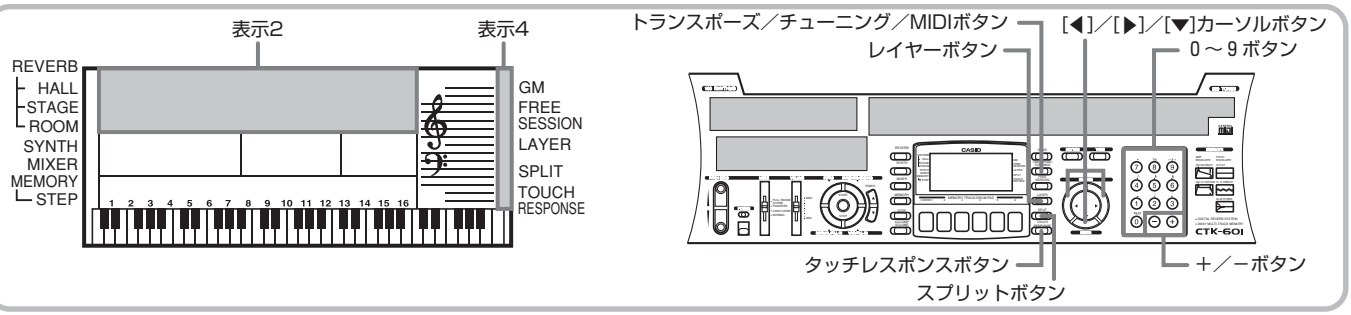


1. メイン音色を指定します。
   例：メイン音色がブラスの場合

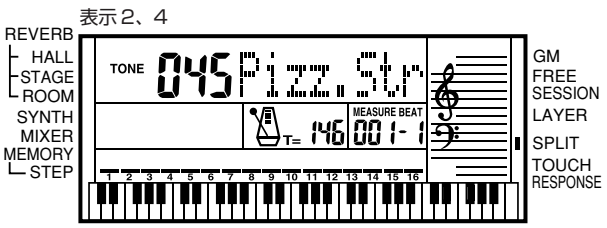
表示2



設定を変えるには



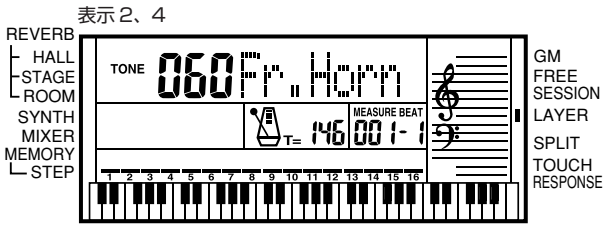
2. スプリット機能を使ってスプリット音色を指定します。



指定後は、スプリットを解除しておきます。

3. レイヤー機能を使ってレイヤー音色を指定します。

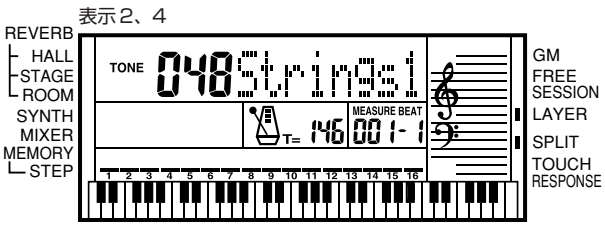
例：レイヤー音色がフレンチホルン、スプリット音色がピチカートの場合



4. スプリットの状態から**レイヤー**ボタン、またはレイヤーの状態から**スプリット**ボタンを押して、レイヤースプリットの状態にします。

5. レイヤースプリット音色を指定します。

例：ストリングスの音色を指定する場合は、**0**～**9**ボタンで“0→4→8”と入力します。



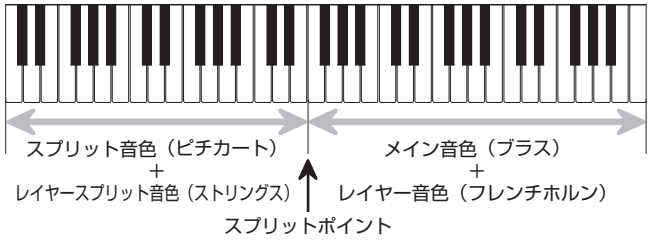
6. スプリットポイントを指定します。

例：F4の鍵盤で分ける場合は、**スプリット**ボタンを押しながらF4の鍵を押します。

7. 鍵盤を弾いてみましょう。

➠ **レイヤー**ボタンと**スプリット**ボタンを押すと通常の状態に戻ります。

【レイヤースプリット】

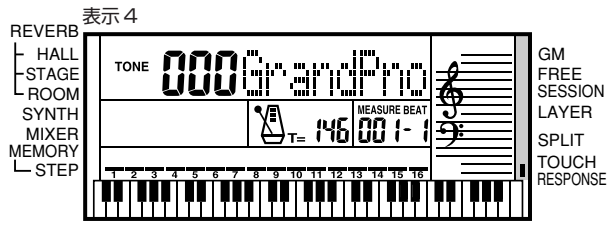


■NOTE■

- メイン、レイヤー、スプリット音色はそれぞれチャンネル1、2、3で発音し、レイヤースプリット音色はチャンネル4で発音します。ミキサー機能を利用すれば、それぞれの発音チャンネルの音色や音量などを設定することができます。

タッチレスポンス機能を利用するには

タッチレスポンス機能とは、鍵盤を弾く強弱で音量が変化させるかどうか決める機能です。タッチレスポンス機能をオンにすると、実際のピアノのように鍵盤を弾く強さで音量が変化します。



1. **タッチレスポンス**ボタンを押して機能のオン／オフを切り替えます。

- TOUCH RESPONSEのドットが点灯しているとき（タッチレスポンス・オン）は、鍵盤を弾く強弱で音の大きさが変化します。

- TOUCH RESPONSEのドットが消灯しているとき（タッチレスポンス・オフ）は、鍵盤を弾く強弱にかかわらず、音の大きさが一定となります。

表示4

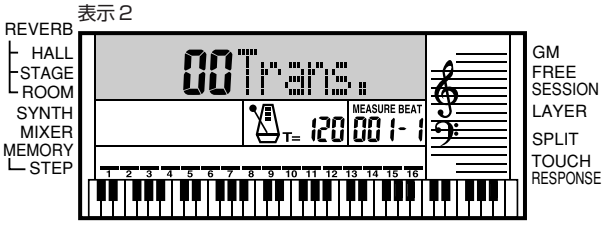
■NOTE■

- タッチレスポンスの動作は、本機の内蔵音源だけでなくMIDIアウトの情報にも反映します。
- メモリー再生や、伴奏、外部からのMIDIノート情報は、タッチレスポンス機能の設定に影響されません。

トランスポーズ機能を利用するには

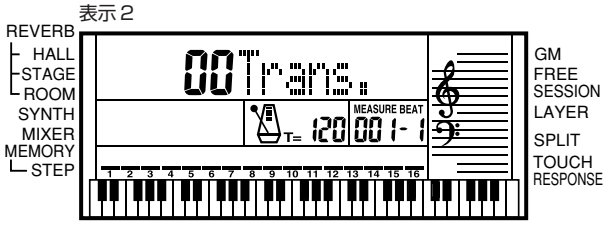
トランスポーズ機能とは、本機全体の音の高さを半音単位で上下させる機能です。例えば、歌の伴奏をするとき、その楽譜が歌う人の声の高さに合わないことがあります。このようなとき、鍵盤演奏はそのままで、簡単に音の高さを変えることができます。

表示2



1. **トランスポーズ／チューニング／MIDI**ボタンを押してトランスポーズの設定画面にします。

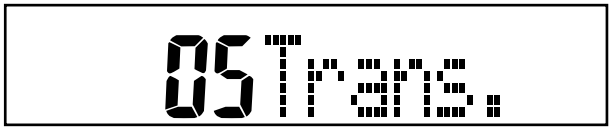
表示2



2. **+／−**ボタンでトランスポーズの量を設定します。

例：5半音上にトランスポーズさせる場合。

表示2



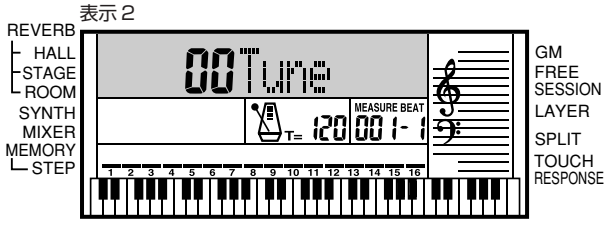
■NOTE■

- トランスポーズの設定範囲は−12（1オクターブ下）〜+12（1オクターブ上）です。
- 電源を入れたときは、“00”になります。
- ボタンを押してから5秒間に何もボタンを押さないと、通常の状態に戻ります。
- トランスポーズの設定は、メモリー機能や自動伴奏の演奏にも反映されます。

チューニング機能を使うには

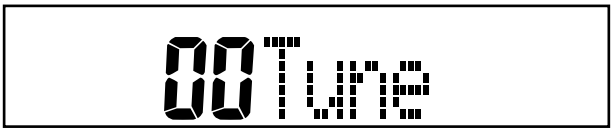
チューニング機能とは、本機全体の音の高さを微調節する機能です。この機能を利用すると、チューニングが異なる他の楽器とアンサンブルする場合でも、相手の楽器にチューニングを合わせることができます。

表示2



1. **トランスポーズ／チューニング／MIDI**ボタンを押します。
2. **[◀]／[▶]カーソル**ボタンを押してチューニングの設定画面にします。

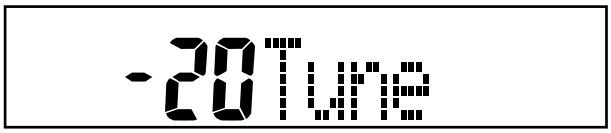
表示2



3. **+／−**ボタンでチューニングの量を調節します。

例：チューニングを20下げる場合。

表示2



■NOTE■

- チューニングの設定範囲は−50〜+50で、±約50セント※です。

※100セント＝半音

- 電源を入れたときは、“00”になります。
- ボタンを押してから5秒間に何もボタンを押さないと、通常の状態に戻ります。
- チューニングの設定は、メモリー機能や自動伴奏の演奏にも反映します。

MIDI を使うには

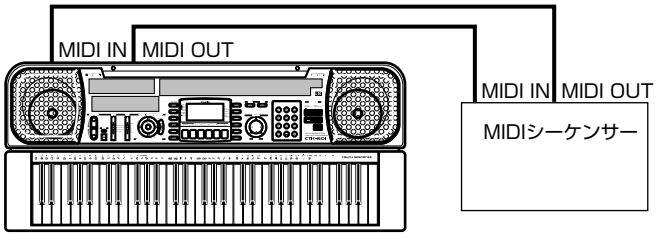
MIDI について

MIDI（ミディ）は、Musical Instrument Digital Interface の略で、電子楽器どうし、あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことです。たとえメーカーや機種が違っても、MIDI対応の機器どうしであれば「鍵盤を弾いた／離した」「音色を切り替えた」といった情報（これらをメッセージと呼びます）を伝えることができます。
本機を単体で使用する場合は、特に MIDI の知識がなくても十分楽しめますが、コンピューターなどの外部機器と組み合わせて使用する場合は、MIDIについて最小限知っておくと便利です。MIDIの仕組みやメッセージの種類について簡単に説明しておきましょう。

■ MIDI の接続について

MIDIのメッセージは、ある機器の MIDI アウト端子から他の機器の MIDI イン端子へと、MIDI ケーブルを経由して一方通行で送られます。例えば本機から外部機器へとメッセージを送るには、本機の MIDI アウト端子と外部機器の MIDI イン端子を MIDI ケーブルで接続します。逆に本機へ外部機器からメッセージを送るには、本機の MIDI イン端子と外部機器の MIDI アウト端子を接続します。

コンピューターなどの外部機器に本機の演奏内容を録音／再生するような場合は、MIDI ケーブルを MIDI イン／アウトを両方接続して、お互いの MIDI メッセージがやり取りできるようにします。



★ *このとき、コンピューターなどの外部機器のソフト上で MIDI スルー機能を利用する場合は、本機のローカルコントロールをオフにしてください（44 ページ参照）。*

■ MIDI チャンネルについて

MIDIでは同時に複数のパートの演奏情報を送ることができます。それぞれのパートを区別するのが「MIDI チャンネル」と呼ばれる情報です。MIDI チャンネルには 1 ～ 16 までの 16 チャンネルがあり、MIDIでやり取りする演奏情報（鍵盤を弾く、ピッチベンダーを操作するなどの情報）には、必ずこの MIDI チャンネルの情報が含まれています。
MIDIチャンネルは送り側と受け側でそれぞれ設定し、両方のチャンネルが一致したときに受け側で発音するようになっています。例えば受け側が MIDI チャンネル 2 に設定されている場合、MIDI チャンネル 2 の演奏情報のみを受信して他の MIDI チャンネルの演奏情報は無視します。

本機では 16 の MIDI チャンネルすべてのメッセージを受信し、最高 16 楽器パートを演奏することができます（マルチティンバー）。16のチャンネルの音色や音量を設定するには本機のミキサー機能を利用するほか、外部から必要なメッセージを送ってコントロールすることも可能です。
逆に本機のキーボードやピッチベンダーの操作を外部に送信する場合は、MIDIチャンネル 1 ～ 16の中からチャンネルを 1 つ選んで送信します。

GM について

GM（General MIDI）とは、音源の機種に依存しない MIDI 演奏データを作るために、メーカーを越えて定められた推奨規格です。GM の規格では音色番号の並び順、ドラム音色の並び順、使用可能な MIDI チャンネル数など、音源の仕様について取り決められています。GM 音源用に作られた演奏データであれば、どのメーカーのどの音源でも同系統の音色（同じニュアンス）で再生することができます。

本機の音源部は GM に対応していますので、市販の GM 対応データやパソコン通信などで流通している GM 対応データを、コンピューターなどの外部機器と接続して再生することができます。

■本機で送受信可能なメッセージ

MIDI の規格では、さまざまなメッセージが決められています。ここでは本機が送受信できるメッセージについて説明します。なお、(*) 印のついたメッセージは、本機全体に対して働くメッセージ、それ以外は特定のチャンネルに対して働くメッセージです。

《ノートオン／オフ》

キーボードを弾いた（ノートオン）、離した（ノートオフ）という情報を送るためのメッセージです。ノートオン／オフのメッセージには、

- ノートナンバー･･･キーボードでどの音を弾いたか／離したか表す情報
- ベロシティ･･･鍵盤を弾いた強さを１～127の数値で表した情報

が含まれます。通常ノートオンのベロシティは、音の強弱を付けるのに使用します。なお、本機はノートオフのベロシティは受信しません。
本機のキーボードを弾いたり離したりしたときには、MIDIアウト端子からノートオン／オフのメッセージが出力されます。

■NOTE■

- 出る音の高さは音色によって異なります（48ページ「音色別発音域表」参照）。
  本機の受信したノートナンバーがその音色の発音域より高いか低いときは、同じ音名で一番近い発音域内の音（オクターブ違いの音）に置き代えて発音します。

《プログラムチェンジ》

音色を選ぶためのメッセージです。プログラムチェンジには、0～127の音色情報が含まれています。本機のパネル上で音色番号を選ぶと、同時にMIDIアウト端子からプログラムチェンジのメッセージが出力されます。同じように外部機器から本機の音色を変えることができます。

《ピッチベンド》

演奏中にピッチ（音の高さ）を滑らかに上下させるためのメッセージです。
本機のピッチベンダーを操作すると、内蔵音源のピッチが変化すると同時に、MIDIアウト端子からピッチベンドのデータが出力されます。

《コントロールチェンジ》

演奏中の音にビブラートやボリューム変化などの効果を加えるためのメッセージです。それぞれのコントロールチェンジには、

- コントロールナンバー･･･効果の種類を区別する番号
- コントロール値･･･効果の深さ、オン／オフの設定

という情報が含まれています。本機は次のコントロールチェンジを送受信可能です。

本機が送受信可能なコントロールチェンジ／コントロールナンバー

コントロールチェンジ	コントロールナンバー
バンクセレクト※１	0、32
ボリューム	7
パン	10
エクスプレッション	11
ホールド1	64
ソステヌート	66
ソフトペダル	67
RPN※２	100／101
データエントリー	6／38

※１ 外部MIDI機器から本機の音色を選ぶ場合、プログラムチェンジ情報にバンクセレクトを組み合わせることで200種類すべての音色を選ぶことができます。200種類の音色は次の4つのバンクに分かれています。

- バンク0：GM128音色（プログラムチェンジ0～127）
- バンク1：シンセ32音色（プログラムチェンジ0～31）
- バンク2：ドラムセット8音色（プログラムチェンジ0～7）
- バンク3：ユーザー32音色（プログラムチェンジ0～31）

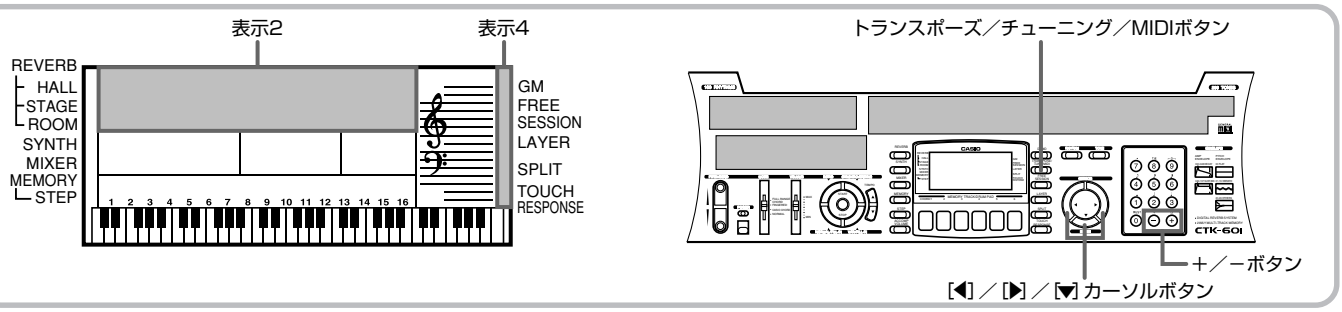
プログラムチェンジ情報の直前に「コントロールナンバー0・コントロール値＝バンクナンバー」と「コントロールナンバー32・コントロール値＝0」を連続して送信することで、指定したバンクの音色が選ばれます。

例：音色番号190（ユーザー音色22番）を外部MIDI機器から選ぶ場合は、
コントロールナンバー0・コントロール値＝3（バンクナンバー）
コントロールナンバー32・コントロール値＝0
プログラムチェンジ＝22
を続けて送信します。

※２ RPN（Registered Parameter Number）は、複数のコントロールチェンジを組み合わせて使用する特殊なコントロールチェンジです。コントロールナンバー100と101のコントロール値でコントロールする要素を選び、データエントリー（コントロールナンバー6／38）のコントロール値で値を設定します。
本機では、外部MIDI機器から本機のピッチベンドセンス※、トランスポーズ、チューンをコントロールするのにRPNを使用します。

※ピッチベンド効果による音程の最大変化幅

MIDI を使うには



《オールサウンドオフ》

発音の方法にかかわらず、そのチャンネルで現在鳴っている音を、強制的に消音するメッセージです。

《オールノートオフ》

そのチャンネルで現在鳴っている外部 MIDI 機器からのノート情報を、すべてノートオフにするメッセージです。

※サスティンペダルやソステヌートペダルを使って持続させている音は、ペダルをオフにするまで発音を続けます。

《リセットオールコントローラー》

ピッチベンドや各種のコントロールチェンジを初期状態に戻すメッセージです。

《システムエクスクルーシブ》(*)

システムエクスクルーシブとは、音色の細かい設定などその機種固有の機能をコントロールするのに使用するメッセージです。本来システムエクスクルーシブは特定の機種に対してのみ有効ですが、メーカーや機種が変わっても共通に使えるユニバーサルシステムエクスクルーシブと呼ばれるメッセージもあります。

本機は、次のエクスクルーシブメッセージに対応しています。

● GM モードオン（[F0][7E][7F][09][01][F7]）

外部 MIDI 機器から本機を GM モードオンの状態にするユニバーサルシステムエクスクルーシブです。

※ GM モードオンは他のメッセージよりも処理時間がかかります。このためシーケンサーに GM モードオンを記録する場合は、次のメッセージまで 100msec 以上間隔をあけるようにしてください。

● GM モードオフ（[F0][7E][7F][09][02][F7]）

外部 MIDI 機器から本機を GM モードオフの状態にするユニバーサルシステムエクスクルーシブです。

●リバーブチェンジ（[F0][44][0E][09][yy][F7]）

内蔵のデジタルリバーブを切り替えるシステムエクスクルーシブです。上記のシステムエクスクルーシブメッセージの“yy”の欄にリバーブ番号を16進数で入れ、コンピューターなどの外部機器から本機に送信します。それぞれのデジタルリバーブに対応する 16 進数は次の通りです。

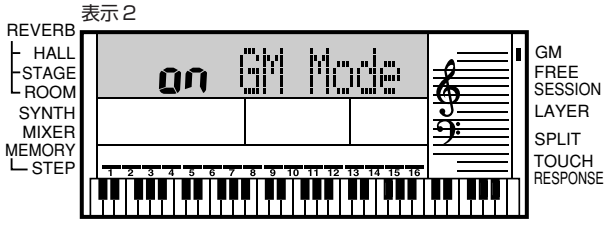
番号	デジタルリバーブ	16 進数
0	ルーム	00
1	ステージ	01
2	ホール	02
oFF	オフ	0F

■NOTE■

- MIDI チャンネル 10 はドラム専用なので、音色を切り替えるためにバンクセレクトの情報を送信する必要はありません。
- フットペダルによるサスティン／ソステヌート／ソフトの効果も送受信されます（コントロールナンバー 64、66、67）。

MIDI の設定を変えるには

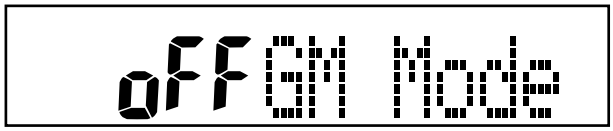
本機では、GM モードのオン／オフやピッチベンドの変化幅など MIDI に関するさまざまな要素（これをパラメーターと呼びます）を変更することができます。これらのパラメーターは「グループ 1」（通常の状態から**トランスポーズ／チューニング／MIDI** ボタンを 2 回押して選ぶもの）と「グループ 2」（通常の状態から**トランスポーズ／チューニング／MIDI** ボタンを 3 回押して選ぶもの）に分かれています。



1. **トランスポーズ／チューニング／MIDI**ボタンを押して変更したいパラメーターのグループを選びます。
   - グループ 1 ：GM モード、キーボードチャンネル、MIDI インコードジャッジ、ローカルコントロール、アカンプ MIDI アウトの設定
   - グループ 2 ：ピッチベンドレンジ、ナビゲートトラック、アサイナブルジャックの設定

   例：グループ 1 を選びます。

表示 2

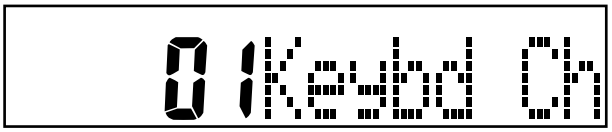


2. **[◀]／[▶]カーソル**ボタンで、パラメーターを選びます。

★ *パラメーターとその働きについては「パラメーターの働きとその表示について」をご参照ください。*

例：キーボードチャンネルのパラメーターを選択。

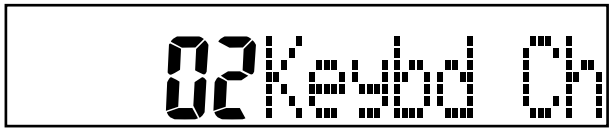
表示 2



3. **+／−**ボタンで設定値を変更します。

例：キーボードチャンネルを 2 に変更。

表示 2



- グループを行き過ぎた場合は、再度そのグループが表示されるまで**トランスポーズ／チューニング／MIDI**ボタンを押してください。
- **トランスポーズ／チューニング／MIDI** ボタンを押したあと、何も操作しないと約 5 秒後に通常の状態に戻ります。

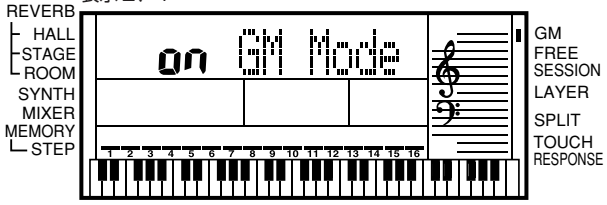
■パラメーターの働きとその表示について

【グループ 1】（*通常の状態から* ***トランスポーズ／チューニング／MIDI*** *ボタンを 2 回押す*）

●GM モード　オン／オフ設定（初期値：オフ）

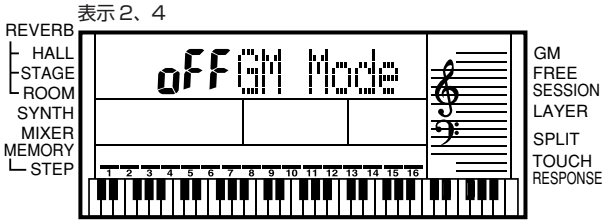
on（オン）：GM モードがオンになります。コンピューターなどの外部機器でGM対応データを聞く場合は、こちらに設定します。このときMIDIインコードジャッジ機能がオンになっていた場合は、強制的にオフになります（GM モードと MIDI インコードジャッジ機能は同時に利用できません）。

表示 2、4



oFF（オフ）：GM モードがオフになります。このときチャンネルごとの音色や音量などさまざまなパラメーターは初期値になり、MIDI 発音時のベースの音色は 1 オクターブ低く、ピッコロの音色は 1 オクターブ高く発音されます。

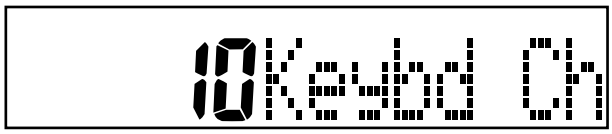
表示 2、4



●キーボードチャンネル（ベーシックチャンネル）の設定（初期値：01）

キーボードやピッチベンダーなどの MIDI メッセージを送信するチャンネルを設定します。

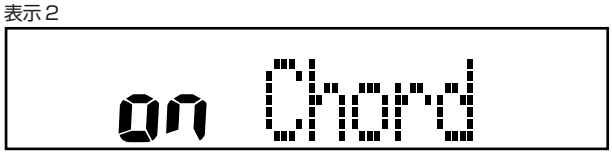
表示 2



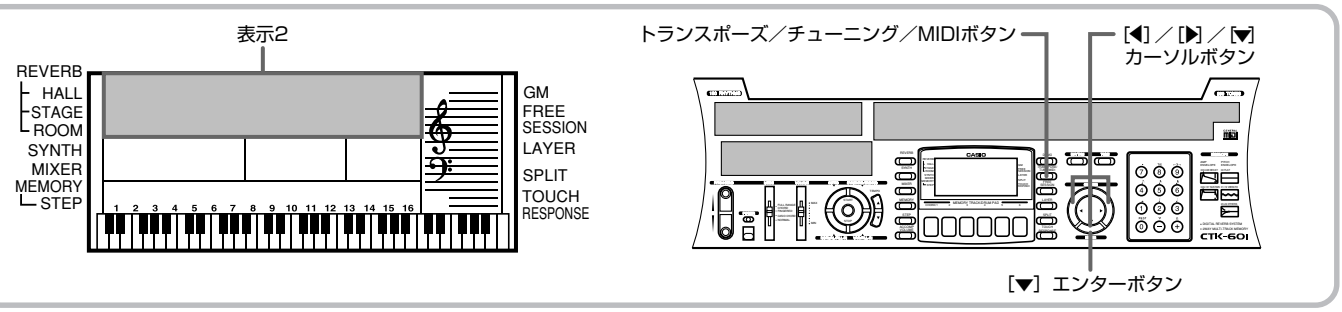
●MIDIインコードジャッジ　オン／オフの設定（初期値：オフ）

on（オン）：モードスイッチでコードの指定方法が選ばれているとき、MIDI IN 端子から入力されたベーシックチャンネルのノート情報でコードが指定できます。このとき GM モードがオンになっていた場合は、強制的にオフになります（GM モードとMIDIインコードジャッジ機能は同時に利用できません）。

表示 2

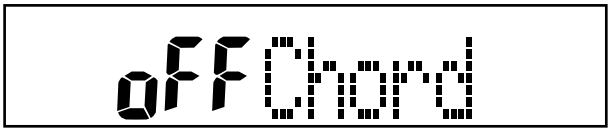


MIDI を使うには



oFF（オフ）:MIDIインコードジャッジ機能が解除されます。

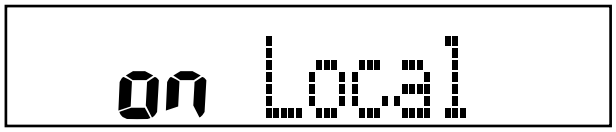
表示2



●ローカルコントロール　オン／オフの設定（初期値：オン）

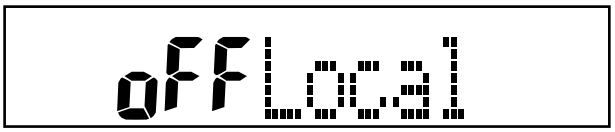
on（オン）：鍵盤やドラムパッドによる演奏情報は、本体の音源で発音し、同時にMIDI OUT端子からMIDIメッセージとして送られます。

表示2



oFF（オフ）：鍵盤やドラムパッドによる演奏情報は、MIDI OUT 端子から MIDI メッセージとして送られますが、本体の音源は発音しません。コンピューターなどの外部機器側の MIDI スルーを利用するときはオフにして使用してください。

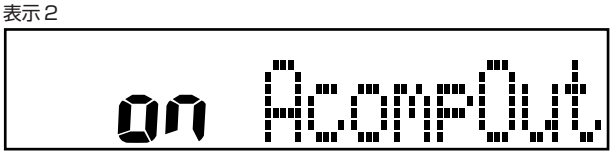
表示2



●アカンプ MIDI アウトオン／オフの設定（初期値：オフ）

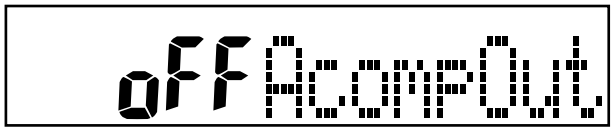
on（オン）：自動伴奏を鳴らしたとき、そのMIDIメッセージを MIDI OUT 端子から送信します。

表示2



oFF（オフ）：自動伴奏を鳴らしたとき、その MIDI メッセージは MIDI OUT 端子から送信されません。

表示2

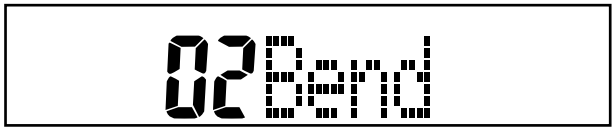


***【グループ2】**（通常の状態から**トランスポーズ／チューニング／MIDI** ボタンを3回押す）*

●ピッチベンドレンジの設定（初期値：02）

ピッチベンダーによる音程の最大変化幅を01（1半音）～12（12半音）の範囲で設定します。

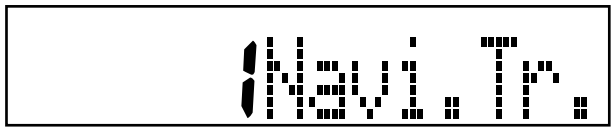
表示2



●ナビゲートトラックの設定（初期値：1）

メモリーを再生したときに、トラック1～6のどの音符情報をディスプレイに表示するかを指定します（これをナビゲートトラックと呼びます）。

表示2



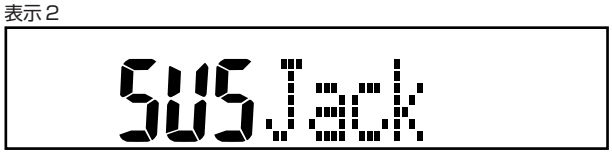
■NOTE■

- メモリーの録音終了時とエディット時は、録音したトラックナンバーが自動的にナビゲートトラックとして選ばれます。

●アサイナブル端子の設定（初期値：サスティン）

フットペダルを利用するとき、その機能を設定します。
各効果の説明については、52 ページをご参照ください。
SUS（サスティン）：　ペダルを踏むとサスティン効果がかかります。

表示2

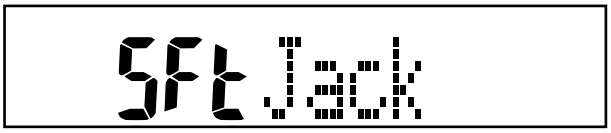


SoS（ソステヌート）：ペダルを踏むとソステヌート効果がかかります。

表示2

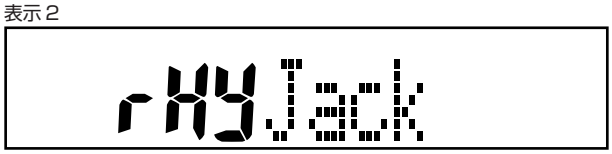
SFt（ソフト）：ペダルを踏むとソフト効果がかかります。

表示2



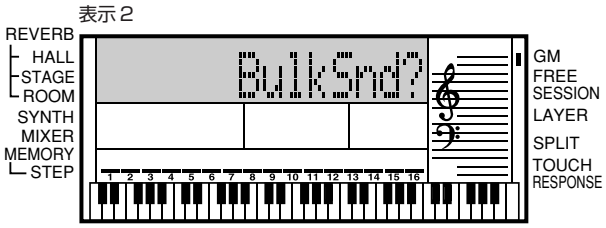
rHy（リズム）：ペダル操作で**スタート／ストップ**ボタンと同じ働きをします。

表示2



内部データのバルク送受信

本機には、メモリー機能で録音した演奏データやシンセ機能で作成した音色など、さまざまなデータを内部に記憶しています。こうした記憶内容をMIDIのエクスクルーシブ情報としてMIDI端子から送受信（バルク送受信）できるので、コンピューターなどの外部機器※などMIDI用の外部記憶機器として利用できるものと併用することで、記憶内容のバックアップを作ることができます。



準備

- 外部記憶機器のMIDIアウト端子と本機のMIDIイン端子、外部記憶機器のMIDIイン端子と本機のMIDIアウト端子をMIDIケーブルで接続します。

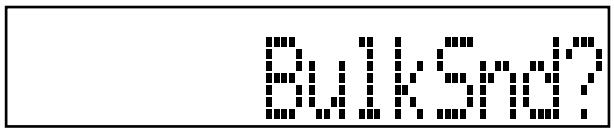
※一部のソフトではMIDIのエクスクルーシブ情報に対応していないものがあります。

■バルク送信するときの操作(設定内容を外部記憶機器に保存する)

1. 受信側の機器を受信待機状態にします。
（操作方法は受信側の機器の取扱説明書をご覧ください）

2. 通常の状態から**トランスポーズ／チューニング／MIDI**ボタンを4回押して、バルク送信の表示にします。

表示2

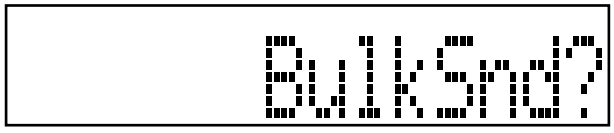


3. **[▼]エンター**ボタンを押します。
➠ バルク送信を開始します。
- 終了すると通常の状態に戻ります。

■バルク受信するときの操作(設定内容を外部記憶機器から読み込む)

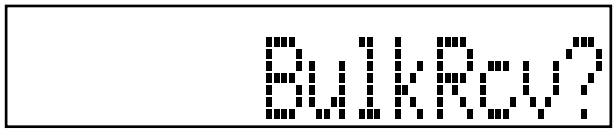
1. 通常の状態から**トランスポーズ／チューニング／MIDI**ボタンを4回押します。

表示2



2. **[◀]／[▶]カーソル**ボタンを押して、バルク受信の表示にします。

表示2



3. **[▼]エンター**ボタンを押して受信待機状態にします。

4. 送信側の機器で送信を開始します。
（操作方法は、送信側の機器の取扱説明書をご覧ください）
➠ バルク受信を開始します。
- 終了すると通常の状態に戻ります。

困ったときは

現象	原因	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	1. 電源が正しくセットされていない。 2. 電源が入っていない。 3. 音量が下がっている。 4. **モード**スイッチが“カシオコード”や“フィンガード”の位置のときは、伴奏鍵盤での通常演奏はできません。 5. ローカルコントロールがオフになっている。 6. チャンネル 1 がオフになっている。 7. チャンネル 1 のボリュームまたはエクスプレッションが下がっている。	1. AC アダプターが正しく接続されているか、電池の ⊕ ⊖ の向きが正しいか、電池が消耗していないかを確認する。 2. **電源**ボタンを押す。 3. **全体の音量**スライダーを上げる。 4. **モード**スイッチを“ノーマル”の位置に合わせる。 5. **トランスポーズ／チューニング／MIDI** ボタンから、ローカルコントロールをオンにしてください。 6. ミキサー機能でチャンネル 1 をオンにする。 7. ミキサー機能でチャンネル 1 のボリュームまたはエクスプレッションを上げる。	☞6 ページ ☞8 ページ ☞8 ページ ☞10 ページ ☞44 ページ ☞16 ページ ☞17 ページ
電池で使用していて、下記の状態になった。 ・電源ランプが暗くなった。 ・液晶表示がうすくなった。 ・音量が小さくなった。 ・音質が劣化した。 ・大きな音を出すと時々音が途切れる。 ・大きな音を出すと突然電源が切れる。 ・大きな音を出すと、液晶表示がうすくなる。 ・リズムやデモ演奏曲などが正しく発音されない。	電池が消耗している。	新しい電池と取り替える。または、AC アダプターを使用する。	☞6 ページ
自動伴奏の音が鳴らない。	1. 伴奏の音量が“000”になっている。 2. 自動伴奏パートのチャンネル7～10がオフになっている。 3. 自動伴奏パートのチャンネル7～10のボリュームまたはエクスプレッションが下がっている。	1. **伴奏の音量**ボタンで伴奏の音量を上げる。 2. ミキサー機能でそのチャンネルをオンにする。 3. ミキサー機能でそのチャンネルのボリュームまたはエクスプレッションを上げる。	☞15 ページ ☞16 ページ ☞17 ページ
鍵盤を弾く強弱で音量が変化しない。	タッチレスポンス機能がオフになっている。	**タッチレスポンス**ボタンを押してオンの状態にする。	☞38 ページ
他の MIDI 楽器と同時に鳴らしたとき、お互いのキーまたはチューニングが合っていない。	チューニングまたはトランスポーズの設定が“00”以外になっている。	**トランスポーズ／チューニング／MIDI** ボタンでトランスポーズとチューニングの設定を“00”にする。	☞39 ページ

現象	原因	解決方法	参照
メモリー再生で、音が途中で切れるパートがある。	同時発音数を越えて演奏している。	ミキサー機能でチャンネルをオフにして再生パートを減らしてみる。	☞17ページ
メモリー再生で全く鳴らないパートがある。	1. チャンネルがオフまたはソロになっている。 2. ボリュームまたはエクスプレッションが下がっている。	1. ミキサー機能でチャンネルがオンになっていることを確認する。 2. ミキサー機能でボリュームまたはエクスプレッションの設定値を確認する。	☞17ページ ☞17ページ
自動伴奏やリズムが録音できない。	録音トラックにトラック2～6を指定している（トラック2～6はメロディー専用トラックです）。	録音待機の状態からトラック指定ボタンでトラック1を選ぶ。	☞25ページ
レイヤーまたはスプリットのボタンを押しても効果がない。	1. チャンネル2～4のいずれかがオフになっている。 2. チャンネル2～4のいずれかのボリュームまたはエクスプレッションが下がっている。	1. ミキサー機能でチャンネル2～4をオンにする。 2. ミキサー機能でチャンネル2～4のボリュームまたはエクスプレッションを上げる。	☞16ページ ☞17ページ
コンピューターからMIDIデータを再生しても音が鳴らない。	1. MIDIケーブルが正しく接続されていない。 2. チャンネルがオフまたはボリュームやエクスプレッションが下がっている。	1. MIDIケーブルが正しく接続されていることを確認する。 2. ミキサー機能でチャンネルがオンまたはボリュームやエクスプレッションが上がっていることを確認する。	☞40ページ ☞18ページ
コンピューターでGM対応データを再生すると、ベース音色の演奏が1オクターブ低い。	GMモードがオフになっている。	**トランスポーズ／チューニング／MIDI**ボタンで、GMモードをオンにする。	☞42ページ
コンピューターとMIDI接続しているとき、鍵盤を弾くと発音が不自然になる。	コンピューター側のMIDIスルー機能がオンになっている。	コンピューター側のMIDIスルー機能をオフにするか、本機の**トランスポーズ／チューニング／MIDI**ボタンでローカルコントロールをオフにする。	☞44ページ
コード伴奏の演奏情報をコンピューターに録音できない。	アカンプMIDIアウトがオフになっている。	**トランスポーズ／チューニング／MIDI**ボタンでアカンプMIDIアウトをオンにする。	☞44ページ

音色別発音域表

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
000	24	A	A0 – C8
001	24	A	A0 – C8
002	12	A	A0 – C8
003	12	A	A0 – C8
004	24	A	E1 – G7
005	24	A	E1 – G7
006	24	A	F2 – F6
007	24	A	C2 – C7
008	24	A	C4 – C8
009	24	A	C5 – C8

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
010	12	A	C4 – C6
011	24	A	F3 – F6
012	24	A	C3 – C6
013	24	A	F4 – C7
014	24	A	C4 – F5
015	12	A	C4 – C6
016	12	A	C2 – C7
017	12	A	C2 – C7
018	12	A	C2– C7
019	12	A	A0 – C8

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
020	24	A	C2 – C7
021	12	A	F3 – F6
022	24	A	C4 – C6
023	12	A	F3 – F6
024	24	A	E2 – C6
025	24	A	E2 – C6
026	24	A	E2 – D6
027	24	A	E2 – D6
028	24	A	E2 – D6
029	24	A	E2 – D6

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
030	24	A	E2 – D6
031	24	A	E2 – D6
032	24	B	E1 – G3
033	24	B	E1 – G3
034	24	B	E1 – G3
035	24	B	E1 – G3
036	24	B	E1 – G3
037	24	B	E1 – G3
038	24	B	E1 – G3
039	24	B	E1 – G3

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
040	24	A	G3 – C7
041	24	A	C3 – C6
042	24	A	C2 – C5
043	24	B	E1 – G3
044	24	A	E1 – C7
045	24	A	E1 – C7
046	24	A	B0 – G7
047	24	B	C2 – A3
048	24	A	E1 – C7
049	24	A	E1 – C7

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
050	24	A	C2 – C7
051	12	A	C2 – C7
052	24	A	C3 – G5
053	24	A	C3 – G5
054	12	A	C3 – C6
055	12	A	C3 – C5
056	24	A	A♯3 – A♯6
057	24	A	A♯1 – D♯5
058	24	B	F1 – G3
059	24	A	A♯3 – A♯5

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
060	12	A	F2 – F5
061	24	A	C2 – C7
062	12	A	C2 – C7
063	12	A	C2 – C7
064	24	A	F♯3 – D♯6
065	24	A	C♯3 – G♯5
066	24	A	F♯2 – D♯5
067	24	B	C♯2 – G♯4
068	24	A	A♯3 – G6
069	24	A	E3 – A5

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
070	24	B	A♯1 – C5
071	24	A	D3 – G6
072	24	C	D5 – C8
073	24	A	C4 – C7
074	24	A	C4 – C7
075	24	A	C4 – C7
076	12	A	C4 – C7
077	24	A	G3 – C6
078	24	A	C4 – C7
079	24	A	C4 – C6

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
080	12	A	A0 – C8
081	12	A	A0 – C8
082	12	A	C2 – C7
083	12	A	C2 – C7
084	12	A	C2 – C7
085	12	A	C2 – C7
086	12	A	C2 – C7
087	12	A	A0 – C8
088	12	A	C2 – C7
089	24	A	C2 – C7

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
090	12	A	C2 – C7
091	12	A	C2 – C7
092	12	A	C2 – C7
093	12	A	C2 – C7
094	12	A	C2 – C7
095	12	A	C2 – C7
096	12	A	C2 – C7
097	12	A	C2 – C7
098	12	A	C2 – C7
099	12	A	C2 – C7

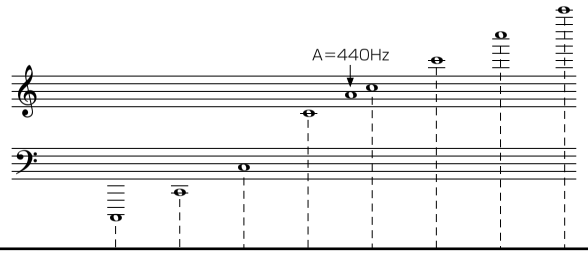
音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
100	12	A	C2 – C7
101	12	A	C2 – C7
102	12	A	C2 – C7
103	12	A	C2 – C7
104	24	A	C3 – F5
105	24	A	D3 – C6
106	24	A	D3 – G5
107	24	A	G3 – C6
108	24	A	C3 – G5
109	12	A	C2 – F5

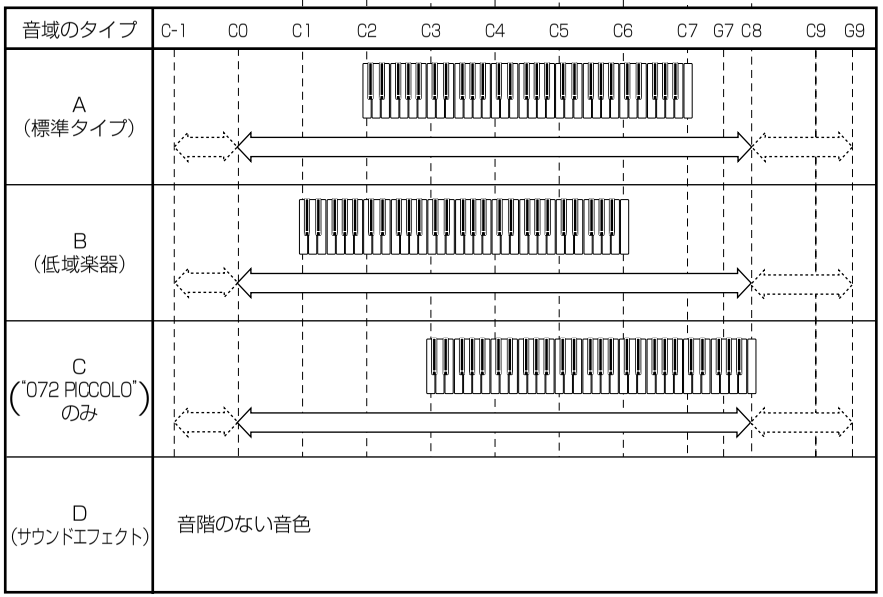
音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
110	12	A	G3 – C7
111	24	A	C3 – C5
112	24	A	C5 – C6
113	24	A	C4 – C5
114	12	A	E3 – E5
*115	24	D	C4 – C5
*116	24	D	C4 – C5
*117	24	D	C4 – C5
*118	12	D	C4 – C5
*119	24	D	C4 – C5

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ	GM 推奨音域
*120	24	D	C4 – C5
121	24	A	C4 – C5
*122	12	D	C4 – C5
*123	24	D	C4 – C5
*124	24	D	C4 – C5
*125	24	D	C4 – C5
*126	12	D	C4 – C5
*127	24	D	C4 – C5

■NOTE■

- 音域のタイプ（A ～ D）は右の表を参照してください。
- ＊印は音階のない音色です。
- 音色番号128～159のシンセ音色の最大同時発音数は、下記の通りです。
  - “141 BASS SLIDE”……24
  - 上記以外の音色……12





a ……鍵盤演奏時の音域

b ……発音可能音域（トランスポーズ、MIDIの受信時）

c ……bの範囲の一番近い同名の音に置き代わる音域（トランスポーズ、MIDIの受信時）

フリーセッションリストのコード進行一覧表（根音がCのとき）

No.	PATTERN NAME		TEMPO / KEYBOARD TONE
	POPS I		
00	00 WORLD POP	CM7 Bm7 Am7 D7sus4 G	108 / 64
01	01 SOUL BALLAD 1	CM7 𝄎 Em7 𝄎 FM7 𝄎 Dm7 A♭M7 G7sus4	92 / 73
02	02 POP SHUFFLE	Cm Gm7 Cm7 Gm7 Fm7 Gm7 Cm Gm7	104 / 83
03	03 POP BALLAD	C G F G C	72 / 85
04	04 POPS 1	C 𝄎 Dm 𝄎 G7 𝄎 C 𝄎	120 / 78
05	05 BALLAD	C 𝄎 Am7 𝄎 FM7 Dm7 G7sus4 C 𝄎	120 / 65
06	06 FUSION SHUFFLE	C Am7 Dm7 G7sus4	88 / 85
07	07 CLUB POP	Cm A♭ B♭7sus4 B♭7	126 / 81
08	08 POPS 2	C Am Dm G7	92 / 114
09	09 SOUL BALLAD 2	Cm7 Fm7	92 / 64
	POPS II		
10	10 16BEAT 1	Cm Gm Cm Gm A♭M7 Gm7 Fm7 B♭7sus4	108 / 77
11	11 16BEAT 2	C 𝄎 𝄎 A7 Dm G C G7	96 / 05
12	12 16BEAT 3	C 𝄎 Dm7 𝄎	120 / 62
13	13 8BEAT 1	C 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G 𝄎 C 𝄎 F 𝄎 C G7 C 𝄎	120 / 00
14	14 8BEAT 2	C Dm Em Dm C Dm Em F G7sus4	96 / 61
15	15 8BEAT 3	C Am A♭ G	120 / 75
16	16 POPS 3	C 𝄎 𝄎 𝄎 B♭ 𝄎 C 𝄎 A♭ G C 𝄎	170 / 17
17	17 DANCE POP	C Dm7 C Dm7 C Dm7 FM7 Em7 Dm7 G7sus4	108 / 80
18	18 POP FUSION	Cm Gm Cm Gm Fm Gm Cm Gm	112 / 83
19	19 POPS 4	C 𝄎 G7 𝄎 C 𝄎 F G7	102 / 73
	DANCE/FUNK		
20	20 JUNGLE	C7sus4 𝄎 E♭7sus4 𝄎 F7sus4 𝄎 B♭7sus4 𝄎	84 / 77
21	21 RAVE	C 𝄎 A♭ B♭	132 / 80
22	22 TECHNO	C 𝄎 B♭ 𝄎 C 𝄎 A♭ 𝄎	160 / 81
23	23 GROOVE SOUL	CM7 Bm Em CM7 Bm Em CM7 Bm Em Am7 D7sus4 G	120 / 66
24	24 DISCO	C 𝄎 Am 𝄎 F6 𝄎 G7sus4 G7	120 / 48
25	25 EURO BEAT	C 𝄎 B♭ 𝄎 C 𝄎 B♭ 𝄎 C B♭ F C 𝄎 B♭ F G	118 / 81
26	26 RAP	C 𝄎 𝄎 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G 𝄎 C 𝄎	100 / 83
27	27 TRANCE	C 𝄎 A♭ B♭	130 / 80
28	28 FUNK	C 𝄎 𝄎 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G 𝄎 C 𝄎	104 / 66
29	29 VERY FUNKY	C7 𝄎 𝄎 𝄎 F7 𝄎 C7 𝄎 G7 F7 C7 𝄎	116 / 66
	ROCK I		
30	30 ROCK WALTZ	C 𝄎 G 𝄎 F G C 𝄎	96 / 48
31	31 SLOW ROCK 1	C Am Dm G7 Em Am Dm G7	72 / 30
32	32 SLOW ROCK 2	C Am7 Dm7 G7	72 / 82
33	33 SOFT ROCK 1	C 𝄎 G7 𝄎 Dm G7 C C7 F G C F C G C 𝄎	100 / 67
34	34 SOFT ROCK 2	C Am FM7 Dm7 G7	126 / 04
35	35 SOFT ROCK 3	C Am FM7 Dm7 G7	82 / 68
36	36 FOLKIE POP	C G F C	94 / 40
37	37 POP ROCK 1	C Em F Gsus4 G	124 / 65
38	38 60'S SOUL	C 𝄎 G 𝄎 Dm 𝄎 F G	126 / 48
39	39 POP ROCK 2	C B♭ C E♭ F	126 / 81
	ROCK II		
40	40 ROCK 1	C 𝄎 A♭ 𝄎 Fm 𝄎 G7 𝄎	125 / 17
41	41 ROCK 2	C F G F	96 / 29
42	42 HARD ROCK	C 𝄎 B♭ 𝄎 F 𝄎 C 𝄎	112 / 30
43	43 RIFF ROCK	C 𝄎 𝄎 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G 𝄎 C 𝄎	132 / 30
44	44 HEAVY METAL	C A♭m B♭ 𝄎	140 / 30
45	45 50'S ROCK	C 𝄎 𝄎 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G 𝄎 C 𝄎	178 / 66
46	46 TWIST	C 𝄎 𝄎 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G F C 𝄎	136 / 66
47	47 N'AWLINS R&R	C 𝄎 𝄎 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G F C 𝄎	136 / 66
48	48 CHICAGO BLUES	C 𝄎 𝄎 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G F C 𝄎	126 / 29
49	49 R&B	C 𝄎 𝄎 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G F C 𝄎	126 / 18

No.	PATTERN NAME		TEMPO / KEYBOARD TONE
	JAZZ/FUSION		
50	50 BIG BAND	C 𝄎 𝄎 𝄎 Dm7 G7 C 𝄎	152 / 56
51	51 JAZZ VOICES	C F C G7 C F C G7 C	156 / 53
52	52 SLOW SWING	CM7 Dm7 Em7 A7 Dm7 Fm B♭7	84 / 59
53	53 SWING 1	C 𝄎 Dm G Dm G C 𝄎	120 / 71
54	54 SWING 2	C 𝄎 F7 𝄎 C G7 C 𝄎	156 / 57
55	55 FOX TROT	C 𝄎 Am 𝄎 F G C 𝄎	156 / 59
56	56 MODERN JAZZ	Cm 𝄎 𝄎 𝄎 Fm 𝄎 Cm 𝄎 A♭ G♭ E♭ D♭	120 / 59
57	57 ACID JAZZ	Cm Gm7 Cm Gm7 Fm7 Gm7 Cm Gm7	96 / 67
58	58 LATIN FUSION	C Em7 FM7 Dm7 G7sus4	106 / 73
59	59 JAZZ WALTZ	Cm7 F7 B♭M7 Gm7 Cm7 F7 B♭ 𝄎	166 / 11
	EUROPEAN		
60	60 POLKA 1	C 𝄎 𝄎 G7 𝄎 𝄎 𝄎 C	114 / 71
61	61 POLKA 2	C 𝄎 G7 𝄎 𝄎 𝄎 C 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 D7 𝄎 G7 𝄎	110 / 21
62	62 MARCH 1	C 𝄎 G 𝄎 𝄎 𝄎 C 𝄎	120 / 72
63	63 MARCH 2	C 𝄎 𝄎 𝄎 G C D7 G7 C 𝄎 𝄎 𝄎 G C G7 C	122 / 72
64	64 SLOW WALTZ	C CM7 C CM7 C C♯dim Dm G7 Dm G7 Dm G7 Dm Gaug C 𝄎	90 / 00
65	65 VIENNESE WALTZ	C 𝄎 𝄎 𝄎 𝄎 𝄎 Dm 𝄎 𝄎 𝄎 G7 𝄎 Dm G C 𝄎	180 / 48
66	66 WALTZ	C 𝄎 𝄎 𝄎 𝄎 𝄎 G 𝄎 𝄎 𝄎 𝄎 𝄎 𝄎 C 𝄎	120 / 49
67	67 FRENCH WALTZ	Cm 𝄎 𝄎 𝄎 Fm 𝄎 𝄎 𝄎 G7 𝄎 𝄎 𝄎 Cm B♭ A♭ G7	210 / 23
68	68 SERENADE	C 𝄎 G 𝄎 Dm G7 C 𝄎 C7 𝄎 F Fm C 𝄎 G7 C	90 / 25
69	69 TANGO	Cm 𝄎 𝄎 G7 𝄎 𝄎 Cm 𝄎 𝄎 Fm 𝄎 𝄎	120 / 23
	LATIN I		
70	70 BOSSA NOVA 1	C 𝄎 D7 𝄎 Dm7 D♭7 C 𝄎	138 / 73
71	71 BOSSA NOVA 2	C 𝄎 Dm G7 Dm G7 C C7 F Fm C Am D7 𝄎 Gsus4 G7	142 / 75
72	72 SAMBA 1	C 𝄎 Dm G7 Dm G7 C Dm C Dm C 𝄎	120 / 61
73	73 SAMBA 2	Cm Gm Cm Gm Cm Gm Fm Gm Cm	112 / 56
74	74 JAZZ SAMBA	C CM7 Dm7 𝄎 G7sus4 G7 C 𝄎	112 / 73
75	75 MAMBO	C F Dm G7	116 / 13
76	76 RHUMBA	C 𝄎 Dm7 𝄎 G7 𝄎 C 𝄎	126 / 48
77	77 CHA-CHA-CHA	Cm7 F7 Dm7 G7 Cm7 F7 B♭M7 B♭6	126 / 56
78	78 MERENGUE	Cm7 F7 B♭M7 Gm7 Cm7 F7 B♭M7 𝄎	124 / 61
79	79 BOLERO	Cm7 F7 B♭M7 B♭6	90 / 48
	LATIN II/VARIOUS I		
80	80 SALSA	C G7 G7 C A7 Dm G7 C	92 / 56
81	81 REGGAE	Cm Gm	120 / 07
82	82 PUNTA	C 𝄎 𝄎 G7 𝄎 𝄎 𝄎 C 𝄎 𝄎 C7 F 𝄎 C G C	115 / 01
83	83 CUMBIA	C G7 𝄎 C F C G7 C	108 / 13
84	84 PASODOBLE	C 𝄎 D♭ C	125 / 59
85	85 RUMBA CATALANA	C 𝄎 𝄎 G7 G 𝄎 𝄎 C 𝄎 𝄎 C7 F 𝄎 C G7 C	115 / 56
86	86 SEVILLANA	C 𝄎 G 𝄎 F G C 𝄎	180 / 25
87	87 SKA	C Dm7 G7 C	132 / 16
88	88 TEX-MEX	C G7 𝄎 C	120 / 21
89	89 FOLKLORE	Cm 𝄎 A♭ B♭	120 / 99
	VARIOUS II		
90	90 COUNTRY	C F C G C F C G C	100 / 40
91	91 BLUEGRASS	C F C G C F C G C	116 / 40
92	92 TOWNSHIP	C F G F	124 / 61
93	93 FAST GOSPEL	C F C G C F C G C	112 / 18
94	94 SLOW GOSPEL	C F C C G C F C C G C	110 / 18
95	95 RAI	Cm Fm Cm 𝄎 𝄎 Fm Cm Gm	152 / 104
96	96 ADANI	C 𝄎 F 𝄎 C 𝄎 G 𝄎	175 / 70
97	97 BALADI	C 𝄎 G 𝄎 C 𝄎 D♭ G	120 / 16
98	98 ENKA	Cm Fm Cm Gm Cm Fm Cm Gm Cm	83 / 48
99	99 STR QUARTET	C G7 𝄎 C F %E F %E Dm7 G7 Csus4 C	120 / 00

ドラム音色リスト

音名／ノートナンバー	Drumset 1 STANDARD SET	Drumset 2 POWER SET 1	Drumset 3 POWER SET 2	Drumset 4 VOICE SET
D#1 27	–	–	–	–
E1 28	–	–	–	–
F1 29	–	–	–	–
F#1 30	–	–	–	–
G1 31	–	–	–	–
G#1 32	–	–	–	–
A1 33	–	–	–	–
A#1 34	–	–	–	–
B1 35	ACOUSTIC BASS DRUM	BASS DRUM	←	SYNTH BASS DRUM 1
C2 36	BASS DRUM	POWER BASS DRUM	POWER BASS DRUM	VOICE BASS DRUM
C#2 37	SIDE STICK	←	←	←
D2 38	ACOUSTIC SNARE 1	POWER SNARE	POWER SNARE	VOICE SNARE
D#2 39	HAND CLAP	←	←	←
E2 40	ACOUSTIC SNARE 2	ACOUSTIC SNARE 1	←	SYNTH SNARE 1
F2 41	LOW FLOOR TOM	←	←	SYNTH LOW FLOOR TOM
F#2 42	CLOSED HI-HAT	←	←	VOICE CLOSED HI-HAT
G2 43	HIGH FLOOR TOM	←	←	SYNTH HIGH FLOOR TOM
G#2 44	PEDAL HI-HAT	←	←	VOICE PEDAL HI-HAT
A2 45	LOW TOM	←	←	SYNTH LOW TOM
A#2 46	OPEN HI-HAT	←	←	VOICE OPEN HI-HAT
B2 47	LOW MID TOM	←	←	SYNTH LOW MID TOM
C3 48	HIGH MID TOM	←	←	SYNTH HIGH MID TOM
C#3 49	CRASH CYMBAL 1	←	←	←
D3 50	HIGH TOM	←	←	SYNTH HIGH TOM
D#3 51	RIDE CYMBAL 1	←	←	←
E3 52	CHINESE CYMBAL	←	←	←
F3 53	RIDE BELL	←	←	←
F#3 54	TAMBOURINE	←	←	←
G3 55	SPLASH CYMBAL	←	←	←
G#3 56	COWBELL	←	←	←
A3 57	CRASH CYMBAL 2	←	←	←
A#3 58	VIBRA-SLAP	←	←	←
B3 59	RIDE CYMBAL 2	←	←	←
C4 60	HIGH BONGO	←	←	←
C#4 61	LOW BONGO	←	←	←
D4 62	MUTE HIGH CONGA	←	←	SYNTH MUTE HIGH CONGA
D#4 63	OPEN HIGH CONGA	←	←	SYNTH OPEN HIGH CONGA
E4 64	LOW CONGA	←	←	SYNTH LOW CONGA
F4 65	HIGH TIMBALES	←	←	←
F#4 66	LOW TIMBALES	←	←	←
G4 67	HIGH AGOGO	←	←	←
G#4 68	LOW AGOGO	←	←	←
A4 69	CABASA	←	←	←
A#4 70	MARACAS	←	←	SYNTH MARACAS
B4 71	SHORT WHISTLE	←	←	←
C5 72	LONG WHISTLE	←	←	←
C#5 73	SHORT GUIRO	←	←	←
D5 74	LONG GUIRO	←	←	←
D#5 75	CLAVES	←	←	SYNTH CLAVES
E5 76	HIGH WOOD BLOCK	←	←	←
F5 77	LOW WOOD BLOCK	←	←	←
F#5 78	MUTE CUICA	←	←	←
G5 79	OPEN CUICA	←	←	←
G#5 80	MUTE TRIANGLE	←	←	←
A5 81	OPEN TRIANGLE	←	←	←
A#5 82	SHAKER	←	←	←
B5 83	JINGLE BELL	←	←	←
C6 84	STICKS	←	←	←
C#6 85	CASTANETS	←	←	←
D6 86	–	–	–	–
D#6 87	–	–	–	–
E6 88	–	–	–	–

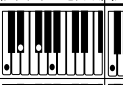
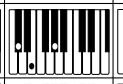
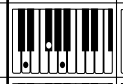
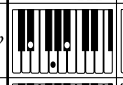
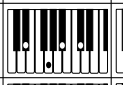
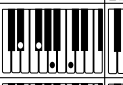
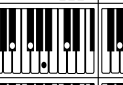
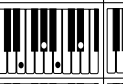
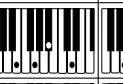
← : STANDARD SETと同じ　　– : なし

音名／ノートナンバー	Drumset 5 SYNTH SET	Drumset 6 JAZZ SET 1	Drumset 7 JAZZ SET 2	Drumset 8 ORCHESTRA SET
D#1 27	–	–	–	CLOSED HI-HAT
E1 28	–	–	–	PEDAL HI-HAT
F1 29	–	–	–	OPEN HI-HAT
F#1 30	–	–	–	RIDE CYMBAL 1
G1 31	–	–	–	–
G#1 32	–	–	–	–
A1 33	–	–	–	–
A#1 34	–	–	–	–
B1 35	SYNTH BASS DRUM 2	BASS DRUM	←	JAZZ BASS DRUM
C2 36	SYNTH BASS DRUM 1	JAZZ BASS DRUM	JAZZ BASS DRUM	CONCERT BASS DRUM
C#2 37	←	←	←	←
D2 38	SYNTH SNARE 1	JAZZ SNARE	JAZZ SNARE	CONCERT SNARE
D#2 39	←	←	←	CASTANETS
E2 40	SYNTH SNARE 2	ACOUSTIC SNARE 1	←	CONCERT SNARE
F2 41	SYNTH LOW FLOOR TOM	←	←	TIMPANI F
F#2 42	SYNTH CLOSED HI-HAT 1	←	←	TIMPANI F#
G2 43	SYNTH HIGH FLOOR TOM	←	←	TIMPANI G
G#2 44	SYNTH CLOSED HI-HAT 2	←	←	TIMPANI G#
A2 45	SYNTH LOW TOM	←	←	TIMPANI A
A#2 46	SYNTH OPEN HI-HAT	←	←	TIMPANI A#
B2 47	SYNTH LOW MID TOM	←	←	TIMPANI B
C3 48	SYNTH HIGH MID TOM	←	←	TIMPANI C
C#3 49	SYNTH CYMBAL	←	←	TIMPANI C#
D3 50	SYNTH HIGH TOM	←	←	TIMPANI D
D#3 51	←	←	←	TIMPANI D#
E3 52	←	←	←	TIMPANI E
F3 53	←	←	←	TIMPANI F
F#3 54	←	←	←	←
G3 55	←	←	←	←
G#3 56	SYNTH COWBELL	←	←	←
A3 57	←	←	←	CONCERT CYMBAL 2
A#3 58	←	←	←	←
B3 59	←	←	←	CONCERT CYMBAL 1
C4 60	←	←	←	←
C#4 61	←	←	←	←
D4 62	SYNTH MUTE HIGH CONGA	←	←	←
D#4 63	SYNTH OPEN HIGH CONGA	←	←	←
E4 64	SYNTH LOW CONGA	←	←	←
F4 65	←	←	←	←
F#4 66	←	←	←	←
G4 67	←	←	←	←
G#4 68	←	←	←	←
A4 69	←	←	←	←
A#4 70	SYNTH MARACAS	←	←	←
B4 71	←	←	←	←
C5 72	←	←	←	←
C#5 73	←	←	←	←
D5 74	←	←	←	←
D#5 75	SYNTH CLAVES	←	←	←
E5 76	←	←	←	←
F5 77	←	←	←	←
F#5 78	←	←	←	←
G5 79	←	←	←	←
G#5 80	←	←	←	←
A5 81	←	←	←	←
A#5 82	←	←	←	←
B5 83	←	←	←	←
C6 84	←	←	←	←
C#6 85	←	←	←	←
D6 86	–	–	–	–
D#6 87	–	–	–	–
E6 88	–	–	–	APPLAUSE

← : STANDARD SETと同じ　　– : なし

フィンガードコード一覧表

よく使われるコードの各キーでの押さえ方です（転回形も含まれています）。

コードの種類 / 根音（ルート）	メジャー	m（マイナー）	7（セブンス）	m7（マイナーセブンス）	dim7（ディミニッシュセブンス）	M7（メジャーセブンス）	m7-5（マイナーセブンスフラットファイブ）	dim（ディミニッシュ）
C								
C♯/(D♭)								
D								
(D♯)/E♭								
E								
F								
F♯/(G♭)								
G								
(G♯)/A♭								
A					※			
(A♯)/B♭					※			
B					※			

コードの種類 / 根音（ルート）	aug（オーギュメント）	sus4（サスフォー）	7sus4（セブンスサスフォー）	m add9（マイナーアドナインス）	mM7（マイナーメジャーセブンス）	7-5（セブンスフラットファイブ）	add9（アドナインス）
C							
C♯/(D♭)							
D							
(D♯)/E♭							
E							
F							
F♯/(G♭)							
G							
(G♯)/A♭							
A							
(A♯)/B♭	※						
B	※						

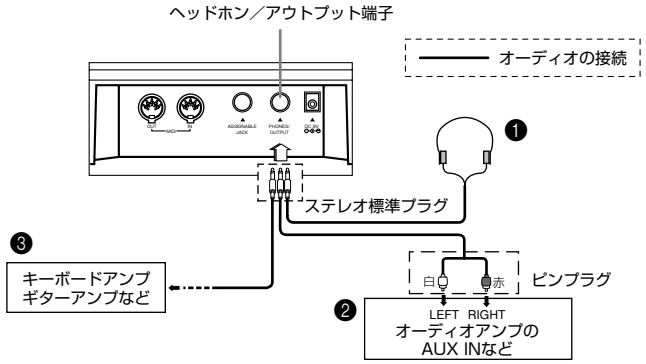
※ 伴奏鍵盤の範囲の関係で、“フィンガード”では指定できません。
このコードを含む曲では、“フルレンジコード”（12ページ参照）をご利用ください。

接続するには

■ヘッドホン／アウトプット端子について

準備　接続の際は、本機の全体の音量を（接続する機器側に音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量にしてください。

【背面部】



●ヘッドホンをつなぐには（図❶）

内蔵スピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏を楽しめます。

ｴｴﾁｴ

●オーディオ機器と接続するには（図❷）

市販の接続コード（標準プラグ× 1、ピンプラグ× 2）で図のように接続します。その際、片側（本機につなぐ側）がステレオ標準プラグのものをご利用ください。（モノラルプラグでは、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）通常はオーディオ機器側のインプットセレクターで、接続した端子（AUX IN等）に切り替えます。オーディオ機器の取扱説明書もよくお読みください。

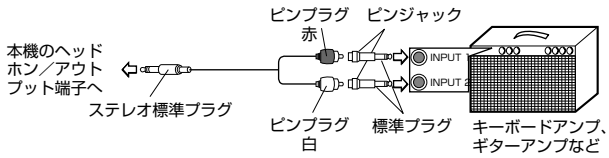
●楽器用アンプと接続するには（図❸）

相手側の機器に応じて、市販の接続コード※を使用します。

参考　※ 本機につなぐ側：ステレオ標準プラグのもの
アンプにつなぐ側：左右両チャンネルの信号が入るようにする。
（どちらが欠けても、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）

楽器用アンプなどと接続するとき、音量は本機の側を小さめにし、アンプ側で調節してください。

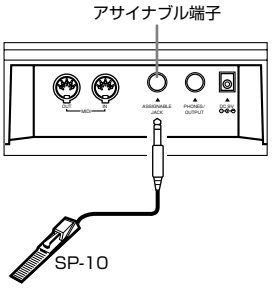
[接続例]



参考　コンピューター（ソフトウェアシーケンサー）やシーケンサー（ハードウェアシーケンサー）に接続して使用することもできます（40ページ「MIDIを使うには」参照）。

■アサイナブル端子について

アサイナブル端子にサスティンペダル（SP-2 または SP-10）を接続すると、下記のような使い方ができます。
それぞれの設定方法については、「アサイナブル端子の設定」（44 ページ）をご参照ください。



●サスティンペダルとして使うには

- ピアノなど減衰音では…ピアノのダンパーペダル同様、鍵盤で弾いた音に余韻の残る効果。
- オルガン系の持続音では…ペダルを踏んでいる間、鍵盤で弾いた音が鳴り続ける「ホールド効果」。

●ソステヌートペダルとして使うには

- サスティンペダルと同様の効果が、鍵盤で弾いた音にかかります。
- サスティンペダルとの違いは効果をかけるタイミングにあります。
- 鍵盤を押してから、その鍵盤を離す前にペダルを踏めば、その音に対してのみ効果がかかります。

●ソフトペダルとして使うには

鍵盤で弾いた音の音色が柔らかくなります。

●リズムのスタート／ストップとして使うには

ペダル操作で、リズムの**スタート／ストップ**ボタンと同じ働きをします。

■付属品・別売品について

- 付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

索引

英数字

8va 5
DCO 20
GM 40
GM モードオフ 42, 43
GM モードオン 42, 43
MIDI 40
MIDI インコードジャッジ 43
MIDI チャンネル 40, 43
PCM セット 19, 22
REST 29
RPN 41
TIE 29

ア

アカンプ MIDI アウト 44
アサイナブルジャック 44, 52
アタックレイト 19, 22
アンプエンベロープ 19, 22
イントロ 13, 14
エクスプレッション 18
エディット 33
エンディング 14
エンベロープ 19
オートパワーオフ 7
オールサウンドオフ 42
オールノートオフ 42
オリジナル音色 20
オンベースコード 29

カ

カシオコード 12
キーボードチャンネル 43
コースチューン 18
コントロールチェンジ 41

サ

サスティン 19, 44, 52
システムエクスクルーシブ 42
システムリセット 57
自動伴奏 10
シンクロスタート 14
ステップ録音 28, 31
スプリット 37
ソステヌート 44, 52
ソフト 44, 52

タ

タッチセンス 20, 22
タッチレスポンス 38
チャンネル 16
チャンネルエディットモード 16
チューニング 39
チューン 41
ディケイ 19
データエントリー 41
デジタルサンプリング 8
デモ 4
テンポ 11
同時発音数 8, 48
トラック 25
ドラムパッド 9
トランスポーズ 39

ナ

ナビゲートトラック 44
ノートナンバー 41, 50

ハ

パラメーター 17, 19
パラメーターエディットモード 17
バリエーション 14
バルクダンプ 45
パン 20, 22
バンク 41
バンクセレクト 41
バンクナンバー 41
伴奏の音量 15
伴奏鍵盤 12
パンポット 18
ピッチ 19, 22
ピッチエンベロープ 19, 22
ピッチベンダー 9
ピッチベンド 9
ピッチベンドセンス 41
ピッチベンドレンジ 44
ビブラート 19
ファインチューン 18
フィルイン 13
フィンガード 12
フィンガードコード 51
フラット 19
フリーセッション 15, 49
フルレンジコード 12
プログラムチェンジ 41
プログラムチェンジナンバー 18
ベロシティ 41
ホールド 41, 52
ボリューム 18

マ

ミキサー 16
メモリー 25
メロディー鍵盤 10, 12
モード 8, 10, 11

ヤ

ユニバーサルシステムエクスクルーシブ 42

ラ

リアルタイム録音 25
リセットオールコントローラー 42
リバーブ 9
リバーブチェンジ 42
リリースレイト 20, 22
レイヤー 36
レイヤースプリット 37
レベル 20, 22
レベルメーター 5, 31
ローカルコントロール 44

製品仕様

型式	CTK-601
鍵盤	61 鍵　5 オクターブ（標準鍵盤）·····タッチレスポンス機能付き（オン／オフ）
ドラムパッド	6 個
音色数	128GM 音色＋ 32 シンセ音色＋ 8 ドラム音色＋ 32 ユーザー音色（計 200 音色）·····レイヤー／スプリット可
リズム楽器音色数	51 音色
同時発音数	最大 24 音（一部音色により最大 12 音）
デジタルエフェクト	リバーブ 3 種類（ホール、ステージ、ルーム）
自動伴奏機能 ・リズムパターン数 ・テンポ ・コード ・リズムコントローラ ・伴奏の音量	 100 種類 可変（216 段階　♩＝ 40 ～ 255） 3 種類（カシオコード／フィンガード／フルレンジコード） スタート／ストップ、イントロ、ノーマル／ノーマルフィルイン、バリエーション／バリエーションフィルイン、シンクロ／エンディング 0 ～ 127（128 段階）
フリーセッション機能 ・パターン数	 100 種類（決まったコード進行による自動伴奏機能）
メモリー機能 ・曲数 ・録音トラック数 ・録音方法 ・メモリー容量 ・エディット機能	 2 曲 6 トラック（トラック 2 ～ 6 はメロディー専用トラック） リアルタイム録音、ステップ録音 約 5200 音符（2 曲合計） 有り
デモ演奏曲	2 曲
シンセ機能 ・パラメーター	 PCM セット、アンプエンベロープセット、アタックレイト、リリースレイト、ピッチエンベロープセット、ピッチ、レベル、タッチセンス、パン
ミキサー機能 ・チャンネル数 ・パラメーター	 16 チャンネル プログラムチェンジナンバー、ボリューム、エクスプレッション、パン、コースチューニング、ファインチューニング、オン／オフ／ソロ
MIDI 機能	16 マルチティンバー受信、GM レベル 1 準拠
その他の機能 ・ピッチベンド機能 ・トランスポーズ機能 ・チューニング機能	 可変範囲·····上下 12 半音 25 段階（－ 12 半音 ～ 0 ～ ＋ 12 半音） 可変·····A4 ＝約 440Hz ± 50 セント
端子 ・MIDI イン／アウト端子 ・アサイナブル端子 ・ヘッドホン・アウトプット端子 ・電源端子	 IN、OUT 標準ジャック（サスティン、ソステヌート、ソフト、リズムのスタート／ストップ） ステレオ標準ジャック 出力インピーダンス 120 Ω 出力電圧 4.5V (RMS)MAX DC9V
電源 ・電池 ・家庭用 100V 電源使用 ・オートパワーオフ機能	 2 電源方式 単 1 形電池 6 本使用 電池持続時間：約 5 時間·····マンガン電池使用時 AC アダプター AD-5JL を使用 約 6 分後（電池使用時）　キャンセル可能
スピーカー出力	2.5W ＋ 2.5W
消費電力	9V⎓7.7W
サイズ	幅 93.1 ×奥行き 37.3 ×高さ 12.0 cm
重量	約 5.0kg（電池含まず）
付属品	和文操作シート、譜面立て、AC アダプター（AD-5JL）、取扱説明書（本書）、保証書

曲番号	曲名	作曲者名	演奏時間
0	GROOVE IN-FORMATION	カシオオリジナル曲 (編曲とプログラミング　WOJTEK GOGOLEWSKI)	1 分 32 秒
1	JUST SAY YES OR NO	EDWARD ALSTROM	1 分 40 秒

★改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番	価格
ヘッドホン	CP-3A	¥4,000
サスティンペダル	SP-2	¥2,500
	SP-10	¥4,000
ソフトケース	SC-600B	¥10,000
スタンド	CS-4	¥5,000
	CS-7B	¥11,000
MIDI ケーブル	MK-5	¥2,000
レッスンビデオ、楽譜集は次ページをご覧ください。		

★ *別売品はいずれも、カシオ電子楽器取扱店（全国の有名楽器店、デパートなど）でお求めになれます。*

★ *価格には、消費税は含まれておりません。*

カシオトーン用ソフトのご紹介

■自動伴奏機能付カシオトーン全機種対応レッスンビデオ

ビデオでレッスンチャレンジカシオトーンシリーズ（各¥2,900）

LKV-11　子供用入門

ドレミがわからなくても大丈夫、アニメを交えた説明で、楽しく練習できます。
曲目：チューリップ・ちょうちょ・チョップスティックス・きらきらぼし・おどるポンポコリン・となりのトトロ

LKV-32　楽しいレパートリー 2

ドレミはわかるけれど、楽譜は苦手という方に。
曲目：夏の思い出・四季の歌・エデンの東・くちなしの花・君といつまでも

■楽譜集

やさしく弾けるファミリーキーボードライブラリー
カシオトーンランドシリーズ（各¥1,000 ～ ¥1,200）

CFL-101YC ようこそカシオトーンランドへ	CFL-102HC 初めてのカシオトーン	CFL-103KU こどものうた 1	CFL-104KU こどものうた 2	CFL-105TV TVソング 1	CFL-106YH ヤングベストヒット1	CFL-107HP ヒットポップス
(子供用入門) 大きな栗の木の下で 茶色のこびん かっこう 他 全37曲	(大人用入門) 河は呼んでる 500マイルはなれて 駅馬車 他 全35曲	アイアイ いぬのおまわりさん ぞうさん 他 全45曲	春がきた 赤とんぼ ハイ・ホー 他 全44曲	となりのトトロ 勇気のしるし おどるポンポコリン 他 全30曲	OH YEAH! あー　夏休み 千流の雫 他 全22曲	すべてをあなたに やさしく歌って レット・イット・ビー 他 全29曲
CFL-108NM ニューミュージック	**CFL-109EL イージーリスニング**	**CFL-110KH カラオケヒット**	**CFL-111HS ヒットソング1**	**CFL-112HS ヒットソング2**	**CFL-113RK 永遠のロック**	
いとしのエリー ANNIVERSARY SUMMER CANDLES 他 全24曲	オリーブの首飾り マイ・ウェイ ある愛の詩 他 全29曲	釜山港へ帰れ つぐない 別れても好きな人 他 全30曲	君がいるだけで それが大事 ラブストーリーは突然に 他 全20曲	SAY YES どんなときも 会いたい 他 全21曲	青い影 キラー・クイーン スモーク・オン・ザ・ウォーター 他 全21曲	

★ 上記ご案内は、本書印刷時点でのものです（万一品切れの際はご容赦ください）。
★ 別売品はいずれも、カシオトーン取扱店（全国の有名楽器店、デパート）でお求めになれます。

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください。

● **テレビやラジオの近くでは使わないでください。**
テレビやラジオの画像や音が、乱れることがあります。そのようなときは、テレビやラジオから充分に離してお使いください。

● **お手入れにベンジンなどの化学薬品を使わないでください。**
鍵盤などのお手入れは、柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞って拭いてください。ベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は絶対にご使用にならないでください。

● **極端に温度の高い場所や低い場所では使わないでください。**
液晶表示がうすくなり、見づらくなります。そのようなときは、常温にすると液晶表示はもとに戻ります。

ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓をしめたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

● 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。
● 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
● 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
● 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

保証・アフターサービスについて

■保証書はよくお読みください。

保証期間は、お買上げ日から１年間です。

保証書（別に添付しています）は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

■修理を依頼されるときは

まず、本書の「困ったときは」にしたがって調べていただき、直らないときには次の処置をしてください。

●保証期間中は

保証書の規定にしたがってお買上げの販売店またはカシオサービスセンターが修理をさせていただきます。製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。

●保証期間が過ぎているときは

お買上げの販売店またはカシオサービスセンターへご依頼ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

■あらかじめご了承いただきたいこと

●「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。また、特別注文された商品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。

●仕様が日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内のカシオサービスセンターにご依頼ください。

■アフターサービスなどについて、おわかりにならないときは

お買上げの販売店または本書記載のカシオサービスセンターにお問い合わせください。

カシオサービスセンター

北海道

札　幌　☎011-842-1231
〒003　札幌市白石区菊水五条1-19-5

東　北

仙　台　☎022-256-8822
〒980　仙台市宮城野区榴岡5-1-35

盛　岡　☎0196-46-3393
〒020-01　盛岡市上堂２-３-６

関　東

宇都宮　☎028-623-5588
〒320　宇都宮市戸祭町3009-8

水　戸　☎029-225-6985
〒310　水戸市城南3-10-17

高　崎　☎0273-23-1511
〒370　高崎市新町６７-１

埼　玉　☎048-666-8567
〒331　大宮市大成町４-８３

千　葉　☎043-243-1087
〒260　千葉市中央区神明町13-4

東　京　☎03-5294-7011
〒101　千代田区外神田2-2-18

秋葉原　☎03-5820-9871
〒101　千代田区神田佐久間町2-15

多　摩　☎0425-23-3990
〒190　立川市曙町１-２２-１７

横　浜　☎045-211-0811
〒231　横浜市中区南仲通３-２６

信　越

信　越　☎025-287-1151
〒950　新潟市弁天橋通り3-9-12

北　陸

金　沢　☎0762-24-0061
〒920　金沢市南新保町ト５２

東　海

静　岡　☎054-281-8085
〒422　静岡市津島町１６-２３

名古屋　☎052-263-0454
〒460　名古屋市中区栄4-6-15

近　畿

京　都　☎075-351-1161
〒600　京都市下京区五条通り堀川東入ル

大　阪　☎06-352-7111
〒530　大阪市北区天神橋6-3-16

神　戸　☎078-392-2145
〒650　神戸市中央区伊藤町１１９

中　国

岡　山　☎086-244-3404
〒700　岡山市西古松西町９-１

広　島　☎082-230-5900
〒733　広島市西区大芝2-14-10

四　国

高　松　☎0878-62-5240
〒760　高松市今里町２-２１

九　州

福　岡　☎092-411-2939
〒812　福岡市博多区東比恵2-16-23

熊　本　☎096-367-0614
〒862　熊本市健軍１-３８-７

鹿児島　☎099-256-3573
〒890　鹿児島市郡元１-１-３

※住所・電話番号などは変更になることがあります。あらかじめご了承ください。

Model CTK-601
MIDI インプリメンテーション・チャート

Version : 1.0

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ＯＮ時 設定可能範囲	1 ～ 16 *1 1 ～ 16	1 ～ 16 1 ～ 16	*1：電源供給のある 間は保持される
モード	電源ＯＮ時 メッセージ 代　用	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊	
ノート ナンバー	音　域	36 ～ 96 ＊＊＊＊＊＊＊	0 ～ 127 12 ～ 108 *2	*2：音色による
ベロシティー	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH v= 1 ～ 127 × 9nH v = 0	○ 9nH v = 1 ～ 127 × 9nH v = 0、8nH v=**	**：関係なし
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ○ *3	
ピッチ・ベンド		○	○	
コントロール チェンジ	0, 32 1 6, 38 7 10 11 64 66 67 100, 101 120 121	○ × ○ *4 ○ ○ ○ ○ *5 ○ *5 ○ *5 ○ *4 × ×	○ ○ *3 ○ *4 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ *4 ○ ○	バンクセレクト モジュレーション データエントリー ボリューム パン エクスプレッション ホールド1 ソステヌート ソフトペダル RPN LSB, MSB オールサウンドオフ リセットオールコントローラー
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0 ～ 127 ＊＊＊＊＊＊＊	○ 0 ～ 127 ＊＊＊＊＊＊＊	
エクスクルーシブ		○ *6	○ *6	
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	○ ○	× ×	
その他	ローカル ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング システムリセット	× × × ×	× ○ ○ ×	
備　考	*3：モジュレーションとチャンネル別アフタータッチは同一効果 *4：ピッチベンドセンス、ファインチューン、コースチューンの送受信、および RPN Null の受信 *5：アサイナブルジャックの設定により択一 *6：GM　オン／オフ　GM ON : [F0] [7E] [7F] [09] [01] [F7]　GM OFF : [F0] [7E] [7F] [09] [02] [F7] リバーブチェンジ　[F0] [44] [0E] [09] [XX] [F7]　XX=00 : ROOM、01 : STAGE、02 : HALL、0F : OFF バルクダンプ　[F0] [44] [0E] [01] [$0L_0$][$0H_0$] [$0L_1$] [$0H_1$]…[$0L_{126}$] [$0H_{126}$] [$0L_{127}$] [$0H_{127}$] [$0L_{CS}$] [$0H_{CS}$] [F7] X 255 ブロック （数値は 16 進数）　ID No.　データ（128 x 2 = 256 バイト）　チェックサム（1 x 2 = 2 バイト）		

モード1：オムニ・オン、ポリ　　モード2：オムニ・オン、モノ　　○：あり
モード3：オムニ・オフ、ポリ　　モード4：オムニ・オフ、モノ　　×：なし

This recycle mark indicates that the packaging conforms to the environmental protection legislation in Germany.

これは、梱包箱がドイツの環境保護法に適合していることを示すリサイクルマークです。

CASIO

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

MA9709-C Printed in U.S.A.
CTK601JA-1